

クラス		受験番号	
出席番号		氏名	

#1高1
手引き

2012年度

第1回 全統高1模試

学習の手引き

(解答・解説集)

2012年5月実施

英語	1
----	---

オーラル・コミュニケーション	27
----------------	----

数学	31
----	----

国語	86
----	----

河合塾

【英語】

『学習の手引き』を読むにあたって

(1) 『学習の手引き』について

この『学習の手引き』はすべての問題に対して、原則として、問題がそのまま印刷されています。したがって、この『学習の手引き』をもう一度しっかりと読み直すことで、問題のねらいを確認し、その定着をはかることができるようになっています。どうか、皆さんの学習に十分役立てて下さい。その際、この『学習の手引き』で用いた記号・略号について理解した上で、読み進んで下さい。

(2) 『学習の手引き』の組み立て

各設問の冒頭にある☆☆☆のマークはその設問の難易度を示しています。現時点での自分の学力を確かめて、今後の学習の指針にして下さい。

★☆☆ 基本

★★☆ 標準

★★★ 発展

【設問別解説】 問題を解くために必要な知識と解き方の解説です。

□ 解答のポイントや正解に至る筋道を示してあります。

▷ 参考例文

File この枠内では問題を解く上で前提となる基本的知識や発展的情報をまとめています。

【本文解説】 長文問題での英文本体の文ごとの訳と解説です。①, ②, ③…は文番号を示します。

(3) 『学習の手引き』で用いた略号と表記

S 主語（原則として名詞）

V 動詞

O (O_1 / O_2) 動詞の目的語（原則として名詞）

C 補語（原則として名詞・形容詞・分詞）

A / B （原則として）名詞

to do to不定詞

do 原形不定詞（to のつかない不定詞）

doing 現在分詞もしくは動名詞

done 過去分詞

does 現在形

did 過去形

have done 完了形

イタリック体(なまになっている文字)の部分にはさまざまな動詞がくることを示す。

that 節 接続詞 that によって導かれる節

(that S V ...)

wh-節 when / where / why / how / whether などに導かれる節

[] 言い換えることができる語(句)

() 省略することができる語(句)

/ 2つ以上の単語あるいは表現を併記する場合。

1 発音、会話、広告文の読み取り

【解答】

- A (1) ア (2) ウ (3) ウ (4) エ
B (1) ウ (2) ア
C (1) オ (2) ア (3) イ (4) エ

【配点】(20点)

A 各1点×4 B 各2点×2

C 各3点×4

【設問別解説】

A

(1) ★★★ [母音字 a の発音]

ア. anger	/æŋgər/	「怒り」
イ. behave	/bihēiv/	「ふるまう」
ウ. dangerous	/dēindʒərəs/	「危険な」
エ. headache	/hēdeik/	「頭痛」

④ anger の下線部の発音は /æ/。

④ behave, dangerous, headache の下線部の発音は /eɪ/。

④ したがって、正解はア. anger。

(2) ★★★ [母音字 i の発音]

ア. decision	/dɪsɪʒn/	「決定」
イ. driven	/drīvn/	drive 「運転する」 の過去分詞
ウ. technique	/tekník/	「技術」
エ. wisdom	/wízdəm/	「知恵」

④ technique の下線部の発音は /i:/。

④ decision, driven, wisdom の下線部の発音は /i:/。

④ したがって、正解はウ. technique。

(3) ★★☆ [母音字 o の発音]

ア. ocean	/óuʃən/	「大洋」
イ. photo	/fóutou/	「写真」
ウ. possible	/pásəbl/	「可能な」
エ. sofa	/sóufə/	「ソファー」

④ possible の下線部の発音は /a:/。

④ ocean, photo, sofa の下線部の発音は /ou:/。

④ したがって、正解はウ. possible。

(4) ★★★ [母音字 e の発音]

ア. devil	/dēvl/	「悪魔」
----------	--------	------

イ. effort	/éfərt/	「努力」
ウ. energy	/énərdʒi/	「エネルギー」
エ. species	/spíʃiz/	「(生物)種」

④ species の下線部の発音は /i:/。

④ devil, effort, energy の下線部の発音は /e/。

④ したがって、正解はエ. species.

日本語の母音はア・イ・ウ・エ・オの5つだが、英語の母音は10以上ある。26のアルファベットのうち、母音を表すものはa・e・i/y・o・u(yは子音を表すこともある)で、これを母音字と呼んでいる。以下にそれぞれの母音字の発音を示しておこう。

① aの発音

/æ/	accident
/eɪ/	ache
/a:/	father
/ɑ/	swan
/ɔ:/	ball
/e/	many
/i/	sausage
/ə/	about

② eの発音

/e/	every
/i:/	equal
/ɪ/	pretty

*cake, bite のように単語が「アクセントのある母音字+子音字+e」で終わる語末のeは発音されない。

③ iの発音

/ɪ/	rich
/aɪ/	drive
/i:/	police

④ oの発音

/a/	stop
/ʌ/	son
/ɔ:/	coffee
/oʊ/	joke
/u:/	move

⑤ uの発音

/ʌ/	cut
/u/	bush
/ju:/	future
/ʊ:/	rule
/i/	busy

/e/ bury

File 1

B

(1) ★★☆ [I have no idea.]

A : It's been raining hard for five days on end.

B : Yeah, I am so sick of it.

A : How long do you think it will last?

B : (1). Let's check the weather forecast.

ア. No way

イ. No kidding

ウ. I have no idea

エ. I'm afraid not

A : もう5日もずっと激しい雨が続いていますね。

B : ええ、もううんざりです。

A : どれくらいこの雨が続くと思いますか？

B : (1). 天気予報を調べてみましょう。

ア. ありえませんね

イ. 冗談でしよう

ウ. わかりません

エ. 残念ながらそうではないようですね

【 空所は、A の How long do you think it will last? 「どれくらいこの雨が続くと思いますか？」という問い合わせに対する答えになっている。空所のあとでBが Let's check the weather forecast. 「天気予報を調べてみましょう」と提案していることから、Bがどれくらい雨が続くのか自分ではわからなかったのだと考えられる。】

【 したがって、正解はウ. I have no idea 「わかりません」。】

No を用いる応答の定型表現

・ No way. 「ありえない」

▷ She looks young, so she must be in her twenties.

No way. I heard she is over forty.

「彼女は若く見えるから、きっと20代ですね」「ありえませんね。彼女は40歳を過ぎていると聞いてます」

・ No kidding. 「冗談でしよう」

▷ He is said to have earned one hundred million yen last year.

No kidding.

「彼は去年1億円稼いだと言われています」

「冗談でしよう」

・ No idea. 「わかりません」

▷ Do you know what this sign means?

No idea.

「この記号の意味がわかりますか？」

「わかりません」

File 2

(2) ★★☆ [That depends.]

A : I'd like to make a reservation for one night on May 11th.

B : I'm very sorry, but we are full that day.

A : Aren't you likely to have any cancellations at this time of year?

B : (2), but if you write your name and phone number here, we will be pleased to contact you as soon as any room becomes available.

ア. That depends

イ. That's true

ウ. That's too bad

エ. That's it

A : 5月11日に1泊の予約をしたいのですが。

B : 申し訳ありませんが、その日は満室でございます。

A : 1年のうちでこの時期にはキャンセルが出ることはありますか。

B : (2), ですがこちらにお名前とお電話番号を書いていただければ、お部屋が空き次第こちらから連絡させていただきます。

ア. 状況次第ですね

イ. 確かにそうです

ウ. お気の毒に

エ. まさにそうです

【 ホテルのフロントでのやりとり。】

【 空所は、A の Aren't you likely to have any cancellations at this time of year? 「1年のうちでこの時期にはキャンセルが出ることはありますか？」という問い合わせに対する答えになっている。空所のあとでBが、部屋が空き次第連絡すると伝えていることから、Bはこの時点ではキャンセルが出るかどうか

うかわからぬ状況だと考えられる。

◎したがって、正解はア. That depends 「状況次第ですね」。

That を用いる応答の定型表現

・ That depends. 「状況次第です」

▷ Can you finish the task by tomorrow?

That depends.

「明日までにその仕事を終えられそうですか」

「状況次第ですね」

・ That's true. 「確かにそうですね」

▷ We should get rid of outdated laws.

That's true.

「時代遅れの法律はなくすべきです」

「確かにそうですね」

・ That's too bad. 「お気の毒に」

▷ I broke my leg yesterday.

That's too bad.

「昨日足の骨を折ってしまいました」

「お気の毒に」

・ That's it. 「まさにそうです」

▷ Isn't this what you've been looking for?

That's it.

「探していたのはこれじゃないですか」

「まさにそうです」

File 3

C ★★☆

(1) A: To prepare for an exam, this one is good and they have been providing good programs for foreign students for a long time.

B: I'm interested in it too, because I can use the university library and have opportunities to communicate with Australian students.

(2) A: This one offers a wide variety of language courses besides French and Japanese, but there's no information about course periods.

B: It seems to be such a multicultural school! How many teachers from how many countries? I can't imagine.

(3) A: This one also has a lot of language choices. I have to work part-time this

summer, so it's convenient for me if it has evening classes focused on business.

B: Over ten weeks to learn a new language is ideal, but I have only two months to attend the course.

(4) A: This one offers three different courses with details about how long they are.
B: Yeah, the shortest is 10 days and the longest is about 2 months.

(1) A: 試験の準備のためだったらこれがいいね、それに留学生のためのいいプログラムも長い間提供してるしね。

B: 僕もこれに興味があるね。大学の図書館が使えるし、オーストラリアの学生と話をする機会があるからね。

(2) A: ここにはフランス語と日本語以外にもすごくたくさんの外国語の講座があるけど、講座の期間については何も情報が書いてないね。

B: ここはかなりマルチ文化の学校みたいだね。どれくらいの国からどれだけの先生が来てるんだろう。想像できないよ。

(3) A: ここもいろいろな外国語が選べるよ。今年の夏はアルバイトもしなきゃいけないから、ビジネス用の会話を中心に扱う夜間クラスがあるなら都合がいいな。

B: 新しい外国语を学ぶのに10週間以上かけるのは理想的だけど、僕が授業に出席できるのは2ヶ月だけなんだ。

(4) A: ここには3つ異なる講座があって、期間のこととも詳しく書いてあるよ。

B: そうだね、一番短いのが10日間で一番長いのは約2ヶ月だ。

ア.

インターナショナル語学センター

フランス語と日本語

夏期集中講座

その他の言語:

北京語・広東語・タイ語・ベトナム語・
韓国語・インドネシア語・英語・スペイン語・
イタリア語・ドイツ語・ロシア語

詳細はこちらへ：
入学事務局
5 Bligh Street, Sth. Sydney, 2000
Tel: 295 4561 Fax: 235 4714

イ.

グローバル語学研修センター

世界最高の語学学校の1つが
シドニーにあります
10~20週間で新しい外国語を学ぼう
最新の教授法
昼間・夜間とも講座あり
ビジネス会話・旅行会話
9カ国語から選べます
電話でのお問い合わせは 938 0977

ウ.

場所を変えて英語を学びませんか？

美しいスワン河のほとり、
バースにあるのは…
・インド洋に面したすてきなビーチ
・質の高い設備とスタッフ
・寮またはホームステイでの宿泊

英語集中講座
・10週間単位
・さまざまな文化の人方が参加するクラス
・費用：10週ごとに2,000ドル

詳細はこちらへ：
TAFE インターナショナル
Level 5, 1 Mill Street,
Perth 6000, Western Australia
電話：619 320 3777

エ.

フランス語 夏期講座

社会人 特訓コース 1月9~19日
午前または夜間 30時間 250ドル
(入門~初・中級のみ)

社会人 一般コース 1月9日~3月4日
週2回—午前または夜間 2時間
週1回—土曜 9:00a.m.~1:30p.m.
32時間 278ドル

高校生 特訓コース 1月11~25日
1日3時間 1:00p.m.~4:00p.m.
24時間 200ドル

クラブ・フランセ
27 Claire St, Sydney, 電話 227 1746

オ.

キャンベラ大学

オーストラリアの首都で英語を学ぼう
・34年以上留学生に良質のプログラムを提供
してきた実績
・試験対策・大学施設の利用が可能
・学内で授業があり、オーストラリアの学生
と会話をする機会があります

(1)

- ④ 会話から「試験対策」「留学生のための良質のプログラムを長期間提供」「大学の図書館の利用」「オーストラリアの学生と話をする機会」といった情報が読み取れる。
- ⑤ オに「34年以上留学生に良質のプログラムを提供してきた実績」「試験対策」「大学施設の利用が可能」「オーストラリアの学生との会話の機会があります」などと書かれている。
- ⑥ したがって、正解はオ。

(2)

- ④ 会話から「フランス語と日本語以外にも多くの外国語の講座」「講座の期間の情報がない」「マルチ文化の学校」といった情報が読み取れる。
- ⑤ アでは、フランス語・日本語夏期集中講座のほかに多くの外国語が挙げられており、講座の期間などの具体的な情報が書かれていない。
- ⑥ したがって、正解はア。

(3)

- ④ 会話から「多くの外国語からの選択」「ビジネス会話を扱う夜間の講座」「新しい外国語を学ぶのに10週間以上かかる」といった情報が読み取れる。
- ⑤ イには「10~20週間で新しい外国語を学ぼう」「昼間・夜間とも講座あり」「ビジネス会話・旅行会話」

「9カ国語から選べます」などと書かれている。

【解答】したがって、正解はイ。

(4)

会話から「3つ講座があり、期間について詳しく書いてある」「最も短い期間が10日間で最も長い期間が約2カ月」といった情報が読み取れる。

エでは、社会人・高校生で合計3つの講座があること、最短の講座が1月9日～19日(10日間)、最長の講座が1月9日～3月4日(約2カ月)であることが書かれている。

【解答】したがって、正解はエ。

【語い・表現】

- prepare for A 「Aの準備をする」
- provide O 「Oを提供する」
- opportunity 「機会」
- communicate with A 「Aと意思疎通する、話をする」
- offer O 「Oを提供する」
- a wide variety of A 「幅広い種類のA、さまざまなA」
- course 「講座」
- besides A 「Aに加えて、Aのほかに」
- period 「期間」
- seem to be C 「Cのように思われる」
- multicultural 「多文化の、マルチ文化の」
- imagine 「想像する」
- choice 「選択(肢)」
- work part-time 「アルバイトをする」
- convenient 「都合がよい」
- evening class 「夜間のクラス」
- be focused on A 「Aに焦点を当てる、Aを中心にはじむ」
- ideal 「理想的な」
- attend O 「Oに出席する」
- detail 「詳細」

2 語い・熟語

【解答】

- | | |
|---------------------|--|
| A (1) ウ (2) ク (3) キ | |
| (4) エ (5) カ | |
| B (1) ア (2) イ (3) オ | |
| (4) エ (5) ウ | |

【配点】(20点)

A 各2点×5 B 各2点×5

【設問別解説】

A [名詞の定義]

★★★

(1) () is the study of the relationships of living things to each other and to their environment.

(2) () is the study of the human mind and the reasons for people's behavior.

(3) () is the study of numbers, quantities, or shapes.

(4) () is the study of the way in which money, industry, and trade are organized.

(5) () is the study of past events in human affairs.

ア. Astronomy イ. Chemistry

ウ. Ecology エ. Economics

オ. Geography カ. History

キ. Mathematics ク. Psychology

ア. 天文学 イ. 化学

ウ. 生態学 エ. 経済学

オ. 地理学 カ. 歴史学

キ. 数学 ク. 心理学

以下に各設問の訳と解答を示す。

(1) 「()は、生物の互いとの関係、および環境との関係についての学問である」

正解はウ. Ecology 「生態学」。

(2) 「()は、人間の精神、および人間の行動的理由についての学問である」

正解はク. Psychology 「心理学」。

(3) 「()は、数、量、図形についての学問である」

正解はキ. Mathematics 「数学」。

(4) 「()は、金銭や産業、通商がどのように秩序立てられているかについての学問である」

正解はエ. Economics 「経済学」。

(5) 「()は、人間がかかわる諸事における過去の出来事についての学問である」

正解はカ. History 「歴史学」。

B [(動詞+前置詞・副詞)の形の熟語]

(1) ★★★

He is leaving () New York tomorrow.

The president called () an explanation of the situation.

「彼は明日ニューヨークに発ちます」
「社長は状況の説明を求めた」

留め置く A で「Aに向けて発つ」の意味。call for A で「Aを要求する」の意味。

したがって、正解はア. for。

(2) ★★★

The accident resulted () the driver's carelessness.

Your opinion entirely differs () mine.

「その事故は運転者の不注意により起こった」
「あなたの意見は私の意見とまったく異なっている」

result from A で「Aにより起こる」の意味。differ from A で「Aとは異なる」の意味。

したがって、正解はイ. from。

(3) ★★★

She brought () three children while working.

Shall I come and pick you () at the airport?

「彼女は働きながら3人の子どもを育てた」
「空港にあなたを車で迎えに行きましょうか」

bring O up / bring up O で「Oを育てる」の意味。pick O up / pick up O で「Oを車で迎えに行く」の意味。

したがって、正解はオ. up。

(4) ★★☆

It is impossible to carry () the plan at present.

He pointed () several spelling mistakes in my paper.

「今のところその計画を実行するのは不可能だ」
「彼は私のレポートのつづりの間違いをいくつか指摘した」

carry O out / carry out O で「Oを実行する」の意味。point O out / point out O で「Oを指摘する」の意味。

したがって、正解はエ. out。

(5) ★★★

The game was put () because of the heavy snow.

I went to the station to see my grandparents ().

「試合は大雪のため延期された」
「私は駅まで祖父母を見送りに行った」

put O off / put off O で「Oを延期する」の意味。本問では be put off 「延期される」と受動態で用いられている。see O off (通例 see off O の形はとらない) で「Oを(駅、空港などで)見送る」の意味。

したがって、正解はウ. off。

③ 文法

【解答】

A (1) ウ (2) エ (3) ウ
(4) ア (5) エ

B (1) エ→does
(2) イ→refuse
(3) ア→is
(4) イ→raise
(5) ア→work

【配点】(20点)

A 各2点×5 B 各2点×5

【設問別解説】

A

(1) ★★☆ [間接疑問]

Everyone knows ().

ア. this is what イ. is this what
ウ. what this is エ. what is this

「誰もがこれが何なのか知っている」

know は他動詞なので空所には目的語がくると考える。

「これは何ですか」を問う文は What is this? となる。この疑問文を knows の目的語になる名詞節として文中に組み込むと、what this is の語順になる。

したがって、正解はウ. what this is。

間接疑問

疑問文が文の中に組み込まれて節になる場合を間接疑問と言う。次の2点に注意。

- ・節内はS+Vの語順(平叙文の語順)である。
- ・節全体は名詞節で、主語・目的語・補語になる。

① What is his girlfriend like?

「彼の恋人はどんな人なの」

② Do you know it?

「あなたはそれを知っていますか」

①の文が②の文のit(目的語)の位置にくくると次のようになる。

▷ Do you know what his girlfriend is like?

「あなたは彼の恋人がどんな人なのか知っていますか」

File 4

(2) ★★☆ [tell O that SV ...]

Kaori () me that she wanted to become a jazz pianist.

- ア. said イ. spoke
- ウ. talked エ. told

「カオリはジャズピアニストになりたいと私に言った」

Ⓐ 空所の後がme that she wanted ... (O that SV ...)の形になっている。

Ⓑ 動詞tellにはtell O that SV ...で「Oに…だと言う」という意味を表す用法がある。

Ⓐ したがって、正解はエ. told。

「…に～を言う・話す」を意味する動詞の用法

・say: 基本的に他動詞

say O to A 「AにOを言う」

say to A that SV ... 「Aに…だと言う」

・tell: 基本的に他動詞

tell O₁ O₂ 「O₁にO₂を言う」

tell O that SV ... 「Oに…だと言う」

tell O about A 「OにAのことを話す」

・talk: 基本的に自動詞

talk to A about B 「AにBのことを話す」

・speak: 基本的に自動詞。ただし「O(言語)を話す」の場合は他動詞。

speak to A about B 「AにBのことを話す」

File 5

(3) ★★☆ [過去進行形]

I () tennis on TV when my mother called me.

- ア. am watching イ. have watched
- ウ. was watching エ. will watch

「母が私に電話をしたとき、私はテレビでテニスを見ていきました」

Ⓐ when my mother called me 「母が私に電話をしたとき」とあるので、空所には過去の事柄がくる。選択肢の中で過去の事柄を表すのはwas watchingだけである。

Ⓑ was [were] doing(過去進行形)は過去のある時点での「進行中」の動作を表し、「(その時)…していた」という意味になる。

Ⓐ したがって、正解はウ. was watching。

(4) ★★☆ [補語になる形容詞]

What's the matter with you? You look ().

- ア. angry イ. angrily
- ウ. like angry エ. like angrily

「君一体どうしたの。怒っているように見えるけど」

Ⓐ 動詞lookはlook C(形容詞)の形で用いて「Cに見える」という意味を表す。

Ⓑ C(補語)には副詞はこないので「怒っているように見える」はlook angryとする。

Ⓒ なお、名詞を続ける場合にはlook like A「Aのよう見える」の形になる。

Ⓐ したがって、正解はア. angry。

〈動詞+C(形容詞)〉と〈動詞+like+A(名詞)〉

・look C / look like A 「…に見える」

▷ She looks happy.

「彼女は幸せに見える」

▷ She looks like a princess.

「彼女はお姫様のように見える」

・feel C / feel like A 「…に感じる」

▷ This cloth feels smooth.

「この生地はなめらかな手ざわりだ」

▷ This cloth feels like silk.

- 「この生地は絹のような手ざわりだ」
- taste C / taste like A 「…の味がする」
 - ▷ It **tastes** sweet.
「それは甘い味がする」
 - ▷ It **tastes like** chocolate.
「それはチョコレートのような味がする」
 - sound C / sound like A 「…に聞こえる」
 - ▷ The story **sounds** strange.
「その話は奇妙に聞こえる」
 - ▷ The story **sounds like** an excuse.
「その話は言い訳のように聞こえる」

File 6

(5) ★☆☆ [感嘆文]

- () in this garden!
- ア. How beautiful flowers are there
 - イ. How beautiful flowers there are
 - ウ. What beautiful flowers are there
 - エ. What beautiful flowers there are

「この庭にはなんときれいな花があるのでしょ
う」

- ▣ 文尾に感嘆符があるので、感嘆文だと考える。
- ▣ 選択肢から、ここでは There are beautiful flowers. という文の名詞 beautiful flowers を強調する感嘆文だと考える。
- ▣ したがって、正解は エ. **What beautiful flowers there are.**

感嘆文

- What + (a) + 形容詞 + 名詞 + SV ... !
▷ This is a very pretty cat.
→ **What a pretty cat this is!**
「これはなんとかわいいネコでしょう」
- How + 形容詞 [副詞] + SV ... !
▷ This cat is very pretty.
→ **How pretty this cat is!**
「このネコはなんてかわいいんでしょう」
- ▷ She sings very well.
→ **How well she sings!**
「彼女はなんて上手に歌をうたうんでしょ
う」

File 7

B

(1) ★★☆ [付加疑問]

They say Taro is a heavy smoker. But he never smokes in front of us. Doesn't he?

「タロウはヘビースモーカーだとみんな言っている。しかし、彼はぼくらの前ではタバコを全然吸わないよね」

- ▣ 正解は、エ → **does**.
- ▣ **doesn't he?** は肯定文の文尾に付け加える用法(付加疑問)。
- ▣ ここでは never smokes と否定文となっているので、**does he?** としなくてはならない。
- ▣ したがって、エを **does** にする必要がある。

付加疑問文

「…ですよね」と念を押すときや同意を求めるときに使う形を付加疑問文と言い、(平叙文+短縮の疑問形)を用いる。主節の動詞がbe動詞ならbe動詞を、一般動詞なら一般動詞を、助動詞がついていれば助動詞を用いた疑問形をつける。

1. 肯定文の後には否定の疑問形をつける。
▷ Kumi is honest, isn't she?
「クミは正直ですよね」
- ▷ She likes spaghetti, doesn't she?
「彼女はスパゲッティが好きですよね」
2. 否定文の後には肯定の疑問形をつける。
▷ You aren't angry, are you?
「怒ってないですよね」
- ▷ They don't like natto, do they?
「彼らは納豆が好きじゃないですよね」
- ▷ She never drinks, does she?
「彼女はお酒を全然飲まないですよね」
- ・相手に念を押すときは文尾を上がり調子(↑)で、相手に同意を求めるときは文尾を下がり調子(↓)で発音するのが原則。

File 8

(2) ★☆☆ [助動詞+動詞の原形]

I thought that my sister would probably refused the offer made by her boss.

「姉さんは上司からの申し出をたぶん断るだろ

うと私は思った」

正解は、イ → refuse。

助動詞に続く動詞は原形でなければならない。

なお、ここでの would は「過去の時点から見た未来」を表している。

したがって、イを refuse にする必要がある。

(3) ★★★ [時・条件の副詞節中の時制]

If the weather will be fine tomorrow,
we'll have a ball game in the nearby
park.

「明日天気が良ければ、ぼくらは近所の公園で野球をします」

正解は、ア → is。

If SV ..., SV ~ の形になっているので、If the weather will be fine tomorrow は「条件」を表す副詞節である。「時」や「条件」を表す副詞節の中では、未来のことでも現在形で表す。

したがって、アを is にする必要がある。

「時」・「条件」の副詞節における未来表現

「時」や「条件」を表す副詞節の中では、未来の事柄でも will を用いず、現在形で表すのが原則。

1. 「時」を表す副詞節の場合

When you **arrive** there tomorrow, will you phone me?

「明日そこへ着いたら電話をくれませんか」

He will return to work as soon as he **gets** well again.

「再び元気になったらすぐに彼は仕事に復帰するだろう」

・「時」を表す副詞節を導く接続詞には、when, after, before, till[until], as soon as などがある。

2. 「条件」を表す副詞節の場合

If I **have** time next week, I will visit you.
「来週時間があればあなたのところに行きます」

Once you **know** how to ride a bike, you will never forget it.

「自転車の乗り方はいったん覚えると忘れることはない」

・「条件」を表す副詞節を導く接続詞には、if,

once, unless などがある。

File 9

(4) ★★☆ [rise と raise]

Jiro is so shy that he doesn't rise his hand to ask questions in class.

「ジローはとても恥ずかしがり屋なので、授業中に質問するために手をあげません」

正解は、イ → raise。

イの後には his hand と名詞が続いている。したがって、イには他動詞がくる。

rise は「あがる」という意味の自動詞。raise は「~をあげる」という意味の他動詞。

したがって、イは raise にする必要がある。

(5) ★★★ [不可算名詞]

I'm sorry I have a lot of works to do tonight, so I can't attend the party.

「残念ながら今晚はすべき事がたくさんあるのです。ですから、そのパーティーには出席できません」

正解は、ア → work。

名詞 work が works と複数形で用いられているので「(芸術などの)作品」の意味になるが、ここでは文意が成り立たない。

work が「仕事、勉強」という意味の場合は不可算名詞なので複数形にすることはできない。

したがって、アは work にする必要がある。

不可算名詞の用法

注意すべき不可算名詞には次のようなものがある。

furniture 「家具」 / luggage [baggage] 「手荷物」 / information 「情報」 / news 「ニュース」 / advice 「忠告/アドバイス」 / homework 「宿題」

(1) 不可算名詞には a はつかない。また、複数語尾の -s がつくこともない。

(2) 「量」の多少は much [a lot of] / (a) little などで表す。

The coach doesn't give us much advice.

「コーチが私たちにあまりアドバイスするこ

とはい

- (3) 「1つ / 2つ…」と数えるときには、たとえば a piece of advice / two pieces of advice というような表現を用いる。

▷ Let me give you a piece of advice.
「ひとつ忠告させてください」

File 10

4 英作文

【解答】

- A (1) You [had better get home before night comes].
(2) Momoko [asked Sakura to take care of] her house.
(3) [How much of the DVD did you watch?
(4) I [have nothing more to tell you].
(5) The tickets for [the concert were sold out as soon as] they went on sale.
- B (1) Because it was cold, I made hot soup for breakfast.
(2) It is necessary for you to read English as fast as you can without using a dictionary.

【配点】(40点)

A 各4点×5 B 各10点×2

【設問別解説】

A

- (1) ★★☆ [had better do]

夜にならないうちに帰宅しなさい。

You [get / night / better / comes / before / had / home].

▷ 「…しなさい」は had better do で表現できる。

▷ 「帰宅する」は「家に着く」と考え、get home で表せる。

▷ 「夜にならないうちに」は「夜が来る前に」と考え、before night comes で表すことができる。

▷ したがって正解は、**You had better get home before night comes.**

- (2) ★☆☆ [ask O to do]

モモコは、サクラに家の留守番をしてくれるよ

うに頼んだ。

Momoko [take / Sakura / to / of / asked / care] her house.

▷ 「サクラに…してくれるよう頼んだ」は、ask O to do 「Oに…するよう頼む」を用いて asked Sakura to do で表すことができる。

▷ 「家の留守番をする」は「家の世話をする」と考え、take care of her house で表せる。

▷ したがって正解は、**Momoko asked Sakura to take care of her house.**

- (3) ★★☆ [How much of A ...?]

あなたはそのDVDをどのくらい見ましたか。
[you / the DVD / of / how / did / much] watch?

▷ 「そのDVDをどのくらい」は「そのDVDのどのくらいを」と考え、How much of the DVD で表すことができる。of the DVD は How much の直後に置くことに注意。

▷ 「…をあなたは見ましたか」は did you watch で表す。

▷ したがって正解は、**How much of the DVD did you watch?**

- (4) ★★★ [have nothing more to do]

私にはあなたに話すことはこれ以上何もない。
I [more / tell / have / you / nothing / to].

▷ 「あなたに話すことはこれ以上何もない」は「あなたに話すべき、より多くのことを何も持っていない」と考える。

▷ 「あなたに話すべきことを何も持っていない」は、不定詞を用いて have nothing to tell you で表現できる。to tell you は後ろから nothing を修飾している。

▷ 形容詞が nothing を修飾するときには直後に置く。よって、「より多くの」は more で表し、nothing の直後に続ける。

▷ したがって正解は、**I have nothing more to tell you.**

- (5) ★★☆ [as soon as SV ...]

そのコンサートのチケットは発売と同時に売り切れた。

The tickets for [out / soon / the concert /

as / sold / as / were] they went on sale.

⑤「そのコンサートのチケット」は The tickets for the concert で表せる。

⑥「売り切れた」は「売りつくされた」と考え、sell O out / sell out O 「Oを売りつくす」を受動態で用いて were sold out で表現できる。

⑦「…と同時に」は「…するとすぐに」と考え、as soon as SV … で表すことができる。

⑧ したがって正解は、**The tickets for the concert were sold out as soon as they went on sale.**

B

(1) ★★☆ [理由の副詞節]

寒かったので、私は朝食に熱いスープを作った。
(Because it で始めて)

⑨「…なので、～」は、指示にしたがって Because S + V …, SV ~ で表す。

⑩ 寒暖を示す表現は it を主語にして表すことができる。「寒かった」は it was cold で表せる。

⑪「スープを作った」は made soup で表現できる。

⑫「朝食に」は for breakfast で表し、文末に置く。

⑬ したがって正解は、**Because it was cold, I made hot soup for breakfast.**

(2) ★★★ [形式主語]

あなたは、辞書を使わずにできるだけ速く英語を読むことが必要だ。(It で始めて)

⑭「…を読むことが必要だ」は、形式主語の It で始めて It is necessary to read … で表現できる。

⑮「あなたは」は for you で表し、不定詞の意味上の主語を示す表現として to read の直前に置く。

⑯「できるだけ…」は as … as S can で表すことができる。「できるだけ速く」は S の人称を不定詞の意味上の主語に合わせて as fast as you can で表す。または、as fast as possible としてもよい。

⑰「辞書を使わずに」は、without doing 「…せずに」を用いて without using a dictionary で表せる。または、「辞書なし」と考え without a dictionary としてもよい。

⑱ したがって正解は、**It is necessary for you to read English as fast as you can without using a dictionary.**

5 総合問題

【解答】

A 問1 ア 問2 エ 問3 イ
問4 エ 問5 エ
B ア, オ, ク (順不同)

【要旨】

ボビー、ピーター、フィリスの兄弟姉妹は、日頃親切なパークスに誕生日のプレゼントを贈ることにした。ピーターの思いつきで、村人たちからもプレゼントを集めることになった。誕生日の当日、子どもたちはみんなのプレゼントを携えてパークスの家に行った。初めは施しを受けたと思ったパークスは腹を立てたが、子どもたちの話を聞いて快くプレゼントを受け取ることにした。

【配点】(40点)

A 各5点×5 B 各5点×3

【本文解説】

【第1段落】

①It was breakfast time. ②Three children looked at each other. ③Then Bobbie said, 'Can we have the cakes on Thursday instead of today? ④It's Perks' birthday on Thursday.'

⑤'How do you know?' asked Mother.

⑥'I showed him my brooch — the one you gave me for my birthday — and I asked him about his birthday. ⑦He said it was on the 15th,

①朝食の時間だった。 ②3人の子どもたちがお互いに目を合わせた。 ③それからボビーが言った。「私たち、今日じゃなくて木曜日にケーキを食べることにできないかしら。 ④木曜日はパークスさんの誕生日なの」

⑤「どうして知っているの」と母がたずねた。

⑥「パークスさんに私のブローチを見せたの — 母さんが誕生日にくれたものよ — それからパーク

and that's Thursday.'

⑧'And we thought we could make a birthday tea for him,' said Peter. ⑨'He's been very good to us.'

⑩'All right,' said Mother.

⑪But cakes didn't seem a very exciting birthday present.

- each other 「お互い」 · instead of A 「Aではなく、Aの代わりに」 · show O₁ O₂ 「O₁にO₂を見せる」
- brooch 「ブローチ」 · ask O about A 「OにAについて聞く」 · a birthday tea 「誕生日のお茶の会」
- all right 「申し分ない」 · seem (to be) C 「Cに思える」 · not very ... 「あまり...ない」
- exciting 「わくわくさせる、わくわくするような」

⑥ 1. one は brooch を指す代名詞。

2. you gave me for my birthday は関係代名詞 that [which] の省略された関係詞節で、先行詞は the one。
3. the one you gave me for my birthday は my brooch の補足説明。

〔第2段落〕

⑫'We can give him flowers,' said Bobbie, when they were discussing it in the garden, later that day.

⑬Then Peter hit upon an idea. ⑭'Perks is nice to everybody,' he said. ⑮'There must be lots of people in the village who will want to help us give him a nice birthday. ⑯Let's ask everybody.'

⑰Bobbie wasn't sure. ⑯'Mother said we shouldn't ask people for things.'

⑯'Not for ourselves,' said Peter. ⑯'It's all right to ask for other people.'

- discuss O 「Oについて話し合う」 · later that day 「その日その後で」 · hit upon A 「Aを思いつく」
- there must be A 「Aがいる[ある]にちがいない」 · lots of A 「たくさんの中」
- help O do 「Oが…するのを手伝う」 · be sure 「確信している」 · ask O for A 「OにAを求める」
- it is all right to do 「…するのは問題ない」

⑯ who will want ... birthday は関係詞節(who は主格の関係代名詞)で、先行詞は lots of people。

〔第3段落〕

⑰So, on Tuesday morning, they went to the village. ⑱Some people were kind, and some were not.

⑲'It's my birthday tomorrow,' said old Mrs. Ransome at the Post Office. ⑳'Nobody will remember mine. ㉑Why should I give anything to Perks? ㉒Go away!'

㉓But other people gave things — a pipe, a tin of tea, a walking stick — and still others

スさんに彼の誕生日のことを聞いたの。 ㉔パークスさんは15日だと言ったわ。それって木曜日よ」

㉕「それで僕たち、パークスさんのために誕生日のお茶の会ができると思ったんだ」とビーターが言った。㉖「パークスさんは僕たちに本当によくしてくれるから」

㉗「いいわよ」と母が言った。

㉘しかし、ケーキはあまりわくわくするような誕生日プレゼントとは思えなかった。

㉙その日、その後で、庭でプレゼントについて話し合っていると、ボビーは「パークスさんにお花を贈ることができるわ」と言った。

㉚そのとき、ビーターはアイデアが浮かんだ。㉛「パークスさんはみんなにやさしくしてくれる」と彼は言った。㉜「僕たちがパークスさんのために、すてきな誕生日を祝うのを手伝いたいと思う人は、村にたくさんいるにちがいないよ。㉝みんなに頼んでみよう」

㉞ボビーは確信が持てなかった。㉟「人にものを求めてはいけないと母さんが言っていたわ」

㉟「自分たちのためじゃないよ」とビーターが言った。㉟「他の人のために求めるなら大丈夫だ」

㉛そこで火曜日の朝、子どもたちは村へ行った。

㉜親切な人もいたし、そうでない人もいた。

㉝「明日は私の誕生日よ」郵便局の年輩のランサム夫人が言った。㉞「誰も私の誕生日を覚えていないでしょう。㉟どうして私がパークスにものをあげなきゃいけないの? ㉟出でていってちょうだい」

㉟しかし、他の人たちはいろいろな物——パイプ、缶入りのお茶、ステッキ——をくれたし、さらに

promised to give small presents, too.

ちょっとしたプレゼントをくれると約束してくれる人も他にいた。

- ・ so 「そこで、だから」 ・ some people ..., and some ~ 「…する人もいれば~する人もいる」
- ・ go away 「出ていく」 ・ other 「他の」 ・ tin 「缶詰」 ・ walking stick 「ステッキ」
- ・ still 「さらに」 ・ others 「他の人たち」 ・ promise to do 「…すると約束する」

㉙ some were not は some people were not kind を簡略にしたもの。

㉚ a pipe, a tin of tea, a walking stick は前出の名詞 things の具体例。

[第4段落]

㉛ Early the next morning, Bobbie and Phyllis went into the garden and cut some roses. ㉜ They put them into a box with one of Bobbie's prettiest handkerchiefs. ㉝ Then they wrote on a piece of paper: *For Mrs. Ransome for her birthday, with our love*, and put it inside the box. ㉞ They took the box down to the Post Office, and put it inside the door when the old woman wasn't looking.

㉟ While his sisters were gone, Peter told his mother about Perks' presents. ㉟ 'We're doing it not because he's poor,' said Peter, 'but because we like him.'

㉟ 'I hope he understands that,' said Mother.

㉛ 次の日の早朝、ボビーとフィリスは庭に入っていき、バラを何本か切り取った。㉜それをボビーの一番きれいなハンカチの1枚と一緒に箱に入れた。㉝それから2人は、1枚の紙に「誕生日を祝って、ランサム夫人へ愛を込めて」と書いて、それを箱の中に入れた。㉞2人は箱を持って郵便局へ行った。それから年輩の夫人が見ていないときに、その箱をドアの内側に置いておいた。

㉟2人の姉妹が出かけている間に、ピーターは母親に、パークスさんに贈るプレゼントについて話した。㉟「僕たちが今こんなことをしているのは、パークスさんが貧しいからではないんだ」とピーターは言った。「僕たちが彼のことを好きだからだよ」

㉟「パークスさんがそのことをわかってくれるといいわね」と母が言った。

- ・ prettiest 「一番きれいな(pretty の最上級)」 ・ handkerchief 「ハンカチ」
- ・ a piece of paper 「1枚の紙」 ・ inside A 「Aの中に」 ・ take A (down) to B 「AをBに持つて行く」
- ・ while ... 「…している間」 ・ be gone 「出かけている」 ・ tell O about A 「OにAについて話す」
- ・ not because ... but because ~ 「…だからではなく、～だから」

[第5段落]

㉛ On Thursday morning, the children went to fetch the presents which other people had promised — eggs, meat, tomatoes. ㉜ The old lady at the Post Office was standing outside as they went by.

㉟ 'I want to thank you for the roses,' she said.

㉟ 'We're pleased you liked them,' said Bobbie.

㉟ 'And here's your box,' said Mrs. Ransome, giving it back to them. ㉟ It was now full of shiny red apples. ㉟ She smiled.

㉟ 'The Perks' children will like them. ㉟ And I've got a pram in the back of the shop. ㉟ It was for my daughter's first child, but the child died after six months. ㉟ I'd like Mrs. Perks to have it for her little boy. ㉟ Will you take it?'

㉟ 'Thank you,' said Bobbie. ㉟ 'We will.'

㉛木曜日の朝、子どもたちは他の人たちが約束したプレゼント—卵、肉、トマト—を受け取りに行った。㉜郵便局の年輩の夫人が、彼らが通りかかったとき、外に立っていた。

㉟「あなたたちにバラのことでお礼を言いたかったの」と彼女は言った。

㉟「バラを気に入っていただけで私たちは嬉しいです」とボビーが言った。

㉟「それから、ここにあなたたちの箱があるわ」と言ってランサム夫人は子どもたちに箱を返した。㉟箱は、今度はつやつやした赤いリンゴで一杯だった。㉟彼女は微笑んだ。

㉟「パークスさんのお子さんたちが気に入ってくれるでしょう。㉟それと店の裏に乳母車があるわ。㉟娘の最初の子ども用だったけど、その子は生後6ヶ月で死んだの。㉟パークス夫人に、幼い息子さん用にこれをもらってほしいわ。㉟あなたたち、

持って行ってくれるかしら」

⑭「ありがとうございます」とボビーは言った。

⑮「そうします」

- fetch O 「Oを取ってくる」 · outside 「外に」 · as ... 「…するときに」 · go by 「通り過ぎる」
- thank O for A 「OにAのことで礼を言う」 · be pleased (that) SV ... 「…して嬉しい」
- give O back to A 「OをAに返す」 · be full of A 「Aで一杯である」 · shiny 「輝いている」
- smile 「微笑む」 · the Perks' 「パークス一家の」 · I've got O 「私はOを持っている(=I have O)」
- pram 「乳母車」 · in the back of A 「Aの裏に」 · be for A 「A用である」
- would like O to do 「Oに…してもらいたい」

㉙ 1. which other people had promised は関係詞節(which は目的格の関係代名詞)で、先行詞は the presents。

2. eggs, meat, tomatoes は前出の名詞 the presents の具体例。

㉚ giving it back to them は現在分詞による副詞句。

㉛ the shop は郵便局を兼ねているお店。

㉜ We will は We will take it を簡略にしたもの。

〔第6段落〕

㉝ The children put all the presents in the pram, and they pushed it to the Perks' little house. ㉞ Mrs. Perks and her young children were surprised to see them.

㉟ 'We know it's Mr. Perks' birthday,' said Peter. ㉟ 'And we've brought some presents for him.'

㉞ The woman's eyes got bigger and bigger with surprise as each thing was taken from the pram.

㉟ 'Perks has never had a birthday like it!' she said.

㉞ The cakes and the presents were put on the table, and then the children hid in the other room when they heard Perks coming home from work. ㉞ They wanted to surprise him by jumping out and saying 'Happy birthday!' after he'd seen the presents.

- push O to A 「OをAまで押して行く」 · be surprised to do 「…して驚く」
- get bigger and bigger 「ますます大きくなる」 · with surprise 「驚いて」
- each 「それぞれの、一つ一つの」 · like A 「Aのような」 · hide 「隠れる」
- the other A 「もう一つのA」 · hear O doing 「Oが…しているのを聞く」
- come home from work 「仕事から帰宅する」 · surprise O 「Oを驚かす」
- by doing 「…することによって」 · jump out 「飛び出す」

㉝ 子どもたちは乳母車にプレゼントをすべて入れて、パークスの小さな家に向かって乳母車を押して行った。 ㉞ パークス夫人と幼い子どもたちは彼らを見て驚いた。

㉟ 「今日はパークスさんの誕生日ですね」とピーターは言った。 ㉟ 「それで僕たち、パークスさんにプレゼントを持ってきたんです」

㉞ 乳母車から一つ一つものが取り出されるごとに、夫人は驚いて目をますます大きく見開いた。

㉟ 「パークスにはこんな誕生日、一度もなかったわ」と夫人は言った。

㉟ ケーキやプレゼントがテーブルの上に並べられた。それからパークスが仕事から帰ってくるのが聞こえると、子どもたちはもう一方の部屋に隠れた。 ㉞ 彼がプレゼントを目についたら、飛び出して、「誕生日おめでとう」と言って彼を驚かせたかったからだ。

〔第7段落〕

㉟ 'What's all this?' they heard him say. ㉟ 'What's that pram doing here?' ㉞ His wife explained, but too quietly for the children to hear. ㉞ But they heard Perks shout, 'I'm not having any of it! ㉞ We've managed all these

㉟ 「これはみないたい何なんだ」とパークスが言うのが聞こえた。 ㉟ 「乳母車が何でここにあるんだ」 ㉞ 奥さんが説明したが、声が小さすぎて子どもたちには何を言っているのか聞こえなかった。

㉞ しかしパークスが怒鳴るのは聞こえてきた。「そ

years, asking people for nothing, and I'm not going to start taking things now. ⑫We may be poor, but we don't need charity.'

⑬Bobbie ran into the other room. ⑭'We thought you'd be pleased!' she cried.

⑮'We didn't mean to do anything wrong,' said Peter, following her.

⑯'I'll never be kind to anyone again!' said Phyllis, starting to cry.

⑰'Don't you understand?' said Perks. ⑱'People in the village will laugh at me. ⑲"Poor Perks, he can't take care of his own family. ⑳We have to give him things." ㉑That's what they'll be saying now.'

んなものはどれももらうつもりはない。 ⑪我々は人にものを求めずに、これまで何年もずっとなんとかやってきた。今になつてものをもらい始めるつもりなんてない。 ⑫我々は貧乏だが、施しなど必要としていないんだ」

⑬ボビーはもとの部屋へ走り込んで来た。 ⑭「あなたに喜んでもらえると私たちは思っていたの」とボビーは叫んだ。

⑮「僕たちは何も間違ったことをするつもりはなかったんです」とビーターは言って、ボビーの後にについて来た。

⑯「私は二度と誰にも親切なことはしないわ」とフィリスは言って、泣き始めた。

⑰「わからないのかい」とバークスは言った。

⑱「村の連中は私のことを笑い者にするだろう。

⑲『かわいそうなバークス、彼は自分の家族の面倒も見れないのさ。 ㉐彼にものを恵んでやらなきゃ』

㉑それが今連中の言っていることさ」

- ・hear O do 「Oが…するのを聞く」 ・explain 「説明する」
- ・too ~ for A to do 「~すぎてAは…できない」 ・quietly 「静かに、声を落として」
- ・shout 「叫ぶ、怒鳴る」 ・any of A 「Aのどれも」 ・manage 「なんとかやっていく」
- ・start doing 「…し始める」 ・S may V ..., but SV ~ 「(なるほど)…だが、～」 ・charity 「施し」
- ・mean to do 「…するつもりだ」 ・wrong 「間違っている」 ・follow O 「Oの後について来る」
- ・start to do 「…し始める」 ・laugh at A 「Aを笑う」 ・poor A 「かわいそうなA」
- ・take care of A 「Aの面倒を見る」 ・one's own A 「自分自身のA」

㉒ What's that pram doing here? は直訳すれば「その乳母車はここで何をしているんだ」。

㉓ asking people for nothing は現在分詞による副詞句。

㉔ following her は現在分詞による副詞句。

㉕ starting to cry は現在分詞による副詞句。

㉖ what they'll be saying now は関係代名詞 what の導く名詞節で、文の補語。

【第8段落】

㉗ 'No!' cried Bobbie. ㉘ 'It's not charity! ㉙ People were happy to give you birthday presents. ㉚ The man at the village shop said, "I'm pleased to give something to Mr. Perks. ㉛ He always pays his bills." ㉜ And the woman at the Post Office wanted you to have the pram. ㉝ It was for her granddaughter, but the little girl died.'

㉞ 'I'm not sending the pram back, Bert,' said Mrs. Perks, when she heard this. ㉟ 'So don't ask me to.'

㉟ 'I won't,' said Perks, quietly.

㉟ 'And other people said you were kind and polite and hardworking,' said Bobbie. ㉟ 'They wanted to give you a birthday present. ㉟ The old gentleman gave Peter a pound for you. ㉟ He

㉗ 'ちがうわ」とボビーは叫んだ。 ㉘ 「施しものなんかじゃないの。 ㉙ 村の人たちはあなたにプレゼントするのが嬉しかったのよ。 ㉚ 村の店の主人は言ってたわ。『バークスさんにプレゼントできるのは嬉しいね。 ㉛ 彼はいつも勘定を払ってくれるんだ』 ㉜ それから郵便局の夫人があなたに乳母車をもらってほしいって。 ㉝ それは孫娘用だったけど、その幼い女の子は亡くなつたの」

㉞ 「私は乳母車を返すつもりはないわ。バート」とバークス夫人はこの話を聞くと言った。 ㉟ 「だから私は返せなんて言わないで」

㉟ 「私は、そんなことは言わないよ」とバークスは声を落として言った。

㉟ 「それに他の人たちも言ってたわ。あなたは親切で、礼儀正しくて、働き者だって」とボビーが言

said you were a man who was good at his work.
⑧We thought you would like ...'

った。 ⑧「村の人たちは、あなたに誕生日のプレゼントを贈りたかったのよ。 ⑨老紳士はあなたのためにと、ピーターに1ポンドくれたの。 ⑩あなたは仕事が上手だと言っていたわ。 ⑪私たちはあなたが...」

- be happy to do 「…して嬉しい」 • be pleased to do 「…して嬉しい」 • pay one's bills 「勘定を払う」
- want O to do 「Oに…してもらいたい」 • send O back / send back O 「Oを返す」
- ask O to do 「Oに…するよう頼む」 • polite 「礼儀正しい」 • hardworking 「よく働く」
- pound 「ポンド(英国の通貨単位)」 • be good at A 「Aが上手だ」

⑩ don't ask me to は don't ask me to send the pram back を簡略にしたもの。

⑪ I won't は I won't ask you to send the pram back を簡略にしたもの。

⑫ you were ... and hardworking は接続詞 that の省略された名詞節で、said の目的語。

⑬ 1. you were ... at his work は接続詞 that の省略された名詞節で、said の目的語。

2. who was ... his work は関係詞節 (who は主格の関係代名詞) で、先行詞は a man。

【第9段落】

⑭ "Stop!" Perks said suddenly. ⑮ I take back every word I said. ⑯ I don't know if I was ever so pleased ... not only with the presents, but with the kind thoughts of our neighbors. ⑰ They're the best presents of all, aren't they, Nell?"

⑮ "They are!" agreed his wife, happily.

⑯ Perks looked at the children. ⑰ "You'll stay to tea, won't you?" he said.

⑰ "Oh, yes please!" they said.

⑭ 「やめてくれ」とパークスは突然言った。 ⑮ 「私は自分が言った言葉をすべて撤回するよ。 ⑯ 自分が今までこんなに嬉しい思いをしたことがあったかどうか私には覚えがない。それもプレゼントだけではなく、隣人たちの思いやりで。 ⑰ それは、あらゆるものの中でも最高のプレゼントじゃないか、なあネル」

⑱ 「そうね」と奥さんは嬉しそうに同意した。

⑲ パークスは子どもたちを見た。 ⑳ 「きみたちはお茶の時間までいてくれるよね」とパークスは言った。

㉑ 「ええ、ぜひ」と子どもたちは言った。

• suddenly 「突然」 • take O back / take back O 「Oを撤回する」

• not only A but B 「Aばかりでなく Bも」 • kind thoughts 「思いやりのある考え方」 • agree 「同意する」

• tea 「お茶の時間」

㉒ I said は目的格の関係代名詞 that [which] の省略された関係詞節で、先行詞は every word。

㉓ if I was ... our neighbors は名詞節で、know の目的語。

㉔ They は the kind thoughts of our neighbors を受ける代名詞。

㉕ They are は They are the best presents of all を簡略化したもの。

【設問別解説】

A

問1 ★★☆

Why did the children want to give Mr. Perks something for his birthday?

ア. Because he was gentle and they liked him.

イ. Because he was lazy but the villagers liked him.

ウ. Because he was in poor health but a hard worker.

エ. Because he was kind to them and very wealthy.

なぜ子どもたちはパークス氏に誕生日のプレゼントをあげたいと思ったのか。

ア. 彼が親切で、子どもたちは彼のことが好きだったから。

イ. 彼は怠け者だったが、村の人たちは彼のこ

とが好きだったから。

ウ. 彼は健康を損ねていたが、働き者だったから。

エ. 彼が子どもたちに優しく、とても裕福だったから。

④ 第1段落⑨で、ピーターが子どもたちを代表して「パークスさんは僕たちに本当によくしてくれる」と言っており、また第4段落⑩で、パークスさんに贈り物をしたいのは「パークスさんが貧しいからではないんだ。僕たちが彼のことを好きだからだよ」とピーターが言っている。したがって、正解はア。

問2 ★☆☆

Who promised to give Mr. Perks something for his birthday?

ア. All of the villagers did.

イ. All of the villagers but one did.

ウ. None of the villagers did.

エ. Some of the villagers did.

誰がパークス氏に誕生日のプレゼントをあげると約束したか。

ア. 村の人たち全員が約束した。

イ. 一人をのぞく村の人たち全員が約束した。

ウ. 村の人たちの誰も約束しなかった。

エ. 一部の村の人たちが約束した。

⑤ 第3段落⑦に「他の人たちはいろいろなものをくれたし、さらにちょっとしたプレゼントをくれると約束してくれる人も他にいた」とあるので、正解はエ。

問3 ★★☆

When was Mrs. Ransome's birthday?

ア. Two days before Mr. Perks' birthday.

イ. The day before Mr. Perks' birthday.

ウ. The same day as Mr. Perks' birthday.

エ. The day after Mr. Perks' birthday.

ランサム夫人の誕生日はいつか。

ア. パークス氏の誕生日の2日前。

イ. パークス氏の誕生日の1日前。

ウ. パークス氏の誕生日と同じ日。

エ. パークス氏の誕生日の1日後。

⑥ 第1段落④で、ボビーが「木曜日はパークスさん

の誕生日なの」と言っている。

⑦ 第3段落⑪・⑫より、火曜日の朝、子どもたちがランサム夫人と会ったとき、夫人は「明日は私の誕生日よ」と言っているので、夫人の誕生日は水曜日。したがって、正解はイ。

問4 ★☆☆

What did Mrs. Ransome give to Mr. Perks' family?

ア. Roses picked in the garden and a handkerchief.

イ. Roses picked in the garden and shiny red apples.

ウ. A pram which had been for her grandmother and shiny red apples.

エ. A pram which had been for her grandchild and shiny red apples.

ランサム夫人はパークス氏の家族に何をあげたのか。

ア. 庭で摘んだバラと1枚のハンカチ。

イ. 庭で摘んだバラとつやつやした赤いリンゴ。

ウ. 祖母用だった乳母車とつやつやした赤いリンゴ。

エ. 孫用だった乳母車とつやつやした赤いリンゴ。

⑧ 第5段落⑩～⑪から、ランサム夫人が、子どもたちにパークス氏の家族に持っていたりもらったものは「つやつやした赤いリンゴ」と「夫人の娘の最初の子ども用の乳母車」とわかる。したがって、正解はエ。

問5 ★★☆

Why did Mr. Perks get angry?

ア. Because he thought his children had put their presents on the table.

イ. Because he thought his wife and children had given him things as charity.

ウ. Because he thought the villagers couldn't look after his wife and children.

エ. Because he thought the villagers had given him lots of presents as charity.

なぜパークス氏は怒ったのか。

ア. 自分の子どもがテーブルの上にプレゼントを置いたと思ったから。

イ. 自分の妻と子どもが施しものをくれたと思ったから。
ウ. 村の人たちが自分の妻や子どもたちの面倒を見ることができないと思ったから。
エ. 村の人たちがたくさんのものを施しものしてくれたと思ったから。

■ 第7段落⑩・⑪に、村の人たちからのプレゼントに対する、パークスの言葉として「我々は人にものを求めずに、これまで何年もずっとなんとかやってきた。今になってものをもらい始めるつもりなんてない。我々は貧乏だが、施しなど必要としていないんだ」とある。したがって、正解はエ。

B ★★☆

本文の内容と一致するものを、次のア～クの中から3つ選び、記号で答えよ。

- ア. Peter got a good idea while he and his sisters were talking about the presents for Mr. Perks.
イ. At first Mrs. Ransome refused to give something to Mr. Perks because she hated him.
ウ. The villagers couldn't ask Mr. Perks about his birthday because he got angry easily.
エ. Bobbie's mother was against the idea of giving Mr. Perks a birthday tea.
オ. The children put the presents into a baby carriage, and went to Mr. Perks' house.
カ. Mr. Perks had never had a birthday party before, so the children wanted to give one to him.
キ. Mr. Perks was very fond of the old gentleman, so he gave him some money.
ク. Mr. Perks at first got mad when he saw the presents for him, but after listening to the children, he decided to accept them.

- ア. ピーターは姉妹とパークス氏に贈るプレゼントについて話し合っていると、いいアイデアが浮かんだ。
イ. 初めは、ランサム夫人はパークス氏にプレゼントをするのを拒否したが、それは彼のことが大嫌いだったからだ。
ウ. 村の人たちは、パークス氏がすぐに腹を立てるので、彼に誕生日のことは何も聞けなかった。
エ. ボビーの母親は、パークス氏のために誕生日

のお茶の会をするという考えには反対だった。オ. 子どもたちはプレゼントを乳母車に入れて、パークス氏の家に向かった。

カ. パークス氏は、それまで一度も誕生パーティーをしたことはなかったので、子どもたちは誕生パーティーを彼のために開いてやりたいと思った。

キ. パークス氏は老紳士がとても好きだったので、いくらかお金をあげた。

ク. パークス氏は、自分のためのプレゼントを見て初めは腹を立てたが、子どもたちの話を聞いて、プレゼントを受け取ることにした。

■ 正解はア、オ、ク。以下に各選択肢のポイントを示す。

ア. 第2段落⑫・⑬に「その日、その後で、(子どもたちが)庭でプレゼントについて話し合っていると、…そのとき、ピーターはアイデアが浮かんだ」とある。また、子どもたちはその後ピーターのアイデアを実行しているので、一致。

イ. 第3段落⑭・⑮から、いったんはランサム夫人がパークス氏にプレゼントをするのを拒否したことがわかるが、それは夫人が彼を大嫌いだからではなく、誰も彼女の誕生日を覚えてくれていないからである。したがって、不一致。

ウ. 第1段落⑯で、ボビーが「それからパークスさんに彼の誕生日のことを聞いたの」と言っているが、パークスについて村の人たちが「彼に誕生日のことは何も聞けなかった」や「彼がすぐに腹を立てる」という記述はないので、不一致。

エ. 第1段落⑰のパークスのために誕生日のお茶の会を開くという子どもたちの提案に対して、第1段落⑩で「『いいわよ』と母が言った」とあるので、不一致。

オ. 第6段落⑯に「子どもたちは乳母車にプレゼントをすべて入れて、パークスの小さな家に向かって乳母車を押して行った」とあるので、一致。

カ. 第6段落⑯で、パークス夫人は「パークスにはこんな誕生日、一度もなかったわ」と言っているが、誕生日のお祝いの会を一度もしたことはないとは言っていない。したがって、不一致。

キ. 第8段落⑯に、ボビーが、パークスに「老紳士はあなたのためにと、ピーターに1ポンドくれたの」と言っているので、老紳士がパークスのためにとピーターにお金を渡したことがわかる。したがって、不一致。

ク. 第7段落⑰～⑲で、最初パークスは誤解して腹

を立てたことがわかるが、第8段落で子どもたちの話を聞いた後、第9段落[◎]・[◎]で「私は自分が言った言葉をすべて撤回するよ。自分がいままでこんなに嬉しい思いをしたことがあったかどうか私には覚えがない。それもプレゼントだけではなく、隣人たちの思いやりで」と言っていることから、プレゼントに感謝して受け取ることにしたと考えられる。したがって、一致。

【全訳】

朝食の時間だった。3人の子どもたちがお互いに目を合わせた。それからボビーが言った。「私たち、今日じゃなくて木曜日にケーキを食べることにできないかしら。木曜日はパークスさんの誕生日なの」

「どうして知っているの」と母がたずねた。

「パークスさんに私のブローチを見せたの——母さんが誕生日にくれたものよ——それからパークスさんに彼の誕生日のことを聞いたの。パークスさんは15日だと言っていたわ。それで木曜日よ」

「それで僕たち、パークスさんのために誕生日のお茶の会ができると思ったんだ」とピーターが言った。「パークスさんは僕たちに本当によくしてくれるから」

「いいわよ」と母が言った。

しかし、ケーキはあまりわくわくするような誕生日プレゼントとは思えなかった。

その日、その後で、庭でプレゼントについて話し合っていると、ボビーは「パークスさんにお花を贈ることができるわ」と言った。

そのとき、ピーターはアイデアが浮かんだ。「パークスさんはみんなにやさしくしてくれる」と彼は言った。「僕たちがパークスさんのために、すてきな誕生日を祝うのを手伝いたいと思う人は、村にたくさんいるにちがいないよ。みんなに頼んでみよう」

ボビーは確信が持てなかつた。「人にものを求めてはいけないと母さんが言っていたわ」

「自分たちのためじゃないよ」とピーターが言った。「他の人のために求めるなら大丈夫だ」

そこで火曜日の朝、子どもたちは村へ行った。親切な人もいたし、そうでない人もいた。

「明日は私の誕生日よ」郵便局の年輩のランサム夫人が言った。「誰も私の誕生日を覚えていないでしょ。どうして私がパークスにものをあげなきゃいけないの。出でていってちょうだい」

しかし、他の人々はいろいろなもの——パイプ、缶入りのお茶、ステッキ——をくれたし、さらにちょっとしたプレゼントをくれると約束してくれる人も他にいた。

次の日の早朝、ボビーとフィリスは庭に入っていた。

バラを何本か切り取った。それをボビーの一番きれいなハンカチの1枚と一緒に箱に入れた。それから2人は、1枚の紙に「誕生日を祝って、ランサム夫人へ愛を込めて」と書いて、それを箱の中に入れた。2人は箱を持って郵便局へ行った。それから年輩の夫人が見ていないときに、その箱をドアの内側に置いておいた。

2人の姉妹が出かけている間に、ピーターは母親に、パークスさんに贈るプレゼントについて話した。「僕たちが今こんなことをしているのは、パークスさんが貧しいからではないんだ」とピーターは言った。「僕たちが彼のことを好きだからだよ」

「パークスさんがそのことをわかってくれるといいわね」と母が言った。

木曜日の朝、子どもたちは他の人たちが約束したプレゼント——卵、肉、トマトを受け取りに行った。郵便局の年輩の夫人が、彼らが通りかかったとき、外に立っていた。

「あなたたちにバラのことでお札を言いたかったの」と彼女は言った。

「バラを気に入っていただけで私たちには嬉しいです」とボビーが言った。

「それから、ここにあなたたちの箱があるわ」と言ってランサム夫人は子どもたちに箱を返した。箱は、今度はつやつやした赤いリンゴで一杯だった。彼女は微笑んだ。

「パークスさんのお子さんたちが気に入ってくれるでしょう。それと店の裏に乳母車があるわ。娘の最初の子ども用だったけど、その子は生後6カ月で死んだの。パークス夫人に、幼い息子用にこれをもらってほしいわ。あなたたち、持って行ってくれるかしら」

「ありがとうございます」とボビーは言った。「そうします」

子どもたちは乳母車にプレゼントをすべて入れて、パークスの小さな家に向かって乳母車を押して行った。パークス夫人と幼い子どもたちは彼らを見て驚いた。

「今日はパークスさんの誕生日ですね」とピーターは言った。「それで僕たち、パークスさんにプレゼントを持ってきたんです」

乳母車から一つ一つものが取り出されるごとに、夫人は驚いてますます目を大きく見開いた。

「パークスにはこんな誕生日、一度もなかったわ」と夫人は言った。

ケーキやプレゼントがテーブルの上に並べられた。それからパークスが仕事から帰ってくるのが聞こえると、子どもたちはもう一方の部屋に隠れた。彼がプレゼントを目にしたら、飛び出して、「誕生日おめでとう」と言って彼を驚かせたかったからだ。

「これはみないたい何なんだ」とパークスが言うのが聞こえた。「乳母車が何でここにあるんだ」奥さんが説明したが、声が小さすぎて子どもたちには何を言っているのか聞こえなかった。しかしパークスが怒鳴るのは聞こえてきた。「そんなものはどれももらうつもりはない。我々は人にものを求めずに、これまで何年もずっとなんとかやってきた。今になってものをもらい始めるつもりなんてない。我々は貧乏だが、施しなど必要としていないんだ」

ボビーはもとの部屋へ走り込んで来た。「あなたに喜んでもらえると私たちは思っていたの」とボビーは叫んだ。

「僕たちは何も間違ったことをするつもりはなかっただんです」とピーターは言って、ボビーの後について来た。

「私は二度と誰にも親切なことはしないわ」とフィリスは言って、泣き始めた。

「わからないのかい」とパークスは言った。「村の連中は私のことを笑い者にするだろう。『かわいそうなパークス、彼は自分の家族の面倒も見れないのさ。彼にものを恵んでやらなきゃ』それが今連中の言っていることさ」

「ちがうわ」とボビーは叫んだ。「施しものなんかじゃないの。村の人たちはあなたにプレゼントするのが嬉しかったのよ。村の店の主人は言ってたわ。【パークスさんにプレゼントできるのは嬉しいね。彼はいつも

勘定を払ってくれるんだ】それから郵便局の夫人があなたに乳母車をもらってほしいって。それは孫娘用だったけど、その幼い女の子は亡くなつたの」

「私は乳母車を返すつもりはないわ。パート」とパークス夫人はこの話を聞くと言った。「だから私に返せなんて言わないで」

「私は、そんなことは言わないよ」とパークスは声を落として言った。

「それに他の人たちも言ってたわ。あなたは親切で、礼儀正しくて、働き者だって」とボビーが言った。「村の人たちは、あなたに誕生日のプレゼントを贈りたかったのよ。老紳士はあなたのためにと、ピーターに1ポンドくれたの。あなたは仕事が上手だと言っていたわ。私たちはあなたが…」

「やめてくれ」とパークス氏は突然言った。「私は自分が言った言葉をすべて撤回するよ。自分が今までこんなに嬉しい思いをしたことがあったかどうか私は覚えがない。それもプレゼントだけではなく、隣人たちの思いやりで。それは、あらゆるものの中で最高のプレゼントじゃないか、なあネル」

「そうね」と奥さんは嬉しそうに同意した。

パークスは子どもたちを見た。「きみたちはお茶の時間までいてくれるよね」とパークスは言った。

「ええ、ぜひ」と子どもたちは言った。

【出典】

A birthday for Perks, Edith Nesbit

6 総合問題

【解答】

問1 イ

問2 オーロラの光は、1億5千万キロメートル離れた、太陽で起こる嵐が原因で現れる。

問3 ウ

問4 地球には、周間にこれらの微粒子から地球を守ってくれる一種の「壁」がある。

問5 太陽から来た微粒子が、すでに地球の上空にある微粒子と衝突すること。(33字)

問6 エ

問7 ウ、エ、オ(順不同)

【要旨】

オーロラは普通は極地付近の高緯度地域でしか見ることができないのだが、太陽で発生した大嵐の影響でヨーロッパや北米に出現したこともあり、その時には不思議な現象も引き起した。オーロラは、太陽から高速で飛来する「太陽風」と呼ばれる微粒子群が地球上空にある微粒子と衝突するときに現れ、その色、形、動きはさまざまである。高緯度地域でもいつも現れるわけではないのだが、実際にオーロラを見た人々には忘れぬ思い出になるようだ。

【配点】(60点)

問1 5点 問2 10点 問3 5点 問4 10点 問5 10点 問6 5点 問7 各5点×3

【本文解説】

〔第1段落〕

①On the night of September 2nd, 1859, the dark sky over Europe and North America was suddenly full of light. ②The light did not come

①1859年9月2日の夜に、ヨーロッパと北米の暗い空が突然光で満ちた。 ②その光は太陽や月から来たものではなく、しかも、不思議な色をしていた。

from the sun or the moon — and it had a strange color. ③The light moved across the sky, like clouds in a strong wind. ④In the United States, a man in Boston was using the telegraph to speak to a man in Portland, 160 kilometers away. ⑤They both turned off the electricity for the telegraph, but they could still speak to each other for the next two hours. ⑥The electricity was coming from the light in the sky. ⑦How was this possible? ⑧And what was this light in the sky?

③その光は上空を動き回って、まるで強風の中の雲のようだった。 ④アメリカでは、ボストンのある男性が160km離れたポートランドにいる男性と通信するために、電信装置を使用していた。 ⑤どちらの男性も電信装置の電源を切ったが、それでもその後2時間もお互いに通信することが可能だった。 ⑥その電気は上空の光から来ていたのだ。 ⑦どのようにしてこのようなことが可能だったのだろうか。 ⑧そして、この上空の光は何だったのだろうか。

- be full of A 「Aでいっぱいである」 · suddenly 「突然」 · strange 「不思議な」
- across A 「Aのあちこちに」 · like A 「Aのように」 · cloud 「雲」
- telegraph 「電信装置」（電話の普及以前に使用されていた遠隔通信手段） · speak to A 「Aと通信する」
- turn O off / turn off O 「Oを消す」 · electricity 「電気」 · still 「それでも」 · possible 「可能な」

〔第2段落〕

⑨The light is called the aurora. ⑩Usually we can see it only in high latitudes near the North and South Poles. ⑪But in 1859, something happened in the sun — a very large storm — and it enabled us to see the light of the aurora around the middle latitudes. ⑫We do not think that this ever happened before 1859, and we know that it has not happened since then.

⑨その光はオーロラと呼ばれるものである。 ⑩通常、オーロラは北極や南極付近の高緯度の地域でしか見ることができない。 ⑪しかし、1859年には、太陽で何か — 非常に大きな嵐 — が起こり、それにより中緯度の地域のあちこちでオーロラの光を見ることができたのだ。 ⑫1859年以前にこのようなことが起きたとは考えられておらず、私たちが知るところでは、それ以来そのようなことは起こっていない。

- call O C 「OをCと呼ぶ」 · aurora 「オーロラ」 · high latitude 「高緯度(の地域)」
- the North and South Poles 「北極と南極」 · happen 「起こる」 · storm 「嵐」
- enable O to do 「Oができるようにする」 · middle latitude 「中緯度(の地域)」

⑪ a very large storm は something を補足的に説明している。

〔第3段落〕

⑬The light of the aurora does not come every night. ⑭It comes because of storms 150 million kilometers away, in the sun. ⑮And the best times to see the light of the aurora are around the equinoxes. ⑯Most often, the aurora is green, but it can be blue, or red, or any color between. ⑰Sometimes the light is still, like the lights of a town far away; sometimes the light moves, dancing in the sky.

⑬オーロラの光は毎晩現れるわけではない。 ⑭オーロラの光は、1億5千万キロメートル離れた、太陽で起こる嵐が原因で現れる。 ⑮また、オーロラの光を観測するのに最適な期間は、春分や秋分の前後である。 ⑯多くの場合、オーロラは緑色なのだが、青色や赤色やその他のあらゆる中間色にもなることがある。 ⑰その光は、遠くの町の明かりのように静止していることもあれば、上空で舞い踊っているかのように動くこともある。

- not ... every A 「すべてのAで…というわけではない」 · because of A 「Aが原因で、Aによって」
- million 「100万」 · equinox 「春分・秋分」 · far away 「遠く離れている」

⑯ to see the light of the aurora は形容詞用法の to不定詞で、the best times を修飾。

⑰ dancing in the sky は、現在分詞による副詞句。

[第4段落]

⑯But why does the aurora happen? ⑯And why can we only see it at the top or bottom of the earth? ⑰The aurora is made by something called the 'solar wind' (wind from the sun). ⑰We cannot see this wind, or touch it. ⑱It is a wind of particles that travel away from the sun all the time at about 400 kilometers a second.

- solar「太陽の」 · touch O「Oに触れる」 · particle「微粒子」 · travel「移動する」
- all the time「常に、いつでも」 · X kilometers a second「1秒につきXキロメートル」

⑯しかし、オーロラはなぜ発生するのだろうか。 ⑯そして、なぜ地球の最北部や最南部でしか見ることができないのだろうか。 ⑰オーロラは、「太陽風」(太陽からの風)と呼ばれるものによって発生する。 ⑲その風は見ることも触ることもできない。 ⑳それは、太陽から秒速約400キロメートルの速さで常に飛んできている微粒子の風である。

⑰called the 'solar wind' は分詞句で、something を修飾。

⑲that travel away ... a second は関係詞節(that は主格の関係代名詞)で、先行詞は particles。

[第5段落]

⑲Most of the particles never touch the earth. ⑲The earth has a kind of 'wall' around it that defends it against these particles. ⑲This wall is called the earth's magnetic field, and it pushes the particles away on either side. ⑲It is like water going to each side of a large stone in a river. ⑲But the earth's magnetic field has two 'windows' in it: the magnetic north, and the magnetic south. ⑲At these places, the earth's magnetic field turns down into the earth. ⑲And some of the particles from the solar wind come through these magnetic 'windows'. ⑲The particles from the sun crash into the particles that are already in our sky. ⑲And when this happens, we see the beautiful lines or clouds of light of the aurora.

- a kind of A「一種のA」 · around A「Aの周囲に」 · defend O against A「AからOを守る」
- magnetic field「磁場」 · push O away / push away O「Oを押しのける」
- either A「どちらのAにも」 · each A「それぞれのA」 · magnetic「磁力の」
- turn (down) into A「Aに向かう」 · crash into A「Aと衝突する」

⑲その微粒子のほとんどは地球にけっして届かない。 ⑲地球の周囲には、これらの微粒子から地球を守ってくれる一種の「壁」がある。 ⑲この壁は地球の磁場と呼ばれ、それが微粒子を両脇へと押しやっているのだ。 ⑲それは、水が川の中の大きな石の両側に流れいくのと似ている。 ⑲しかし、地球の磁場の内部には2つの「窓」がある。すなわち、磁北と磁南である。 ⑲これらの場所では、地球の磁場は地球に向かっている。 ⑲太陽風の微粒子の一部は、これらの磁力の「窓」を通して飛来する。 ⑲太陽から来たその微粒子は、すでに地球の上空にある微粒子と衝突する。 ⑲そして、このようなことが起こるときに、私たちはオーロラの美しい線状または雲状の光を目にするのである。

⑳【設問別解説】問4 参照。

㉑water は、動名詞 going to ... a river の意味上の主語。

㉒that are already in our sky は関係詞節(that は主格の関係代名詞)で、先行詞は the particles。

[第6段落]

㉓People travel thousands of kilometers to see the aurora, and they can never be sure that it will happen. ㉓But people who do see it say that they will never forget it. ㉓So if you are ready to wait in the cold, and if you are lucky, perhaps you too will see the aurora when it dances across the sky.

㉓オーロラを見るために、人々は何千キロメートルも旅をするが、それでも、オーロラが発生するかどうかはまったくわからない。 ㉓しかし、実際にオーロラを見た人々は、けっしてそれを忘れないことはないだろうと言う。 ㉔だから、寒さの中でじっと待つ覚悟があって、あなたが幸運であれば、それが上空を踊り回るとき、もしかしたら、あなたもオーロラを見ることができるかもしれない。

- thousands of A 「何千ものA」 · be sure that SV ... 「…と確信する」
- be ready to do 「…する準備[覚悟]ができている」

㉙ to see the aurora は、「目的」を表す副詞用法の to 不定詞。

㉚ 1. who do see it は関係詞節(who は主格の関係代名詞)で、先行詞は people。

2. do see の do は、動詞 see を強調している。

3. that they will never forget it は名詞節で、say の目的語。

【設問別解説】

問 1 ★★☆

空所(1)に入れるのに最も適当な語句を、次のア～エの中から 1 つ選び、記号で答えよ。

ア. around the high latitudes
イ. around the middle latitudes
ウ. in the very north areas
エ. in the very south areas

Ⓐ 各選択肢は、ア. 「高緯度の地域のあちこちで」、イ. 「中緯度の地域のあちこちで」、ウ. 「最北地域で」、エ. 「最南地域で」という意味。

Ⓑ 第 2 段落⑩には「通常、オーロラは北極や南極付近の高緯度の地域でしか見ることができない」と書かれている。

Ⓒ 空所(1)を含む第 2 段落⑪は「しかし、1859年には、太陽で何か — 非常に大きな嵐 — が起り、それにより()オーロラの光を見ることができたのだ」という意味であり、文が But で始まっていることから、前文と逆説的な内容が書かれていると考えができる。これらのことから、「北極や南極付近の高緯度の地域」ではない地域を意味する語句を空所に入れればよいことがわかる。

Ⓓ したがって、正解はイ. around the middle latitudes。

問 2 ★★☆

下線部(2) It comes because of storms 150 million kilometers away, in the sun. を、It の具体的な内容を明示して、和訳せよ。

Ⓐ It が指すのは、前文の主語 The light of the aurora。

Ⓑ come が「現れる、生じる」、because of A が「A が原因で、A によって」という意味なので、comes because of ... は「…が原因で現れる」ということになる。

Ⓓ million は「100万」という意味なので、150 million kilometers は「1億5千万キロメートル」というこ

となる。

Ⓓ 150 million kilometers away と in the sun は、ともに storms を修飾している。

Ⓓ したがって、正解は「オーロラの光は、1億5千万キロメートル離れた、太陽で起こる嵐が原因で現れる」。

問 3 ★★★

空所(3)に入れるのに最も適当な語を、次のア～エの中から 1 つ選び、記号で答えよ。

ア. colorful イ. electric
ウ. still エ. strong

Ⓐ 各選択肢は、ア. 「色とりどりの」、イ. 「電気の」、ウ. 「静止している」、エ. 「強力な」という意味。

Ⓑ 空所を含む第 3 段落⑫ Sometimes the light is (3); sometimes the light moves ... は、「その光は、遠くの町の明かりのように(3)こともある、上空で舞い踊っているかのように動くこともある」という内容になっている。ここでは、セミコロンは対照的な内容の文を結ぶ働きをしている。このことから、空所には move と対照的な内容の語を入れればよいことがわかる。

Ⓓ したがって、正解はウ. still。

問 4 ★★★

下線部(4) The earth has a kind of 'wall' around it that defends it against these particles. を和訳せよ。

Ⓓ a kind of A は「一種のA」という意味。wall に引用符('')が付いているのは、実際の壁があるわけではなく、「壁」と呼べるようなものがあるため。訳出する際は、「」で開けておくとよい。around A は「A の周囲に」という意味で、around it の it は The earth を指す。これらのことから、The earth has a kind of 'wall' around it は、「地球には、周囲に一種の『壁』がある」と訳せばよいことがわかる。

Ⓔ that defends it against these particles は関係詞

節(thatは主格の関係代名詞)で、先行詞は‘wall’。defend O against Aは「AからOを守る」という意味。defend itのitもThe earthを指す。

したがって、正解は「地球には、周囲にこれらの微粒子から地球を守ってくれる一種の『壁』がある」。

問5 ★★☆

下線部(5)のthisは、具体的にはどのようなことか、句読点も含め35字以内の日本語で書け。

下線部(5)を含む第5段落①の意味は「そして、このようなことが起こるときに、私たちはオーロラの美しい線状または雲状の光を目にするのである」で、このthisは、前文(第5段落⑩)The particles from the sun crash into the particles that are already in our sky.の内容を指している。

第5段落⑩は「太陽から来たその微粒子は、すでに地球の上空にある微粒子と衝突する」という意味。ここでは35字以内という指定があるので、この内容を指定字数内でまとめればよい。

したがって、正解は「太陽から来た微粒子が、すでに地球の上空にある微粒子と衝突すること。」(33字)。

問6 ★★☆

下線部(6)they can never be sure that it will happenの内容として最も適当なものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えよ。

ア. 彼らは、きっとそれを起こすことができる。
イ. 彼らは、それを発生させることは絶対にできない。

ウ. 彼らは、絶対そんなことは起こりえないと確信している。

エ. 彼らは、それが発生するかどうかはまったくわからない。

be sure that SV … は「…と確信する」という意味なので、they can never be sure that SV … は「彼らはきっと…と確信することはできない」ということになる。

itは下線部の前にあるthe auroraを指しているので、it will happenは「オーロラが発生する」という意味。

以上のことから、下線部は「彼らはきっとオーロラが発生すると確信することはできない」という意味であることがわかる。

したがって、正解はエ。彼らは、それが発生するかどうかはまったくわからない。

問7 ★★☆

本文の内容と一致するものを、次のア～クの中から3つ選び、記号で答えよ。

ア. 1859年9月2日、ヨーロッパと北米では突然の激しい雷雨があった。

イ. オーロラは、曇っていて風の強い日によく発生する。

ウ. 1859年9月2日、電源スイッチを切っても電信装置で通信できた地域があった。

エ. 1859年、太陽で大規模な嵐が起きた。

オ. オーロラは緑色に見えることが多いが、紫色などに見える場合もある。

カ. オーロラが、太陽風と呼ばれる現象を引き起こしている。

キ. 太陽風は時速400キロメートルになることもある。

ク. 磁北や磁南と呼ばれる場所にある磁場が、太陽風の速度を落とす。

正解はウ、エ、オ。以下に各選択肢のポイントを示す。

ア. 第1段落①に「1859年9月2日の夜に、ヨーロッパと北米の暗い空が突然光で満ちた」とあり、第2段落⑨に「その光はオーロラと呼ばれるものである」とあるので、不一致。

イ. 第1段落③に「その光は上空を動き回って、まるで強風の中の雲のようだった」とあるが、これはオーロラの発生しやすい気候条件を説明しているわけではないので、不一致。

ウ. 第1段落④・⑤に「ボストンのある男性がポートランドにいる男性と電信装置を使って通信していたが、電源を切った後もまだお互いに通信することが可能だった」とあるので、一致。

エ. 第2段落⑪に「1859年には、太陽で何か一非常に大きな嵐一が起こった」とあるので、一致。

オ. 第3段落⑩の「多くの場合、オーロラは緑色なのだが、青色や赤色やその他のあらゆる中間色にもなることがある」とあるので、一致。

カ. 第4段落⑫に「オーロラは、『太陽風』と呼ばれるものによって発生する」とあり、オーロラが、太陽風を引き起こしているわけではないので、不一致。

キ. 第4段落⑫に「それ(太陽風)は、太陽から秒速約400キロメートルの速さで常に飛んできている微粒子の風である」とあり、これを換算すると時速約144

万キロメートルとなるので、不一致。

ク、第5段落❷・❸に「これらの場所(磁北と磁南)では、地球の磁場は地球に向かっていて、太陽風の微粒子の一部は、これらの磁力の『窓』を通して飛来する」とあるが、太陽風の速度に関する記述はないので、不一致。

【全訳】

1859年9月2日の夜に、ヨーロッパと北米の暗い空が突然光で満ちた。その光は太陽や月から来たものではなく、しかも、不思議な色をしていた。その光は上空を動き回って、まるで強風の中の雲のようだった。アメリカでは、ボストンのある男性が160km離れたポートランドにいる男性と通信するために、電信装置を使用していた。どちらの男性も電信装置の電源を切ったが、それでもその後2時間もお互いに通信することが可能だった。その電気は上空の光から来ていたのだ。どのようにしてこのようなことが可能だったのだろうか。そして、この上空の光は何だったのだろうか。

その光はオーロラと呼ばれるものである。通常、オーロラは北極や南極付近の高緯度の地域でしか見ることができない。しかし、1859年には、太陽で何か—非常に大きな嵐—が起こり、それにより中緯度の地域のあちこちでオーロラの光を見ることができたのだ。1859年以前にこのようなことが起こったとは考えられておらず、私たちが知るところでは、それ以来そのようなことは起こっていない。

オーロラの光は毎晩現れるわけではない。オーロラの光は、1億5千万キロメートル離れた、太陽で起こる嵐が原因で現れる。また、オーロラの光を観測するのに最適な期間は、春分や秋分の前後である。多くの場合、オーロラは緑色なのだが、青色や赤色やその他のあらゆる中間色にもなることがある。その光は、遠くの町の明かりのように静止していることもあれば、上空で舞い踊っているかのように動くこともある。

しかし、オーロラはなぜ発生するのだろうか。そして、なぜ地球の最北部や最南部でしか見ることができないのだろうか。オーロラは、「太陽風」(太陽からの風)と呼ばれるものによって発生する。その風は見ることも触れることもできない。それは、太陽から秒速約400キロメートルの速さで常に飛んできている微粒子の風である。

その微粒子のはほとんどは地球にけっして届かない。地球には、周囲にこれらの微粒子から地球を守ってくれる一種の「壁」がある。この壁は地球の磁場と呼ばれ、それが微粒子を両脇へと押しやっているのだ。それは、水が川の中の大きな石の両側に流れしていくのと似ている。しかし、地球の磁場の内部には2つの「窓」

がある。すなわち、磁北と磁南である。これらの場所では、地球の磁場は地球に向かっている。太陽風の微粒子の一部は、これらの磁力の「窓」を通して飛来する。太陽から来たその微粒子は、すでに地球の上空にある微粒子と衝突する。そして、このようなことが起こるときには、私たちはオーロラの美しい線状または雲状の光を目にするのである。

オーロラを見るために、人々は何千キロメートルも旅をするが、それでも、オーロラが発生するかどうかはまったくわからない。しかし、実際にオーロラを見た人々は、けっしてそれを忘れる事はないだろうと言う。だから、寒さの中でじっと待つ覚悟があって、あなたが幸運であれば、それが上空を踊り回るとき、もしかしたら、あなたもオーロラを見ることができるかもしれない。

【出典】

World Wonders, Barnaby Newbold

【オーラル・コミュニケーション】

【解答】

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|----------|
| (1)-(a) | (2)-(c) | (3)-(a) | (4)-(d) | (5)-(c) |
| (6)-(c) | (7)-(c) | (8)-(d) | (9)-(b) | (10)-(a) |

【配点】 (20点)

各 2 点 × 10

【設問別解説】

(1)

〈放送された英文と選択肢〉

You've been so helpful. I really appreciate your joining us.

- (a) Don't mention it. It's nothing.
- (b) I'm disappointed to hear that.
- (c) I'm glad you helped us.
- (d) No. You can't do this to me.

〈放送された英文と選択肢の訳〉

とても助かりました。あなたが加わってくれて本当にありがとうございます。

- (a) 礼には及びません。大したことではないですから。
- (b) それを聞いてがっかりです。
- (c) あなたが力になってくれて嬉しいです。
- (d) だめです。私に対してこんなことをするなんてひどいです。

- helpful 「助けになる、役立つ」 · appreciate O 「Oをありがたく思う、 Oの真価を認める」
- mention O 「Oについて述べる」 · disappointed 「がっかりした」

I appreciate your *doing*. はすでにしてもらったこと、または現在してもらっていることに謝意を表す表現。(a) Don't mention it. It's nothing. 「礼には及びません。大したことではないですから」なら、この応答として適切。 Don't mention it. 「礼には及びません」はお礼の言葉に対する応答の決まり文句。したがって、正解は(a)。(c)は I'm glad まではよいが、それに続く内容が手助けをしてもらった側のものになっており応答としてつながらない。

(2)

〈放送された英文と選択肢〉

I don't know how I should read this word. Do you have any idea?

- (a) No. That's fine with me.
- (b) Why don't you do it slowly and carefully?
- (c) Why don't you look it up in your dictionary?
- (d) Yes. I've come up with a good idea.

〈放送された英文と選択肢の訳〉

この単語をどう読んだらいいのかわかりません。あなた、わかりますか。

- (a) いいえ。私は結構です。
- (b) ゆっくり、慎重にやってみたらどうですか。
- (c) 辞書で調べてみたらどうですか。
- (d) ええ。名案を思いつきました。

- look up O / look O up 「Oを調べる」 · come up with A 「Aを思いつく」

ある単語の読み方についてのアドバイスをすれば適切な応答となる。(c)の Why don't you *do* ...? 「…してみたらどうですか」は軽い提案をする表現なので、Why don't you look it up in your dictionary? 「辞書で調べてみたらどうですか」は適切な応答となる。したがって、正解は(c)。

(b)の slowly and carefully は単語の読み方に対する適切なアドバイスとは言えない。

<p>(3)</p> <p>〈放送された英文と選択肢〉</p> <p>Excuse me. Am I on the right bus to the sports center?</p> <p>(a) Yes. It's the third stop. (b) Yes. Take the right lane. (c) Yes. This is the sports center. (d) Yes. You should go by bus.</p>	<p>〈放送された英文と選択肢の訳〉</p> <p>すみません。スポーツセンターへ行くにはこのバスでいいでしょうか。</p> <p>(a) ええ。3つ目の停留所です。 (b) ええ。右側の車線を利用してください。 (c) ええ。ここはスポーツセンターです。 (d) ええ。バスで行くべきです。</p>
<p>・stop「停留所」 ・lane「車線」</p>	

バス乗車後に、自分が間違ったバスに乗っていないかを確認するためにたずねている発話である。選択肢に共通する Yes. は、Yes, you are on the right bus to the sports center. を表すことになる。(a) Yes. It's the third stop. 「ええ。3つ目の停留所です」なら Yes. に続く内容が応答として適切となる。したがって、正解は(a)。

<p>(4)</p> <p>〈放送された英文と選択肢〉</p> <p>Isn't this your cellphone? It was left between the cushions on the sofa.</p> <p>(a) No, thanks. I know the way there. (b) No, thanks. I've had enough. (c) Oh, thank you. I like it. (d) Oh, thank you. That's mine.</p>	<p>〈放送された英文と選択肢の訳〉</p> <p>これ、あなたの携帯電話じゃないですか？ ソファーのクッションの間に置き忘れてありました。</p> <p>(a) いいえ、結構です。そこへの行き方はわかっています。 (b) いいえ、結構です。じゅうぶん頂きました。 (c) あっ、ありがとう。それが気に入りました。 (d) あっ、ありがとう。それ、私のです。</p>
<p>・cellphone「携帯電話」</p>	

置き忘れたと思われる携帯電話を相手に確認している発話である。(d) Oh, thank you. That's mine. 「あっ、ありがとう。それ、私のです」の That's mine. がこの発話に対する直接の応答になっている。したがって、正解は(d)。なお、読み上げ文の Isn't this your ... の部分はくつついで1語のように発音されるので注意が必要。

(a), (b)にある No, thanks. 「いいえ、結構です」は食べ物・飲み物などを勧められたときや何かの申し出があったときに断る表現。

<p>(5)</p> <p>〈放送された英文と選択肢〉</p> <p>I seem to have caught a cold. I have a slight fever.</p> <p>(a) How did you make it? (b) What does it look like? (c) When did it start? (d) Where did you find it?</p>	<p>〈放送された英文と選択肢の訳〉</p> <p>風邪をひいてしまったようです。少し熱があります。</p> <p>(a) どのようにしてそれを作ったのですか。 (b) 見た目はどんなふうですか。 (c) いつからそれは始まりましたか。 (d) どこでそれを見つけたんですか。</p>
<p>・catch (a) cold「風邪をひく」 ・slight「わずかな」 ・look like A「Aのように見える」</p>	

caught a cold 「風邪をひいた」や a slight fever 「微熱」を聞き取り、身体の不調を訴えている発話であることを理解する。様々な内容の応答が考えられるが、選択肢に共通する it が身体の不調を指すことを念頭に置いて選択する。(c) When did it start? 「いつからそれは始まりましたか」なら応答として適切となる。したがって、正解は(c)。

(b)の What does S look like? 「Sはどんな外観ですか」は見た目の様子をたずねる表現。

<p>(6)</p> <p>〈放送された英文と選択肢〉</p> <p>It's useful, and maybe necessary, to carry some small change.</p> <p>(a) Well, I have some big news. (b) Well, I need a basket to put it in. (c) Yes. I have some in my wallet. (d) Yes. I know I have to change.</p>	<p>〈放送された英文と選択肢の訳〉</p> <p>小銭を持ち歩くことは、何かと役立つし、おそらく必要なことです。</p> <p>(a) ところで、ビッグニュースがあるんです。 (b) そうですね、それを入れるかごが必要です。 (c) ええ。財布に少し入ってます。 (d) ええ。変わらなければならぬのはわかってます。</p>
<p>・ necessary「必要な」 ・ carry O「Oを持ち歩く」 ・ change「小銭」この意味では不可算名詞。 ・ wallet「財布、札入れ」</p>	

small change は「小銭」という意味。necessary 「必要な」 や carry 「…を持ち歩く」などを聞き取り、小銭を持ち歩く必要性を述べた発話であることを理解する。(c) Yes. I have some in my wallet. 「ええ。財布に少し入ってます」なら、some が some small change を表したことになり応答として適切である。したがって、正解は(c)。

<p>(7)</p> <p>〈放送された英文と選択肢〉</p> <p>Do you want to take a break and have some tea?</p> <p>(a) No. I didn't break my word. (b) Oh, that's too bad. (c) Sounds like a good idea. (d) Yes. I want to take this course.</p>	<p>〈放送された英文と選択肢の訳〉</p> <p>休憩してお茶でもどうですか。</p> <p>(a) いいえ。私は約束を破ってはいません。 (b) おや、それはお気の毒に。 (c) それはいいですね。 (d) ええ。私はこの講座をとりたいです。</p>
<p>・ take a break「休憩する」 ・ break one's word「約束を破る」 ・ (That) sounds like A.「Aのよう聞こえる」 ・ course「進路、講座」</p>	

Do you want to do ...? は文字どおりには「…をしたいか」ということだが、軽い提案をする表現として使われる。続く take a break 「休憩する」 や have some tea 「お茶を飲む」などを聞き取り、現在の作業の手を休めてお茶にすることが提案されていることを理解する。(c) Sounds like a good idea. 「それはいいですね」なら、提案を受け入れる表現なので応答として適切となる。したがって、正解は(c)。

<p>(8)</p> <p>〈放送された英文と選択肢〉</p> <p>Where's the nearest restroom?</p> <p>(a) I know a good restaurant nearby. (b) Stand in the corner of the room. (c) Yes. It's the nearest. (d) You have to go downstairs.</p>	<p>〈放送された英文と選択肢の訳〉</p> <p>一番近くのトイレはどちらですか。</p> <p>(a) 近くのよいレストランを知っています。 (b) 部屋の隅に立っていなさい。 (c) ええ。そこが一番近いです。 (d) 下の階へ行かないといけません。</p>
<p>・ restroom「(レストラン、劇場といった公共の建物の)トイレ、化粧室」 ・ nearby「近くの」 ・ in the corner of A「Aの隅に」 ・ downstairs「階下に」</p>	

restroom は「トイレ」という意味。一番近くのトイレの場所がたずねられている。(d) You have to go downstairs. 「下の階へ行かないといけません」なら、間接的にトイレの場所を教えてることになり適切な応答となる。したがって、正解は(d)。

(9)

〈放送された英文と選択肢〉

It's the last straw. I can't put up with my boss any longer. I'm going to quit this company.

- (a) Are you delighted?
- (b) Are you serious?
- (c) Are you surprised?
- (d) Are you worried?

〈放送された英文と選択肢の訳〉

もう我慢の限界です。これ以上、うちの上司には堪えられません。こんな会社は辞めます。

- (a) 喜んでいるのですか。
- (b) 本気なんですか。
- (c) 驚いているのですか。
- (d) 心配ですか。

- the last straw 「我慢の限界(を超えるもの)」《諺》 It's the last straw that breaks the camel's back.
「(限度を超れば)たとえ1本のわらでも載せればラクダの背骨が折れる」より。
- put up with A 「Aを我慢する」 · not ... any longer 「もうこれ以上…ない」 · quit O 「Oを辞める」
- delighted 「とても喜んだ」 · serious 「本気の、真剣な」 · worried 「心配な」

It's the last straw. は「我慢の限界(を超えるもの)」という意味だが、この表現がわからなくても、続く I can't put up with my boss any longer. I'm going to quit this company. 「これ以上、うちの上司には堪えられません。こんな会社は辞めます」を聞き取れば、上司に憤慨した発話であることがわかる。(b) Are you serious? 「本気なんですか」なら、相手の憤慨を理解した上で応答としてうまくつながる。したがって、正解は(b)。

(10)

〈放送された英文と選択肢〉

Oh, here comes an extra pizza. Did someone order this?

- (a) I did, actually.
- (b) It's out of order now.
- (c) It was a delicious pizza.
- (d) Yes. Let's order one.

〈放送された英文と選択肢の訳〉

おや、ピザがもう1枚余計に来ましたよ。誰かこれを注文しましたか。

- (a) 実は、私がしました。
- (b) 現在、故障中です。
- (c) それはとてもおいしいピザでした。
- (d) ええ。1つ注文しましょう。

- Here come(s) S. 「(ほら,) Sが来たよ」 Sが代名詞のときは、Here S come(s). となる。
- extra 「余計な、追加の」 · order O 「Oを注文する」 · actually 「実は、実際に」
- out of order 「故障した、乱れた」 · delicious 「とてもおいしい」

Did someone order this? 「誰かこれを注文しましたか」を聞き取り、this が an extra pizza を指していることを理解した上で、適切な応答を考える。(a) I did, actually. 「実は、私がしました」が、この発話に対する直接の応答になる。したがって、正解は(a)。なお、extra や pizza の発音はカタカナの「エキストラ」、「ピザ」とはやや異なるので聞き取りの際には注意する。

模試を受験された後の学習のために、自宅で「オーラル・コミュニケーション」の音声を聴くことができます。以下の Kei-Net ホームページをご参照ください。

<http://www.keinet.ne.jp/web/taisaku/listen/>

※お聴きいただくには、Kei-Net 会員の登録(無料)が必要です。

【数 学】

解答の理解に役立つように、

右欄に

枠囲み	… 解答で用いた公式、
◆	… 解答を読む上で参考になる式、考え方、式の変形、図

解答の途中に

道しるべ	… 解法の糸口
------	---------

を載せています。

さらに、

ポイントチェック	… 復習して、理解したことを定着させるための練習問題
----------	----------------------------

があります。

① 【中学範囲 小問集合】

次の□にあてはまる数を求めよ。

- (1) $x = \sqrt{17-a}$ とする。 x が無理数になる正の整数 a のうち、最小のものは $a = \square$ である。このときの x の小数部分を y とすると、

$$y = \square$$

であるから、

$$\frac{1}{x} + y = \square$$

である。ただし、□は分母を有理化して答えよ。

- (2) 図1のような $AC=9$, $BC=3$, $\angle ACB=90^\circ$ である三角形 ABC を、ACを軸として1回転させてできる立体の体積は、

$$\square$$

である。

さらに図2のような图形があり、五角形 ADPBC を、AC を軸として1回転させてできる立体を考える。

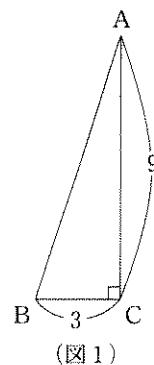
線分 PQ の長さは、

$$\square$$

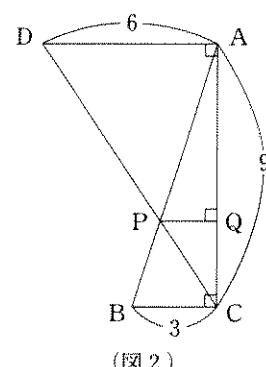
であり、この立体の体積は、

$$\square$$

である。



(图1)



(图2)

● ● ● 配点 (30点) ● ● ●

(1) 15点 (2) 15点

● ● ● 問題のレベル ● ● ●

(1), (2)とも基本から標準

解

答

(1)	ア	2	イ	$\sqrt{15}-3$	ウ	$\frac{16\sqrt{15}-45}{15}$
(2)	エ	27π	オ	2	カ	123π

(1) $a=1$ のとき, $x=\sqrt{16}=4$, $a=2$ のとき, $x=\sqrt{15}$.

よって, x が無理数になる正の整数 a のうち, 最小のものは,

$$a = \boxed{2}. \quad \cdots \text{ア}$$

また, $9 < 15 < 16$ より, $3 < \sqrt{15} < 4$ であるから, $x=\sqrt{15}$ のとき,

$$3 < x < 4.$$

よって, x の整数部分は 3 である.

これより, x の小数部分 y は,

$$\begin{aligned} y &= x - 3 \\ &= \boxed{\sqrt{15}-3}. \quad \cdots \text{イ} \end{aligned}$$

したがって,

$$\begin{aligned} \frac{1}{x} + y &= \frac{1}{\sqrt{15}} + (\sqrt{15}-3) \\ &= \frac{1 \cdot \sqrt{15}}{\sqrt{15} \cdot \sqrt{15}} + \sqrt{15} - 3 \\ &= \frac{\sqrt{15}}{15} + \sqrt{15} - 3 \\ &= \boxed{\frac{16\sqrt{15}-45}{15}}. \quad \cdots \text{ウ} \end{aligned}$$

◆ 4 (整数)は無理数ではない。

◆ 正の実数 A の整数部分を n , 小数部分を m とすると, n は,
 $n \leq A < n+1$

を満たす整数である。

また, m は,

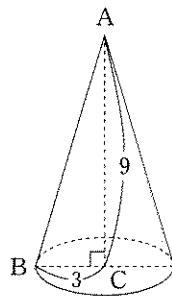
$$m = A - n$$

である。

◆ 分母, 分子に $\sqrt{15}$ を掛けて, 分母を有理化する。

◆ $\frac{16}{15}\sqrt{15}-3$ と答てもよい。

- (2) 三角形 ABC を、 AC を軸として 1 回転させてできる立体は、底面が半径 BC の円で、高さが AC の円錐である。



よって、この立体の体積は、

$$\frac{1}{3}\pi \cdot 3^2 \cdot 9 = \boxed{27\pi}. \quad \cdots \text{工}$$

次に、(図 2)の線分 PQ の長さを求める。

三角形 APQ と三角形 ABC において、

$$\angle PAQ = \angle BAC \quad (\text{共通}),$$

$$\angle PQA = \angle BCA \quad (= 90^\circ)$$

より、2組の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle APQ \sim \triangle ABC.$$

よって、

$$PQ : BC = AP : AB. \quad \cdots \text{①}$$

また、三角形 PAD と三角形 PBC において

$$\angle APD = \angle BPC \quad (\text{対頂角}),$$

$$\angle PAD = \angle PBC \quad (\text{平行線の錯角})$$

より、2組の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle PAD \sim \triangle PBC.$$

したがって、

$$PA : PB = AD : BC.$$

これより、

$$AP : PB = 6 : 3 = 2 : 1$$

となるから、

$$AP : AB = 2 : 3.$$

これと ① より、

$$PQ : BC = 2 : 3$$

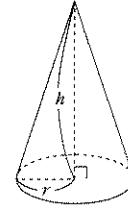
であるから、線分 PQ の長さは、

$$PQ = \frac{2}{3}BC$$

$$= \frac{2}{3} \cdot 3$$

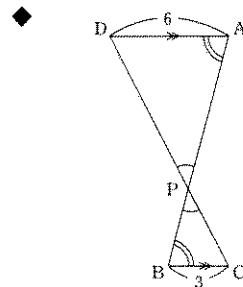
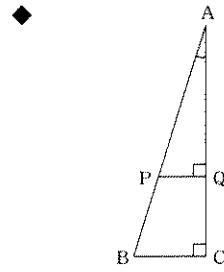
$$= \boxed{2}. \quad \cdots \text{才}$$

円錐の体積



底面が半径 r の円で、高さが h の円錐の体積 V は、

$$V = \frac{1}{3}\pi r^2 h.$$



この立体の体積は、

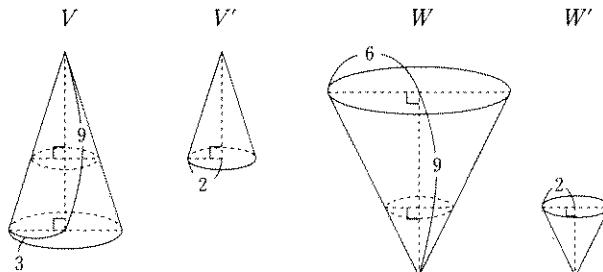
$$\begin{aligned}
 & = \left(\text{cone} - \text{smaller cone} \right) + \left(\text{cone} - \text{smaller cone} \right) \cdots (*) \\
 & = \text{cone } ABC - \left(\text{cone } ACD - \text{cone } ACP - \text{cone } CPQ \right)
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 & = 27\pi + \frac{1}{3}\pi \cdot 6^2 \cdot 9 - \frac{1}{3}\pi PQ^2 \cdot (AQ + QC) \\
 & = 27\pi + 108\pi - \frac{1}{3}\pi \cdot 2^2 \cdot 9 \\
 & = 135\pi - 12\pi \\
 & = \boxed{123\pi} \quad \cdots \text{力}
 \end{aligned}$$

◆ $AQ + QC = AC = 9$.

【(2)の(*)以降の別解】

(*) 以降については、相似な立体の体積比を用いて解答を導いてもよい。



上の4つの立体を V, V', W, W' とする。

円錐 V と V' は相似で、相似比は $3:2$ であるから、 V と V' の体積比は、

$$3^3 : 2^3, \text{ すなわち, } 27 : 8. \quad \cdots \textcircled{2}$$

また、円錐 W と W' は相似で、相似比は $6:2$ 、つまり、
 $3:1$ であるから、 W と W' の体積比は、

$$3^3 : 1^3, \text{ すなわち, } 27 : 1. \quad \cdots \textcircled{3}$$

これより、 V' 、 W' の体積は次のようになる。

V の体積は 27π であるから、 $\textcircled{2}$ より

$$(V' \text{ の体積}) = 27\pi \cdot \frac{8}{27} = 8\pi.$$

W の体積は $\frac{1}{3}\pi \cdot 6^2 \cdot 9 = 108\pi$ であるから、 $\textcircled{3}$ より

$$(W' \text{ の体積}) = 108\pi \cdot \frac{1}{27} = 4\pi.$$

したがって、求める体積は、 $(*)$ より

$$(27\pi - 8\pi) + (108\pi - 4\pi) = 123\pi$$

となる。

((2)の $(*)$ 以降の別解終り)

—— 相似な立体の体積比 ——

相似な 2 つの立体では、相似比
が $a:b$ ならば、体積比は $a^3:b^3$
である。

◆ 次のように求めてもよい。

求める回転体の下の部分を V''
とすると、 V'' の体積は、 $\textcircled{2}$ より

$$\begin{aligned}(V'' \text{ の体積}) &= 27\pi \cdot \left(1 - \frac{8}{27}\right) \\ &= 19\pi.\end{aligned}$$

また、上の部分を W'' とする
と、 W'' の体積は、 $\textcircled{3}$ より

$$\begin{aligned}(W'' \text{ の体積}) &= \frac{1}{3}\pi \cdot 6^2 \cdot 9 \left(1 - \frac{1}{27}\right) \\ &= 104\pi.\end{aligned}$$

よって、求める体積は、
 $19\pi + 104\pi = 123\pi.$

(答)

(1) $a=2$.

$$\frac{1}{x} + y = \frac{19\sqrt{2} - 24}{6}.$$

(2) 12π .

—— ポイントチェック ——

- (1) $x = \sqrt{14+2a}$ とする。 x が無理数になる最小の正の整数 a の値を求めよ。

また、このときの x の小数部分を y とするとき、 $\frac{1}{x} + y$

の値を求めよ。

- (2) $AC=4$, $BC=3$, $\angle ACB=90^\circ$ である三角形 ABC を、
AC を軸として 1 回転させてできる立体の体積を求めよ。

[2] 【数学Ⅰ 数と式(因数分解)／中学範囲 関数】

1(i) $2a^2+a-1$ を因数分解せよ.

(ii) $2x^2-(4a+1)x+2a^2+a-1$ を因数分解せよ.

(2) x の 2 次方程式

$$2x^2-(4a+1)x+2a^2+a-1=0$$

の 2 つの解を p, q ($p < q$) とする.

p, q が,

$$p^2=q$$

を満たすときの a の値を求めよ.

[2] O を原点とする座標平面上に、放物線 $y=ax^2$ と正方形 OABC がある。2 点 A, C はともに放物線上にあり、点 A の座標は (2, 2), 点 B の座標は (0, 4) である。

また、2 点 B, C を通る直線を l とし、 l と放物線との交点のうち、C でない方の交点を D とする。

(1)(i) a の値を求めよ.

(ii) 直線 l の式を求めよ.

(iii) D の x 座標を t とするとき、 t の値を求めよ.

(2) 直線 l 上に点 P をとる。

(i) 線分 OP が三角形 OBD の面積を 2 等分するときの点 P の座標を求めよ.

(ii) 三角形 ODP の面積が四角形 OADC の面積と等しくなるような点 P の座標をすべて求めよ.

● ● ○ 配点 (70点) ○ ○ ● ●

[1] (1)(i) 8 点 (ii) 10 点 (2) 17 点

[2] (1)(i) 5 点 (ii) 5 点 (iii) 5 点 (2)(i) 7 点 (ii) 13 点

● ● ○ 問題のレベル ○ ○ ●

[1] (I)(i) 基本 (ii) 標準 (2) 懸念

[2] (1)(i) 基本 (ii) 基本 (iii) 標準 (2)(i) 標準 (ii) 懸念

解

答

[1]

$$(1)(i) \quad 2a^2+a-1=(2a-1)(a+1). \quad \cdots(\text{答})$$

$$\begin{array}{r} 2 \\ \times \quad -1 \\ \hline 1 \end{array} \rightarrow \begin{array}{r} -1 \\ 1 \end{array} \rightarrow \begin{array}{r} -1 \\ 2 \\ 1 \end{array}$$

$$(ii) \quad 2x^2-(4a+1)x+2a^2+a-1$$

$$=2x^2-(4a+1)x+(2a-1)(a+1)$$

$$=\{2x-(2a-1)\}\{x-(a+1)\}$$

$$=(2x-2a+1)(x-a-1). \quad \cdots(\text{答})$$

$$\begin{array}{r} 2 \\ \times \quad -(2a-1) \\ \hline 1 \end{array} \rightarrow \begin{array}{r} -2a+1 \\ - \quad (a+1) \end{array} \rightarrow \begin{array}{r} -2a-2 \\ -(4a+1) \end{array}$$

(2)

道しるべ

(1)(ii) の結果を用いて、左辺を因数分解することにより、2つの解 p, q を求める。

$$2x^2 - (4a+1)x + 2a^2 + a - 1 = 0.$$

(1)(ii) の因数分解の結果を用いると、

$$(2x - 2a + 1)(x - a - 1) = 0$$

となるから、

$$x = a - \frac{1}{2}, \quad a + 1.$$

ここで、 $a - \frac{1}{2} < a + 1$ であるから、2つの解 p, q ($p < q$) は

$$p = a - \frac{1}{2}, \quad q = a + 1$$

となる。

これらが、 $p^2 = q$ を満たしているから、

$$\left(a - \frac{1}{2}\right)^2 = a + 1.$$

$$a^2 - a + \frac{1}{4} = a + 1.$$

$$a^2 - 2a - \frac{3}{4} = 0.$$

$$4a^2 - 8a - 3 = 0.$$

これを解の公式を用いて解くと、

$$\begin{aligned} a &= \frac{-(-8) \pm \sqrt{(-8)^2 - 4 \cdot 4 \cdot (-3)}}{2 \cdot 4} \\ &= \frac{8 \pm \sqrt{112}}{8} \\ &= \frac{8 \pm 4\sqrt{7}}{8} \\ &= \frac{2 \pm \sqrt{7}}{2}. \end{aligned}$$

…(答)

◆ $-\frac{1}{2} < 1$ より、

$$a - \frac{1}{2} < a + 1.$$

解の公式

2次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ の
解は、

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}.$$

◆ $\sqrt{112} = \sqrt{4^2 \cdot 7} = 4\sqrt{7}$.

ポイントチェック

(1) $2a^2 - a - 3$ を因数分解せよ。

(2) $2x^2 - (4a-1)x + 2a^2 - a - 3$ を因数分解せよ。

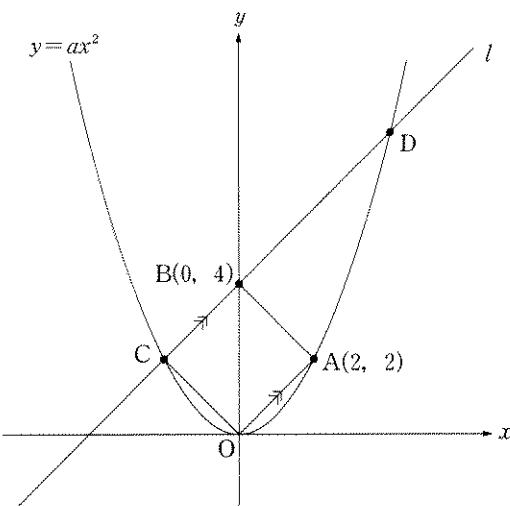
(答)

(1) $(2a-3)(a+1)$.

(2) $(2x-2a+3)(x-a-1)$.

[2]

(1)(i)



放物線 $y = ax^2$ は点 $A(2, 2)$ を通るから、

$$2 = a \cdot 2^2.$$

$$4a = 2.$$

よって、

$$a = \frac{1}{2}. \quad \cdots (\text{答})$$

(ii) 直線 OA の傾きは、

$$\frac{2-0}{2-0} = \frac{2}{2} = 1.$$

さらに、四角形 OABC は正方形であるから、 $OA \parallel BC$ より、 l の傾きは 1 である。

また、 l の y 切片は 4 である。

したがって、直線 l の式は、

$$y = x + 4. \quad \cdots (\text{答})$$

(iii) 点 D は直線 $l : y = x + 4$ 上にあるから、 D の座標は $(t, t+4)$ である。

$a = \frac{1}{2}$ より、放物線の式は $y = \frac{1}{2}x^2$ であり、 D はこの放物線上にあるから、

$$t+4 = \frac{1}{2}t^2.$$

$$2t+8 = t^2.$$

$$t^2 - 2t - 8 = 0.$$

$$(t-4)(t+2) = 0.$$

C の x 座標が -2 より、 D の x 座標である t の値は、

$$t = 4. \quad \cdots (\text{答})$$

◆ 正方形と放物線は y 軸に関して対称であるから、点 C の座標は $(-2, 2)$ である。

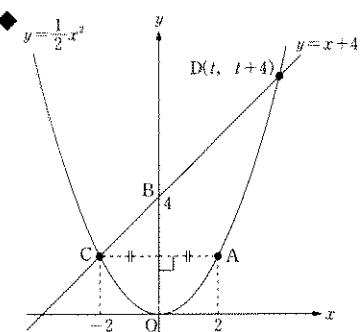
◆ (傾き) = $\frac{(y \text{ の増加量})}{(x \text{ の増加量})}$.

直線の式

傾きが a 、 y 切片が b である直線の式は、

$$y = ax + b.$$

◆ D の x 座標は t 。



(2)(i)

道しるべ

三角形OPBと三角形OPDは、辺PB、辺PDをそれぞれ底辺とみると高さが等しいから、
 $\triangle OPB = \triangle OPD$ となるのは
 点Pが線分BDの中点に一致するとき
 である。

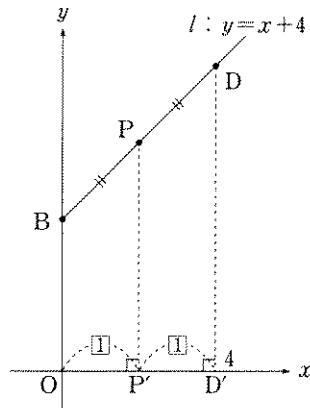
三角形OPBと三角形OPDは、辺PB、辺PDをそれぞれ底辺とみると高さが等しいから、線分OPが三角形OBDの面積を2等分する、つまり、 $\triangle OPB = \triangle OPD$ となるのは、

点Pが線分BDの中点に一致するとき
 である。

このとき、下の図のように、P、Dの各点を通るy軸に平行な直線を2本引き、それらとx軸との交点をそれぞれP'、D'とする、

$$\begin{aligned} OP' : P'D' &= BP : PD \\ &= 1 : 1 \end{aligned} \quad \cdots \textcircled{1}$$

である。



D'の座標は(4, 0)であるから、①よりP'の座標は、

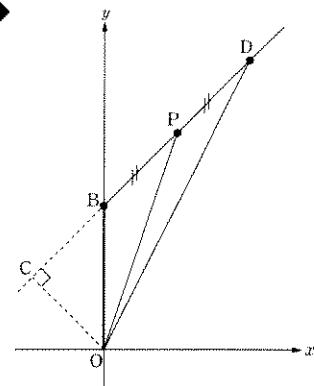
$$(2, 0).$$

Pのx座標はP'のx座標に等しく、Pのy座標は、Pが直線 $l: y = x + 4$ 上にあることから、

$$y = 2 + 4 = 6.$$

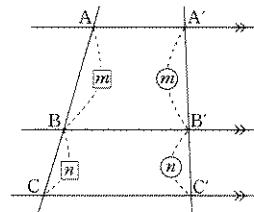
よって、Pの座標は、

$$(2, 6). \quad \cdots (\text{答})$$



平行線と比

$AA' \parallel BB'$, $AA' \parallel CC'$
 ならば、
 $AB : BC = A'B' : B'C'$.



(ii)

道しるべ

三角形 ODPにおいて、辺 DPを底辺とみると高さは OCである。一方、台形 OADCにおいて、辺 OAと辺 CDをそれぞれ上底と下底とみると、こちらも高さは OCである。

よって、三角形 ODPの面積と台形 OADCの面積が等しくなる条件は、

$$\frac{1}{2}DP \cdot OC = \frac{1}{2}(CD+OA) \cdot OC,$$

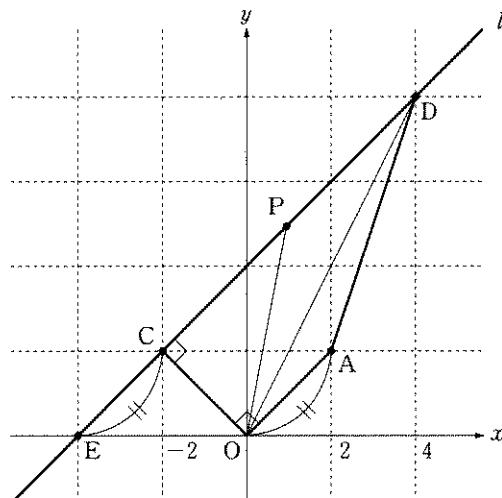
すなわち、

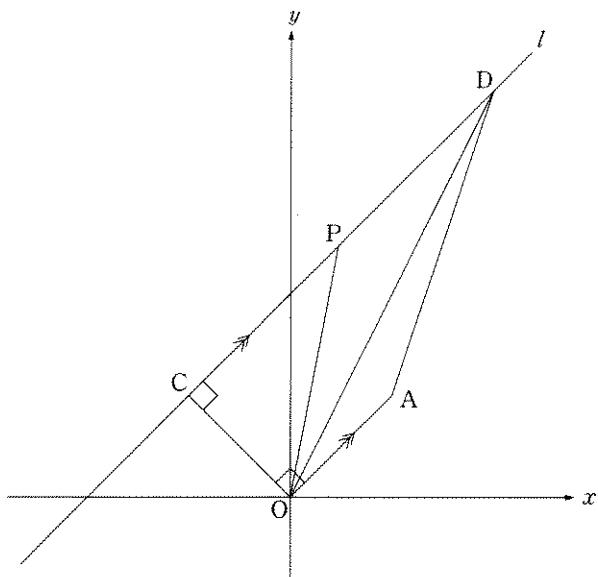
$$DP = CD + OA$$

である。

そこで、直線 l 上に $OA = EC$ となるような点 Eを下の図のようにとり、 $DP = DE$ を満たす点 Pを求めるよい。

このような点 Pは E以外にもう1つあることに注意する。





三角形 ODPにおいて、辺 DPを底辺とみると高さは OCであるから、

$$(\text{三角形 ODP の面積}) = \frac{1}{2} DP \cdot OC. \quad \cdots \textcircled{2}$$

台形 OADCにおいて、辺 OAと辺 CDをそれぞれ上底と下底とみると高さは OCであるから、

$$(\text{台形 OADC の面積}) = \frac{1}{2} (CD + OA) \cdot OC. \quad \cdots \textcircled{3}$$

これより、②と③が等しくなる条件は、

$$\frac{1}{2} DP \cdot OC = \frac{1}{2} (CD + OA) \cdot OC,$$

すなわち、

$$DP = CD + OA \quad \cdots \textcircled{4}$$

である。

ここで、点(-4, 0)をEとすると、四角形OACEは平行四辺形になるから、AO=CEである。

よって、④より、

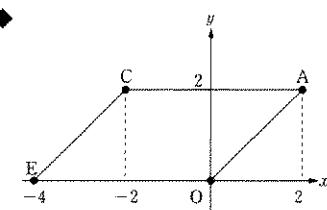
$$DP = CD + CE,$$

すなわち、

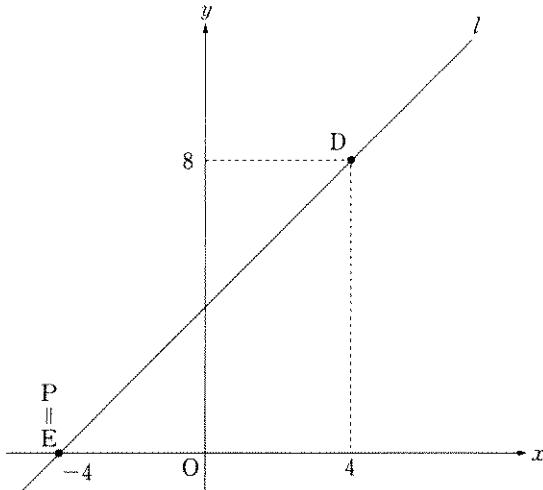
$$DP = DE \quad \cdots \textcircled{5}$$

となる。

したがって、⑤を満たすPの座標を求めればよい。



・(Pのx座標) < (Dのx座標) のとき,

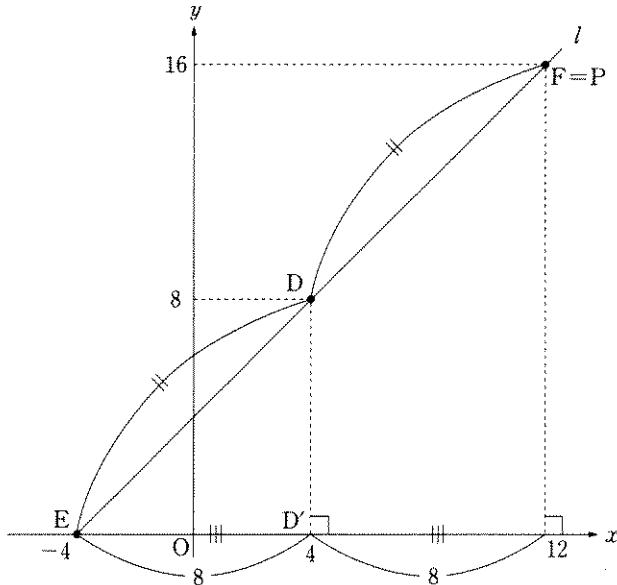


⑤を満たすのは P と E が一致するときである。

よって、三角形 ODP と四角形 OADC の面積が等しくなる
ような P の座標は、

$$P(-4, 0).$$

・(Dのx座標) < (Pのx座標) のとき,



⑤を満たすのは、P が D に関して E と対称な点になるときである。ここで、D に関して E と対称な点を F とすると、F の x 座標は (2)(i) と同様に考えて、12 である。また、F の y 座標は、F が l: y = x + 4 上にあるから x = 12 を代入すると、

$$y = 12 + 4 = 16.$$



$$DP = DE.$$

…⑤



$$DP = DE.$$

…⑤

よって、三角形 ODP と四角形 OADC の面積が等しくなる
ような P の座標は、F の座標と一致するから

$$P(12, 16).$$

以上より、求める P の座標は、

$$(-4, 0), (12, 16). \quad \cdots (\text{答})$$

———— ポイントチェック ————

O を原点とする座標平面がある。放物線 $y = ax^2$ 上に異なる 2 点 A, B があり、点 A の座標は $(-3, -9)$ である。

- (1) a の値を求めよ。
- (2) 直線 AB の傾きを 2 とする。
 - (i) 点 B の x 座標を t とするとき、 t の値を求めよ。
 - (ii) 直線 AB 上に点 P をとる。線分 OP が三角形 OAB の面積を 2 等分するときの点 P の x 座標を求めよ。

(答)

- (1) $a = -1$.
(2)(i) $t = 1$.
(ii) -1 .

3 【数学Ⅰ 数と式(1次不等式)】

x についての3つの不等式

$$3x+7 \geq x+3, \quad \cdots ①$$

$$x+\frac{\sqrt{2}}{2} > \frac{3}{2}x - \frac{1}{2}, \quad \cdots ②$$

$$ax+1 > x+a^2 \quad \cdots ③$$

がある。ただし、 a は定数とする。

- (1) ①を解け。
- (2) ②を解け。また、①かつ②を満たす整数 x の個数を求めよ。
- (3) ①かつ②かつ $x < a+1$ を満たす x が存在するような a の値の範囲を求めよ。
- (4) ①かつ②かつ③を満たす整数 x がちょうど1個存在するような a の値の範囲を求めよ。

● ● ○ 配点(50点)

- (1) 7点 (2) 15点 (3) 10点 (4) 18点

● ● ○ 問題のレベル

- (1) 基本 (2) 標準 (3) 応用 (4) 発展

解

答

- (1) ①より、

$$\begin{aligned} 2x &\geq -4, \\ x &\geq -2. \end{aligned} \quad \cdots ①' \quad \text{(答)}$$

- (2)

道しるべ

不等式の解を数直線上で考える。

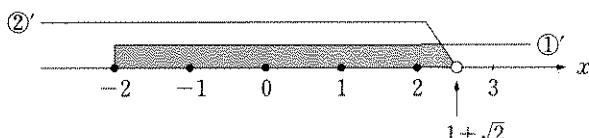
- ②の両辺に2を掛けて、

$$\begin{aligned} 2x + \sqrt{2} &> 3x - 1, \\ -x &> -1 - \sqrt{2}. \end{aligned}$$

- 両辺に $-1(<0)$ を掛けて、

$$x < 1 + \sqrt{2}. \quad \cdots ②' \quad \text{(答)}$$

①かつ②、すなわち①'かつ②'を満たす x の範囲を数直線上に表すと、下の図のようになる。



上の数直線上より、①かつ②を満たす整数は、

◆ $3x+7 \geq x+3. \quad \cdots ①$

◆ $x + \frac{\sqrt{2}}{2} > \frac{3}{2}x - \frac{1}{2}. \quad \cdots ②$

◆ 両辺に負の数を掛けると、不等号の向きが逆になる。

◆ $1 < \sqrt{2} < 2$ より、
 $2 < 1 + \sqrt{2} < 3.$

$$x = -2, -1, 0, 1, 2$$

であるから、その個数は、

5(個).

…(答)

- (3) ①かつ②を満たす x の範囲は、

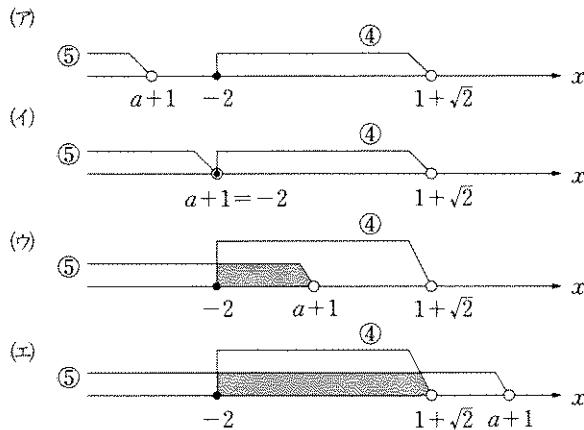
$$-2 \leq x < 1 + \sqrt{2} \quad \cdots ④$$

であるから、①かつ②かつ $x < a+1$ を満たす x が存在する条件は、

④と $x < a+1$ ⑤が共通部分をもつこと …(*)

である。

ここで、 a の値を動かすと、④と⑤は、次の(ア), (イ), (ウ), (エ)のようになる。



◆ (イ) $a+1 = -2$ のとき、
 $x = -2$ は④には含まれるが、
⑤には含まれない。よって、共通部分はない。

よって、(*)を満たすのは、上の図の(ウ)と(エ)の場合であるから、

$$-2 < a+1.$$

$$-a < 3.$$

$$a > -3.$$

したがって、求める a の値の範囲は、

$$a > -3. \quad \cdots \text{(答)}$$

(4)

道しるべ

不等式の両辺を文字定数 A ($A \neq 0$) で割るときは、
 A の符号に注意する。

たとえば、 x の不等式 $Ax < B$ は、

(i) $A > 0$ のとき、

$$x < \frac{B}{A}.$$

(ii) $A < 0$ のとき、不等号の向きが逆になり、

$$x > \frac{B}{A}.$$

①かつ②を満たす x の範囲は ④であるから、④かつ③を満たす整数 x がちょうど 1 個存在する条件を考えればよい。

③より、

$$ax - x > a^2 - 1.$$

$$(a-1)x > (a-1)(a+1). \quad \cdots ③'$$

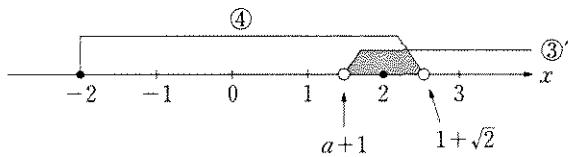
ここで、 $a-1$ の符号に注意して、場合分けをして考える。

(i) $a-1 > 0$ 、すなわち $a > 1$ のとき、

③'より、

$$x > a+1. \quad \cdots ③''$$

③''と④を同時に満たす整数 x がちょうど 1 個になるのは、次のような状態のときである。



よって、

$$1 \leq a+1 < 2.$$

$$0 \leq a < 1.$$

これは、 $a > 1$ に反するから、このような a は存在しない。

(ii) $a-1=0$ 、すなわち $a=1$ のとき、

③'より、

$$0 \cdot x > 0$$

となり、これを満たす x は存在しないから、④かつ③を満たす整数 x も存在しない。

(iii) $a-1 < 0$ 、すなわち $a < 1$ のとき、

③'より、

$$x < a+1. \quad \cdots ③'''$$

③'''と④を同時に満たす整数 x がちょうど 1 個になるのは、次のような状態のときである。

◆ $ax + 1 > x + a^2. \quad \cdots ③$

◆ (i) $a-1 > 0$,

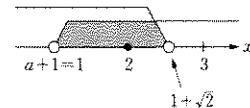
(ii) $a-1=0$,

(iii) $a-1 < 0$

の場合に分けて考える。

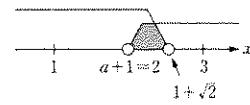
◆ ④と $x > a+1$ を同時に満たす整数 x は 2 である。

◆ $a+1=1$ のとき、



④かつ③を満たす整数 x は、 $x=2$ の 1 個より適する。

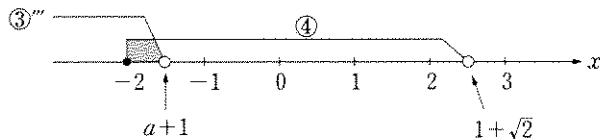
・ $a+1=2$ のとき、



④かつ③を満たす整数 x は存在しないから不適である。

◆ たとえば、 $0 \cdot x > 0$ に $x=1, -2$ をそれぞれ代入してみると、どちらも $0 > 0$ となる。このように、 x にどのような値を代入しても、 $0 > 0$ となり、この不等式は成立しないから、 $0 \cdot x > 0$ を満たす x は存在しない。

◆ $(a-1)x > (a-1)(a+1)$ の両辺を $a-1(<0)$ で割るから不等号の向きが逆になる。



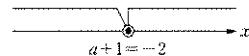
よって、

$$-2 < a+1 \leq -1.$$

$$-3 < a \leq -2.$$

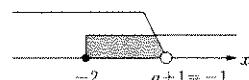
これは、 $a < 1$ を満たす。

◆・ $a+1 = -2$ のとき、



④かつ③を満たす整数x
は存在しないから不適である。

・ $a+1 = -1$ のとき、



④かつ③を満たす整数x
は、 $x = -2$ の 1 個より適する。

以上、(i), (ii), (iii) より、求める a の値の範囲は、

$$-3 < a \leq -2. \quad \cdots(\text{答})$$

ポイントチェック

x についての3つの不等式

$$2x+3 < x+5, \quad \cdots \text{①}$$

$$-3x-1 \leq -x+1, \quad \cdots \text{②}$$

$$x < a+3 \quad \cdots \text{③}$$

がある。

- (1) ①かつ②を満たす x の範囲を求めよ。
- (2) ①かつ②かつ③を満たす x が存在するような a の値の範囲を求めよ。

(答)

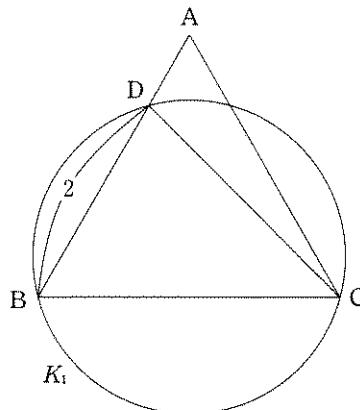
$$(1) -1 \leq x < 2.$$

$$(2) a > -4.$$

4 【数学A 図形の性質】

1辺の長さが2より大きい正三角形ABCがあり、辺AB上にBD=2となるように点Dをとったところ、 $\angle BCD=45^\circ$ となった。また、辺BC上に、辺BCと直線DHが垂直になるように点Hをとる。

- (1) 線分DH, CD, BCの長さをそれぞれ求めよ。
- (2) 3点B, C, Dを通る円を K_1 とする。また、C, Dにおいて K_1 の接線をそれぞれ引き、その2本の接線の交点をEとする。
 - (i) $\angle ECD$ の大きさ、線分ECの長さをそれぞれ求めよ。
 - (ii) 線分AEの長さを求めよ。
 - (iii) 3点A, C, Eを通る円を K_2 とする。円 K_1 の周および内部と円 K_2 の周および内部の共通部分の面積を求めよ。



● ● ● 配点(50点)

- (1) 15点 (2)(i) 10点 (ii) 10点 (iii) 15点

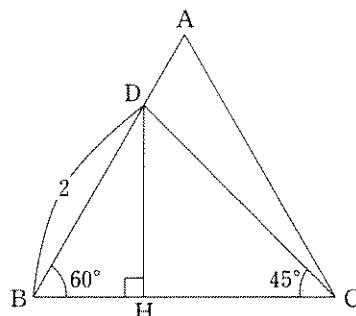
● ● ● 問題のレベル

- (1) 基本 (2)(i) 標準 (ii) 応用 (iii) 発展

解

答

(1)



$BC \perp DH$ と三角形 ABC が正三角形であることより、三角形 BDH は、

$\angle BHD = 90^\circ$, $\angle DBH = 60^\circ$, $\angle BDH = 30^\circ$
の直角三角形である。

よって、辺の長さの比について、

$$DB : BH : DH = 2 : 1 : \sqrt{3}$$

であるから、 $DB = 2$ より、

$$BH = 1, \quad \dots \textcircled{①}$$

$$DH = \sqrt{3}. \quad \dots \text{(答)}$$

一方、三角形 CDH は、

$$\angle CHD = 90^\circ, \angle DCH = \angle CDH = 45^\circ$$

の直角二等辺三角形である。

よって、辺の長さの比について、

$$CH : DH : CD = 1 : 1 : \sqrt{2}$$

であるから、 $DH = \sqrt{3}$ より、

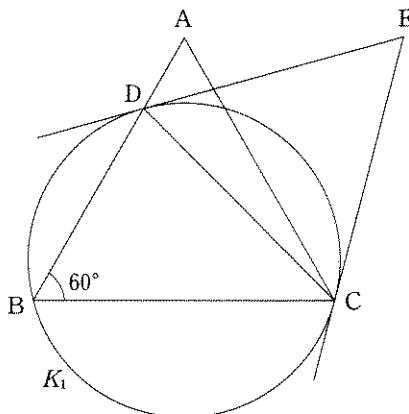
$$CH = \sqrt{3}, \quad \dots \textcircled{②}$$

$$CD = \sqrt{6}. \quad \dots \text{(答)}$$

①, ②より、

$$\begin{aligned} BC &= BH + CH \\ &= 1 + \sqrt{3}. \quad \dots \text{(答)} \end{aligned}$$

(2)(i)

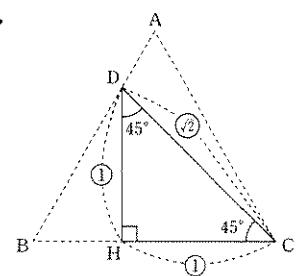
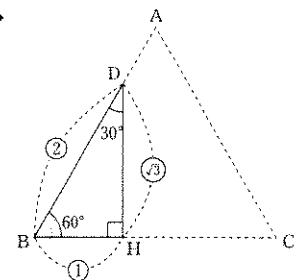


直線 CE は点 C における円 K_1 の接線であるから、円の接線と弦の作る角に関する定理より、

$$\angle ECD = \angle CBD = 60^\circ. \quad \dots \textcircled{③} \quad \dots \text{(答)}$$

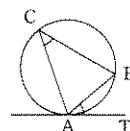
同様に、直線 DE は点 D における円 K_1 の接線であるから、円の接線と弦の作る角に関する定理より、

$$\angle EDC = \angle CBD = 60^\circ. \quad \dots \textcircled{④}$$



$$\begin{aligned} \blacklozenge \quad DH : CD &= 1 : \sqrt{2} \text{ より,} \\ CD &= \sqrt{2} DH \\ &= \sqrt{2} \cdot \sqrt{3} \\ &= \sqrt{6}. \end{aligned}$$

円の接線と弦の作る角
に関する定理



円の接線とその接点を通る弦の
つくる角は、その角の内部にある
弧に対する円周角に等しい。すな
わち、
 $\angle TAB = \angle ACB.$

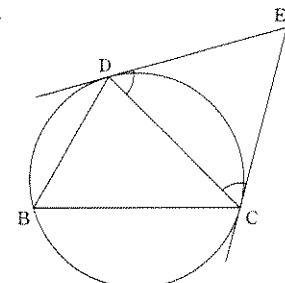
さらに、三角形 CDEにおいて、三角形の内角の和が 180° であることと③、④から、

$$\begin{aligned}\angle CED &= 180^\circ - \angle ECD - \angle EDC \\ &= 180^\circ - 60^\circ - 60^\circ \\ &= 60^\circ.\end{aligned}\quad \cdots \textcircled{5}$$

よって、③、④、⑤より、三角形 CDE はすべての角が 60° であるから、正三角形である。

したがって、

$$\begin{aligned}EC &= CD \\ &= \sqrt{6}.\end{aligned}\quad \cdots \text{(答)}$$



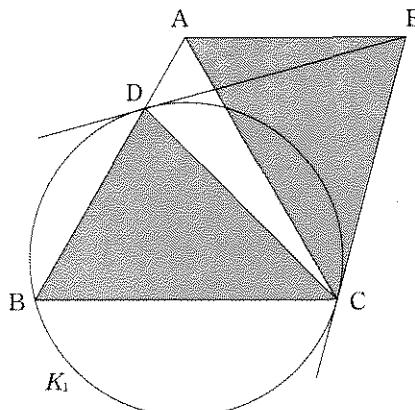
◆ (I)より、 $CD = \sqrt{6}$.

(ii)

道しるべ

線分 AE を辺にもつ三角形 ACE に着目して、三角形 BCD との関係を調べる。

三角形 ACE と三角形 BCD の関係について調べる。



三角形 CDE と三角形 ABC はともに正三角形であるから、

$$CE = CD, \quad \cdots \textcircled{6}$$

$$AC = BC. \quad \cdots \textcircled{7}$$

さらに、

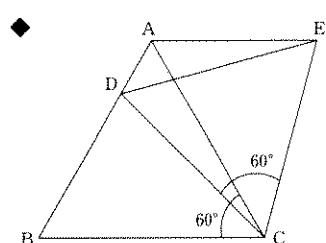
$$\angle ECA = \angle ECD - \angle ACD = 60^\circ - \angle ACD,$$

$$\angle DCB = \angle ACB - \angle ACD = 60^\circ - \angle ACD$$

であるから、

$$\angle ECA = \angle DCB. \quad \cdots \textcircled{8}$$

◆ 三角形 CDE の内角はすべて 60° である。



よって、三角形 ACE と三角形 BCDにおいて、⑥、⑦、⑧より、2組の辺の長さとその間の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle ACE \cong \triangle BCD$$

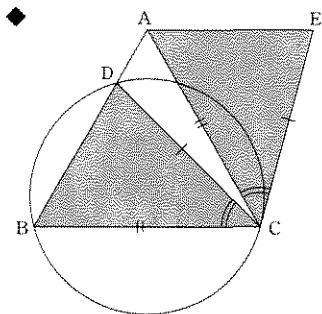
である。

したがって、対応する辺の長さは等しいから、

$$AE = BD$$

$$= 2.$$

…(答)

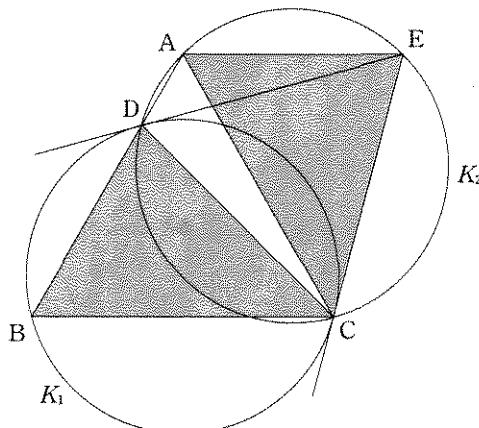


◆ $BD = 2$.

(iii)

道しるべ

$\triangle ACE \cong \triangle BCD$ であることに注意して、2つの円 K_1 , K_2 の位置関係を考えてみる。

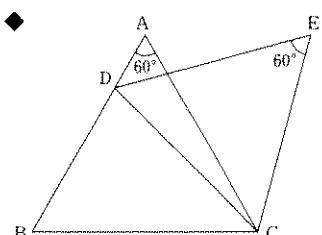


K_1 は3点 B, C, D を通る円であり、 K_2 は3点 A, C, E を通る円であることと、 $\triangle BCD \cong \triangle ACE$ であることから、2つの円 K_1 , K_2 の半径は等しい。

また、三角形 ABC と CDE は正三角形であるから、

$$\angle DAC = \angle DEC = 60^\circ.$$

◆ 1つの三角形に対して外接円は1つしか存在しないから、 $\triangle BCD$ と $\triangle ACE$ が合同より、円 K_1 と円 K_2 の大きさは一致する。よって、 K_1 , K_2 の半径は等しくなる。

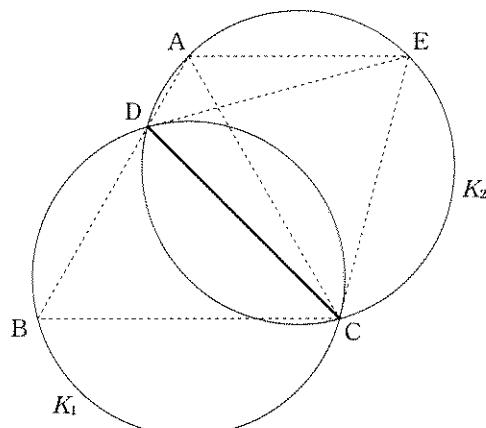


よって、4点A, D, C, Eについて、A, Eが直線CDに対して同じ側にあって、

$$\angle DAC = \angle DEC$$

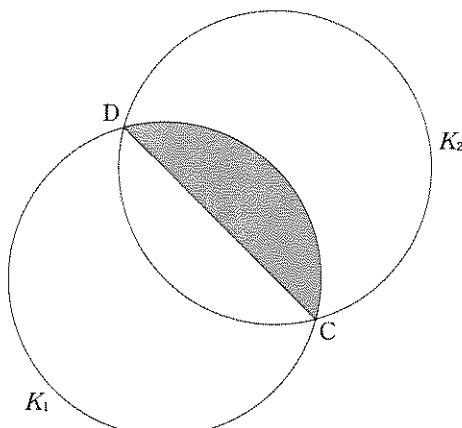
が成り立つから、円周角の定理の逆より、4点A, D, C, Eは同一円周上にある。つまり、

4点A, D, C, Eはすべて円 K_2 上にあることがわかる。

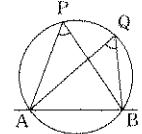


したがって、2点C, Dは2つの円 K_1 , K_2 の交点になっていて、弦CDは K_1 , K_2 の共通弦である。2つの円 K_1 , K_2 は半径が等しいから、 K_1 , K_2 は直線CDに関して対称である。

よって、2つの円 K_1 , K_2 の共通部分の面積は、下の図の網掛け部分の面積の2倍を求めればよい。



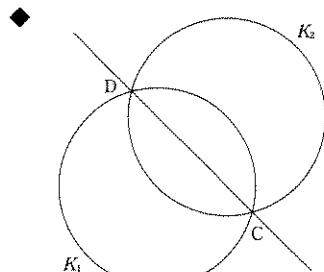
円周角の定理の逆



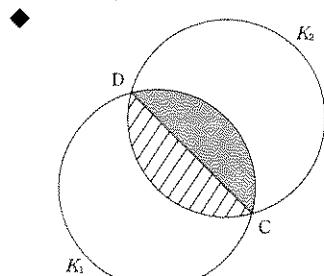
4点A, B, P, Qについて、P, Qが直線ABに対して同じ側にあって

$$\angle APB = \angle AQB$$

ならば、この4点は同一円周上にある。



K_1 , K_2 は直線CDに関して対称である。

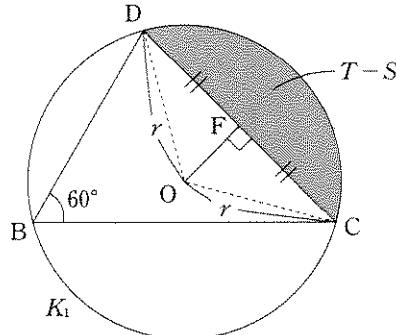


求める面積は図の網掛け部分と斜線部分の面積の和であるが、 K_1 と K_2 は直線CDに関して対称であるから、網掛け部分と斜線部分の面積は等しい。

ここで、 K_1 の中心を O とし、三角形 OCD の面積を S 、扇形 OCD の面積を T とすると、求める面積は、

$$2(T - S) \quad \cdots(9)$$

である。そこで、 S 、 T を計算するために、円 K_1 の半径について考える。



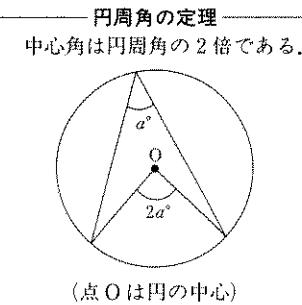
三角形 BCD の外接円である円 K_1 の半径を r とし、弦 CD の中点を F とすると、 $OF \perp CD$ である。

ここで、円周角の定理より

$$\angle COD = 2\angle CBD = 120^\circ$$

であり、 OF は $\angle COD$ を二等分するから、

$$\angle COF = \angle DOF = 60^\circ.$$



よって、 r は、直角三角形 COF の辺の長さの比に着目して、

$$OC : CF = 2 : \sqrt{3}.$$

$$r : \frac{1}{2}CD = 2 : \sqrt{3}.$$

$$r : \frac{\sqrt{6}}{2} = 2 : \sqrt{3}.$$

$$\sqrt{3}r = \sqrt{6}.$$

$$r = \sqrt{2}.$$

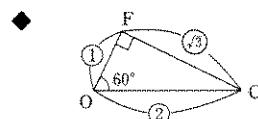
さらに、

$$OF = \frac{1}{2}OC = \frac{1}{2}r = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

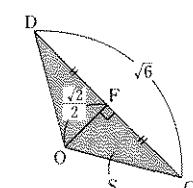
であるから、三角形 OCD の面積 S は、

$$S = \frac{1}{2}OF \cdot CD$$

$$= \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \sqrt{6}$$



◆ (1)より、 $CD = \sqrt{6}$.



$$\begin{aligned}
 &= \frac{\sqrt{12}}{4} \\
 &= \frac{\sqrt{3}}{2}. \quad \cdots \textcircled{10}
 \end{aligned}$$

また、扇形 OCD の面積 T は、

$$\begin{aligned}
 T &= \pi(\sqrt{2})^2 \cdot \frac{120^\circ}{360^\circ} \\
 &= \frac{2}{3}\pi. \quad \cdots \textcircled{11}
 \end{aligned}$$

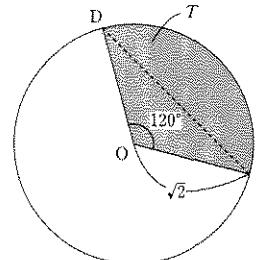
よって、求める面積は、\textcircled{10}, \textcircled{11} を \textcircled{9} に代入して、

$$2\left(\frac{2}{3}\pi - \frac{\sqrt{3}}{2}\right) = \frac{4}{3}\pi - \sqrt{3}. \quad \cdots (\text{答})$$

◆ 扇形 OCD の中心角は、

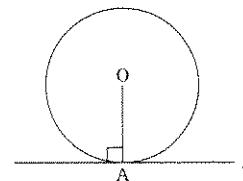
$$\angle COD = 120^\circ$$

である。



$$2(T - S). \quad \cdots \textcircled{9}$$

◆



直線 l が点 A で円 O に接するとき、

$$OA \perp l.$$

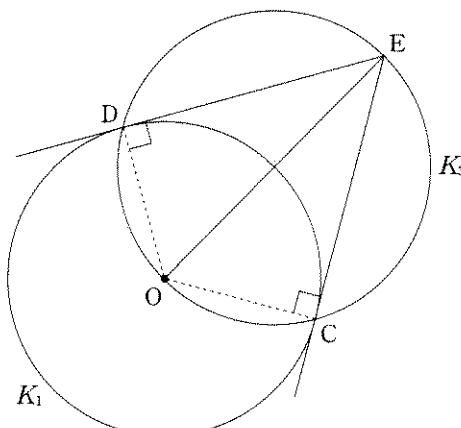
【参考】

この問題において、5点 O, A, C, D, E は円 K_2 上にあるが、そのことは次のようにしてわかる。

直線 EC, ED は点 C, D における K_1 の接線であるから、

$$\angle ECO = \angle EDO = 90^\circ$$

である。



これより、四角形 OCED において

$$\angle ECO + \angle EDO = 180^\circ$$

であるから、四角形 OCED は円に内接する。

よって、4点 O, C, E, D は同一円周上にある。ここで、その円を K_3 とすると、

四角形が円に内接する条件
1組の対角の和が 180° である
四角形は円に内接する。

K_3 は三角形 CDE の外接円 $\cdots \textcircled{7}$

である。

また、4点 A, D, C, E はすべて円 K_2 上にあるから

K_2 は三角形 CDE の外接円 $\cdots \textcircled{1}$

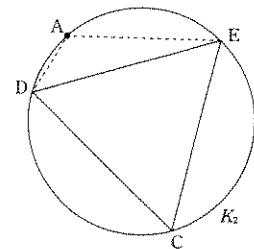
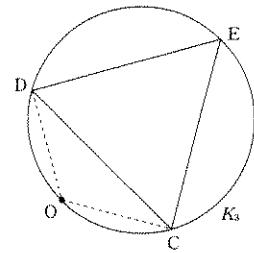
である。

1つの三角形に対して外接円は1つしか存在しないから、
 $\textcircled{7}$, $\textcircled{1}$ より

円 K_2 と円 K_3 は一致する。

したがって、5点 O, A, C, D, E は円 K_2 上にあることがわかる。

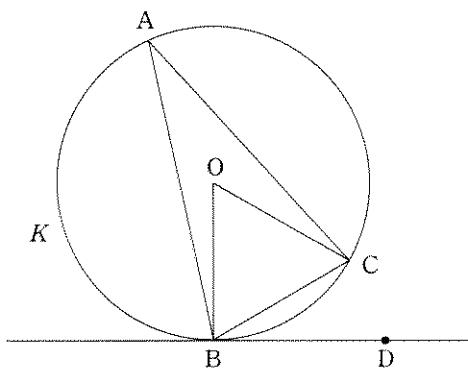
(参考終り)



ポイントチェック

図のように、Oを中心とする半径2の円K上に3点A, B, Cがあり、点BにおけるKの接線上に点Dがある。
 $\angle BAC = 30^\circ$ のとき、

- (1) $\angle BOC$ の大きさを求めよ。
- (2) $\angle CBD$ の大きさを求めよ。
- (3) 三角形OBCの面積を求めよ。



(答)

- (1) 60° .
- (2) 30° .
- (3) $\sqrt{3}$.

5 【数学A 集合の要素の個数】

全体集合 U とその部分集合 A, B, C がある。 U, A, B, C について、

U は 1 から 500 までの自然数の集合、

A は 3 の倍数の集合、

B は 8 の倍数の集合、

C は 10 の倍数の集合

とする。

(1)(i) 集合 $A \cap C$ の要素の個数 $n(A \cap C)$ を求めよ。

(ii) 集合 $B \cap C$ の要素の個数 $n(B \cap C)$ を求めよ。

(iii) 集合 $A \cup C$ の要素の個数 $n(A \cup C)$ を求めよ。

(2) 集合 $A \cap B \cap C$ の要素の個数 $n(A \cap B \cap C)$ 、および、集合 $\overline{A} \cap \overline{B} \cap C$ の要素の個数 $n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C)$ をそれぞれ求めよ。

(3) 1 から 500 までの自然数 k ($k=1, 2, 3, \dots, 500$) に対して、次のように点数を定める。

$k \in A$ のとき 1 点、 $k \in B$ のとき 2 点、 $k \in C$ のとき 3 点。

ただし、 k が 2 つ以上の集合の要素となるときは、その点数の合計を k の点数とし、
 $k \notin (A \cup B \cup C)$ のときは 0 点とする。

たとえば、 $k \in A$ かつ $k \in B$ かつ $k \notin C$ のときは、 k の点数は $1+2=3$ (点) となり、
 $k \in A$ かつ $k \in B$ かつ $k \in C$ のときは、 k の点数は $1+2+3=6$ (点) となる。

さらに、 k の点数が m のとき、 X を $X=k \times m$ と定める。

なお、 $k \in A$ は k が集合 A の要素であることを表し、 $k \notin A$ は k が集合 A の要素でないことを表す。

(i) X が 0 以外の 3 の倍数となる k の個数を求めよ。

(ii) X が 0 以外の 6 の倍数となる k の個数を求めよ。

● ● ○ 配点 (50点) ○ ○ ● ●

(1)(i) 4 点 (ii) 4 点 (iii) 4 点 (2) 13 点 (3)(i) 10 点 (ii) 15 点

● ● ○ 問題のレベル ○ ○ ●

(1)(i) 基本 (ii) 基本 (iii) 基本 (2) 標準 (3)(i) 応用 (ii) 発展

解

答

(1)(i) 集合 $A \cap C$ は 1 から 500 までの自然数のうち、3 の倍数

かつ 10 の倍数、すなわち、30 の倍数の集合である。

よって、

$$A \cap C = \{30 \cdot 1, 30 \cdot 2, 30 \cdot 3, \dots, 30 \cdot 16\}$$

であるから、

$$n(A \cap C) = 16. \quad \cdots (\text{答})$$

◆ 3 と 10 の最小公倍数は 30 である。

◆ $500 \div 30 = 16 \cdots 20$ であるから、集合 $A \cap C$ の要素で

最大のものは、

$$30 \cdot 16 = 480$$

である。

(ii) 集合 $B \cap C$ は 1 から 500 までの自然数のうち, 8 の倍数かつ 10 の倍数, すなわち, 40 の倍数の集合である.

よって,

$$B \cap C = \{40 \cdot 1, 40 \cdot 2, 40 \cdot 3, \dots, 40 \cdot 12\}$$

であるから,

$$n(B \cap C) = 12. \quad \cdots (\text{答})$$

(iii) 1 から 500 までの自然数のうち, 3 の倍数が集合 A の要素であるから,

$$A = \{3 \cdot 1, 3 \cdot 2, 3 \cdot 3, \dots, 3 \cdot 166\}$$

である.

よって,

$$n(A) = 166.$$

1 から 500 までの自然数のうち, 10 の倍数が集合 C の要素であるから,

$$C = \{10 \cdot 1, 10 \cdot 2, 10 \cdot 3, \dots, 10 \cdot 50\}$$

である.

よって,

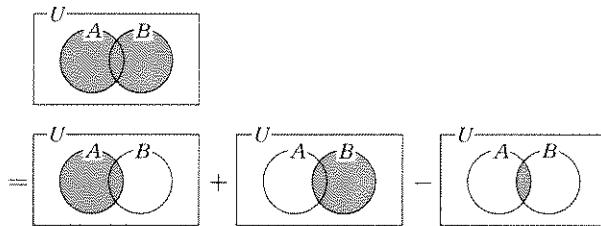
$$n(C) = 50.$$

これらと, (i) の結果である $n(A \cap C) = 16$ より,

$$\begin{aligned} n(A \cup C) &= n(A) + n(C) - n(A \cap C) \\ &= 166 + 50 - 16 \\ &= 200. \quad \cdots (\text{答}) \end{aligned}$$

【(1)(iii) の参考】

一般に, 全体集合 U の 2 つの部分集合 A, B に対して,



より,

$$n(A \cup B) = n(A) + n(B) - n(A \cap B)$$

が成り立つ.

(1)(iii) の参考終り)

◆ 8 と 10 の最小公倍数は 40 である.

$8 = 2^3, 10 = 2 \cdot 5$ より, 最小公倍数 $2^3 \cdot 5 = 40$ が求められる.

◆ $500 \div 40 = 12 \cdots 20$

であるから, 集合 $B \cap C$ の要素で最大のものは,

$$40 \cdot 12 = 480$$

である.

◆ $500 \div 3 = 166 \cdots 2$

であるから, 集合 A の要素で最大のものは,

$$3 \cdot 166 = 498$$

である.

◆ $500 \div 10 = 50$

であるから, 集合 C の要素で最大のものは,

$$10 \cdot 50 = 500$$

である.

和集合の要素の個数

$$\begin{aligned} n(A \cup B) &= n(A) + n(B) - n(A \cap B). \end{aligned}$$

(2) 集合 $A \cap B \cap C$ は、1から500までの自然数のうち、3の倍数かつ8の倍数かつ10の倍数、すなわち、120の倍数の集合である。

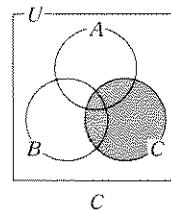
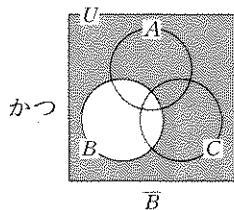
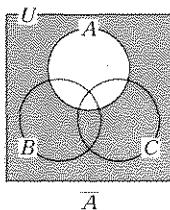
よって、

$$A \cap B \cap C = \{120 \cdot 1, 120 \cdot 2, 120 \cdot 3, 120 \cdot 4\}$$

であるから、

$$n(A \cap B \cap C) = 4. \quad \cdots (\text{答})$$

次に、集合 $\overline{A} \cap \overline{B} \cap C$ を図示すると、

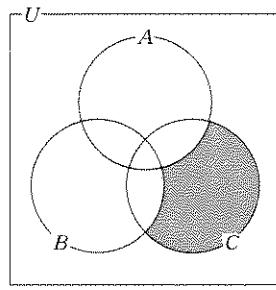


かつ

かつ

かつ

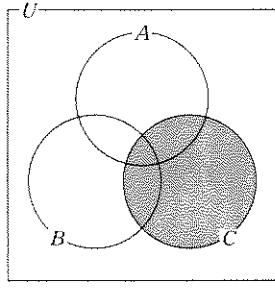
より、



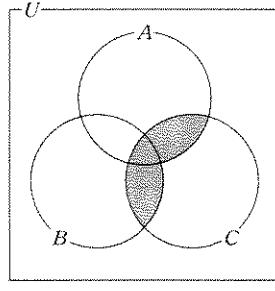
$\overline{A} \cap \overline{B} \cap C$

となる。

よって、 $\overline{A} \cap \overline{B} \cap C$ は



から



$(A \cap C) \cup (B \cap C)$

を除いたものであるから、網掛け部分の集合の要素の個数に着目すると、

$$n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C) = n(C) - n((A \cap C) \cup (B \cap C)) \quad \cdots \textcircled{1}$$

である。

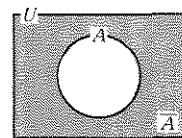
◆ 3と8と10の最小公倍数は120である。

$3=3, 8=2^3, 10=2 \cdot 5$ より、
最小公倍数 $2^3 \cdot 3 \cdot 5 = 120$ が求められる。

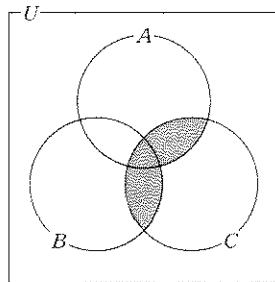
◆ $500 \div 120 = 4 \cdots 20$
であるから、集合 $A \cap B \cap C$ の要素で最大のものは、
 $120 \cdot 4 = 480$

である。

◆ 全体集合 U の部分集合 A に対して、 \overline{A} を A の補集合という。

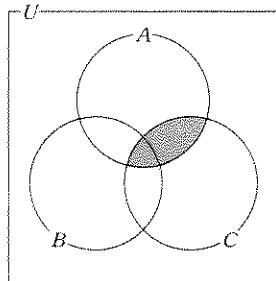


ここで、

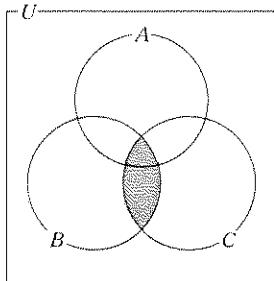


は、

$$(A \cap C) \cup (B \cap C)$$

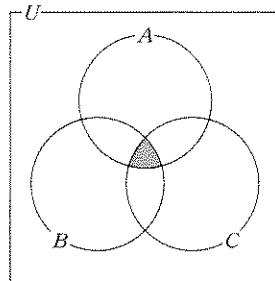


と



$$B \cap C$$

をあわせたものから



$$A \cap B \cap C$$

を除いたものである。

よって、網掛け部分の集合の要素の個数に着目すると、

$$\begin{aligned} & n((A \cap C) \cup (B \cap C)) \\ &= n(A \cap C) + n(B \cap C) - n(A \cap B \cap C) \quad \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

である。

したがって、(1), (2)の結果である

$$n(A \cap C) = 16, \quad n(B \cap C) = 12, \quad n(A \cap B \cap C) = 4$$

を②に代入すると、

$$\begin{aligned} & n((A \cap C) \cup (B \cap C)) = 16 + 12 - 4 \\ &= 24. \end{aligned}$$

よって、これと $n(C) = 50$ を①に代入すると、

$$\begin{aligned} & n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C) = 50 - 24 \\ &= 26. \quad \cdots (\text{答}) \end{aligned}$$

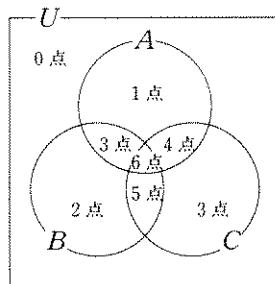
$$\begin{aligned} & \blacklozenge \quad n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C) \\ &= n(C) - n((A \cap C) \cup (B \cap C)). \quad \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

(3)(i)

道しるべ

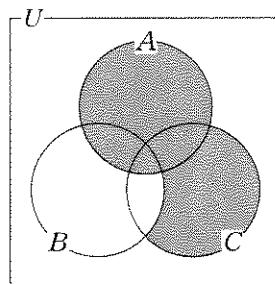
X が 3 の倍数となる k はどのような集合の要素と一致しているかを考える。

集合 A, B, C をベン図で表したとき、それぞれのエリヤの要素に対する点数 m は次のようになる。

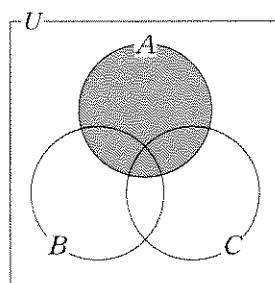


よって、 k に対する X が 0 以外の 3 の倍数となるのは、 k が 3 の倍数、または m が 0 以外の 3 の倍数のときである。

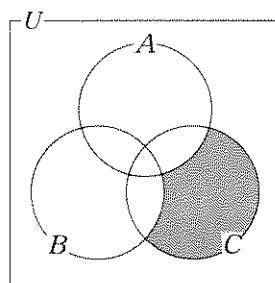
ここで、 X が 0 以外の 3 の倍数となる k の集合を図示すると次の網掛け部分となる。



この集合は、



と



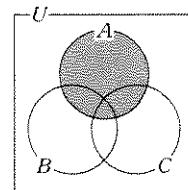
をあわせた集合であるから、要素の個数は

$$n(A) + n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C)$$

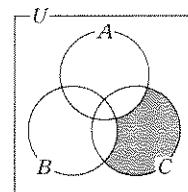
として求めることができる。

したがって、求める k の個数は、

- ◆ $X = k \times m$.
- ◆ $\cdot k$ が 3 の倍数となるのは、次の網掛け部分である。



・集合 A の要素以外で X が 0 以外の 3 の倍数となるのは、点数 m が 0 以外の 3 の倍数のときであるから、次の網掛け部分である。



$$\begin{aligned}
 & n(A) + n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C) \\
 & = 166 + 26 \\
 & = 192. \quad \cdots (\text{答})
 \end{aligned}$$

- ◆ (1)より, $n(A)=166$,
- (2)より, $n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C)=26$.

(ii)

道しるべ

k が 6 の倍数のとき, X は 6 の倍数であることに着目し, 6 の倍数の集合と集合 A , B , C の関係を考える.

U の部分集合で 6 の倍数の集合を D とする.

このとき, A は 3 の倍数の集合であるから,

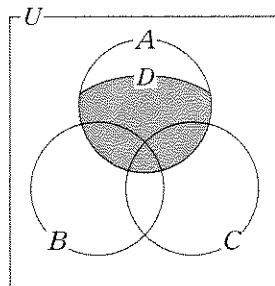
$$A \supset D.$$

さらに, $A \cap B$ は 24 の倍数の集合, $A \cap C$ は 30 の倍数の集合であるから,

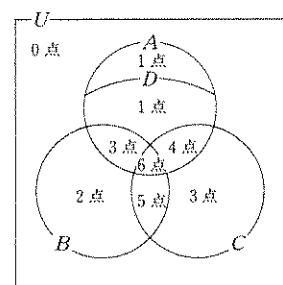
$$D \supset (A \cap B), D \supset (A \cap C)$$

となる.

よって, 集合 A , B , C , D をベン図で表すと次のようになる. (D は網掛け部分.)

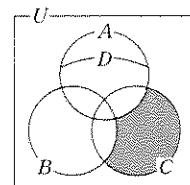


- ◆ $A \supset D$ は, 集合 D が集合 A の部分集合であることを表している.
- ◆ 集合 $A \cap B$ の要素は, 3 の倍数かつ 8 の倍数, すなわち, 24 の倍数である.



それぞれのエリアに対する点数 m は上の図のようになっている.

- ◆ m は整数であるから,
 $X = (6 \text{ の倍数}) \times m$ は 6 の倍数である.



k が網掛け部分の要素のとき
 $(10 \text{ の倍数}) \times (3 \text{ 点})$ となり, X は 30 の倍数, すなわち 6 の倍数となる.

X が 0 以外の 6 の倍数になるのは

- ・ k が集合 D の要素のとき,
 または,

- ・ k が集合 D の要素ではなく, m が 3 点, かつ k が偶数のとき

である.

つまり,

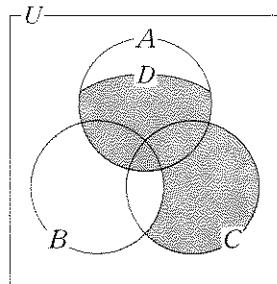
- ・ k が集合 D の要素のとき,
 または,

- ・ k が集合 $\overline{A} \cap \overline{B} \cap C$ の要素のとき

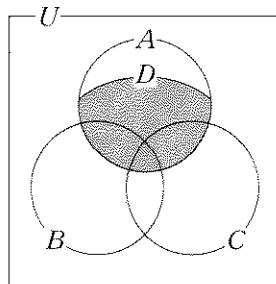
である.

よって, X が 0 以外の 6 の倍数となる k の集合を図示す

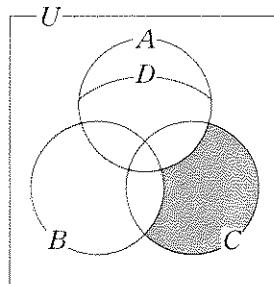
ると、次の網掛け部分となる。



この集合は、



と



をあわせた集合であるから、要素の個数は

$$n(D) + n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C) \quad \cdots (3)$$

として求めることができる。

ここで、1から500までの自然数のうち、6の倍数が集合Dの要素であるから、

$$D = \{6 \cdot 1, 6 \cdot 2, 6 \cdot 3, \dots, 6 \cdot 83\}$$

である。

したがって、

$$n(D) = 83.$$

よって、これと(2)の結果である $n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C) = 26$ を
③に代入すると、

$$\begin{aligned} n(D) + n(\overline{A} \cap \overline{B} \cap C) &= 83 + 26 \\ &= 109. \end{aligned} \quad \cdots (\text{答})$$

◆ $500 \div 6 = 83 \cdots 2$
であるから、集合Dの要素で最大のものは
 $6 \cdot 83 = 498$
である。

- ポイントチェック -

1から200までの自然数の集合を U とする。

U の部分集合のうち、

4の倍数の集合を A ,

6の倍数の集合を B

卷之三

- (1) 集合 A の要素の個数 $n(A)$, 集合 B の要素の個数 $n(B)$ を求めよ.
 - (2) 集合 $A \cap B$ の要素の個数 $n(A \cap B)$, 集合 $A \cup B$ の要素の個数 $n(A \cup B)$ を求めよ.
 - (3) 集合 $\overline{A} \cap B$ の要素の個数 $n(\overline{A} \cap B)$ を求めよ.

(答)

- (1) $n(A)=50$,
 $n(B)=33$.
(2) $n(A \cap B)=16$,
 $n(A \cup B)=67$.
(3) $n(\overline{A} \cap B)=17$.

打たせて」は正しいとわかる。しかし、後半の「とり憑いた悪霊を払うよう命じた」が誤り。この牛飼童は、悪神の従者であり、娘の病気をさらに重くするために男に打たせたのである（問四の【設問解説】参照）。したがつて、本文の内容に合致しない。

エも、まず第四段落の内容と照らし合わせる。「この牛飼の童、この僧をうち見るまに、ただ逃げに逃げて外さまに去りぬ。（＝この牛飼童は、この僧侶を見るとすぐに、どんどん逃げて外の方へ去った。）」（本文17～18行目）とあるので、「牛飼童は、（一目散に逃げ出そうとした）」というのは正しいが、「男を連れて」が誤り。第五段落冒頭に「僧は不動の火界の睨を読みて病者を加持する時に「男まあらはになりぬ。」（本文19～20行目）とあり、男は験者の睨文によって着物が焼け、邸の人々に姿を見られるので、この邸に取り残されたとわかる。したがって、本文の内容に合致しない。

オは、第五段落の内容と照らし合わせる。「男あらはれぬれば、病者かき拭ふやうに愈えぬ（＝男の姿が現れたところ、病人は病気をすっかり拭い取つたように治つた）」（本文22行目）とあるので、本文の内容に合致する。

傍線部6は、右記のポイントによって、「身の毛立つて、何となく寒いように感じられる」などと説せる。特に、「身の毛いよたつ」は、現代語の「身の毛がよだつ」という表現の元であるが、この現代語は恐怖を感じる場面で用いられることが多いため、誤解しやすいので注意する。

この時の男の心理は、娘の治療のために専い験者が呼ばれ、その験者が般若心経を唱えて祈つたことによつて起つたものである。傍線部直前には「この男、貴きこと限りなし」とあるので、男は、般若心経を唱える験者の姿を尊いと感じ、心動かされていたことがわかる。けつして、恐怖を感じていたのではない。したがつて、正解はエ「感動」である。

選択肢の中では、ウ「期待」が紛らわしいが、この時の男には、自分が現在、窮地に立たされているとの自覚はないので、この験者の出現によつて自分が救われるとの「期待」も持つはずがないので誤りである。

問六 空欄補充の問題

◇解法のポイント

○空欄の前後の文脈を正しく押さえる。

○古語の意味を理解し、覚えておく。

- ・「無礼なり」（形容動詞）……無礼だ。礼儀にはずれている。
- ・「不憫なり」（形容動詞）……氣の毒だ。かわいそうだ。
- ・「当然なり」（形容動詞）……当然だ。筋が通っている。
- ・「希有なり」（形容動詞）……不思議だ。珍しい。

験者が「不動の火界の呪」を唱えたところ、男の姿は他人から見えるようになつた（問二の【設問解説】参照）。突然現れた男を外へ引きずり出した邸の人々は、この男に事情を尋ねる。そこで男は、これまでのいきさつをすべて語る。「初めより」とあるので、男は、鬼の一行から呪いをかけられて他人から姿が見えなくなつたことをはじめとして、六角堂で夢のお告げを聞いたこと、それに応じて牛飼童から言われたとおりにしたことなど

を語つたものと考えられる。このようなありえそぞもない話を聞かされた時の人々の心理を考え、空欄 A を埋めればよい。したがつて、「不思議だ・珍しい」という意のエ「希有なり」が最もふさわしい。イ「不憫なり」が紛らわしいが、姿が他人から見えなくなつたことに苦しんだこの男は、この時点ではもう呪いが解け、姿が見えているのだから、「氣の毒だ」はあてはまらない。

問七 内容合致の問題

◇解法のポイント

○本文の内容を正しく押さえる。

○選択肢の内容に該当する本文の箇所がある場合は、それを見つけて照らし合わせる。

アは、第一段落の内容と照らし合わせる。他人から姿が見えなくなつて困つた男は六角堂の観音に祈つているが、その発言の中に「年ごろ、たのみをかけ奉りて（＝長年、期待をおかけして）」（本文1～2行目）があるので、観音への信仰が長年のものであつたとわかる。したがつて、本文の内容に合致する。

イは、第三段落の内容と照らし合わせる。「扉のはさまの人が通るべくもなき（＝扉の隙間で人が通ることもできない所）」（本文9～10行目）とあり、また「童「ただ入れ」とて男の手を取りて引き入るれば（＝牛飼童は「とにかく入れ」と言って男の手を取つて引っ張り入れると）」（本文11行目）ともあるので、本文の内容に合致する。

ウは、まず第四段落の内容と照らし合わせる。「童、そこに男をみて行きて、小さき槌を取らせて、このわづらふ姫君のかたはらに据ゑて、頭を打たせ腰を打たす。（＝牛飼童は、そこに男を連れて行って、小槌を与えて、この苦しむ姫君のそばに座らせて、頭を打たせたり腰を打たせたりする。）」（本文13～14行目）とあるので、選択肢前半の「牛飼童は男に姫君を小槌で

もともと「止む十事十無し」で、そのまま放置できないほどの偉大さを意味する語である。①がその原義で、②はその偉大さを家柄や身分や血筋といつたもので判断した場合、③で挙げた要素ではない偉大さの場合は③のように訊す。選択肢の中で、右記のポイントに合致するのはウ「尊い」である。ここでは、祈禱のために呼ばれた験者の、災厄を払う力の偉大さを表している。

傍線部7「あさましくて」は、シク活用形容詞「あさまし」の連用形「あさましく」に接続助詞「て」の付いたもの。「あさまし」は、意外なことに出遭つた時の驚きの気持ちを表すのが原義(右記のポイントの①)。期待を裏切るのは、悪い出来事に出遭つ場合が多いことから、否定的に使われることが多くなり(右記のポイントの②)。さらには、連用形で程度の甚だしさを表す場合にも用いられるようになる(右記のポイントの③)。選択肢の中で、右記のポイントに合致するものには、ア「嘆かわしくて」とエ「驚いて」の二つがあるが、ここは、験者が呪文を唱えたところ、娘のそばに突然男が現れしたことに対する気持ちだから、エのほうがふさわしい。

プラスαの学習

○四段活用と下二段活用での意味の違いに注意したい動詞
・「かづく」……「カ行四段活用」①(ほうびなどを) もらう。

【カ行下二段活用】①(ほうびなどを) 与える。
②頭からかぶせる。

問四 内容説明の問題。

◇解法のポイント

○本文全体から、姫君の病気の本来の原因について書かれている箇所を探す。

本文13～14行目に「童、そこに男をみて行きて、姫君、頭を立てて病みまとふこと限りなし」とあり、牛飼童が男に小槌で娘の頭や腰を打たせるとき、娘が悶え苦しむ描写がある。ここから、男が小槌で打つことと娘の病気とが関連していることがわかる。しかし、もともと男は牛飼童の指示で娘を打つただけであるから、それが本来の原因だとは考えにくい。これに對して、娘の両親の依頼で、病気を治す力のある験者が現れると、牛飼童は「ただ逃げに逃げて」(本文17行目)とあるので、実は、牛飼童のほうに病気の原因があると考えられる。そこで牛飼童と姫君の病気の関わりについて本文で書かれている箇所を探すと、本文末尾に「かの牛飼は神の眷属にてなむありける。人の語らひによりて、この姫君に憑きてなやましけるなりけり」とある。ここから、牛飼童は神の従者であり、誰かの依頼によって姫君にとり憑いて「なやまし」(=病氣で苦しめ)たのだとかかる。これが、姫君が病氣で苦しむそもそもの原因である。また、この「神」は人の依頼で誰かを病氣にするような「神」なので、(注10)に記したように、悪神であることがわかる。解答は、これらの内容を指定字数内にまとめればよい。

古文の世界では、病氣とは、「物の怪物の氣」などと呼ばれる悪霊がとり憑いたと考える場合が多いことも覚えておこう。

問五 登場人物の心理を問う問題。

◇解法のポイント

○男の置かれた状況を正しく押さええる。

○古語や慣用句の意味を理解し、覚えておく。

- ・「身の毛いよたつ」(慣用句)……恐怖や寒さなどのために、身がすくむ。身の毛立つ。
- ・「ぞぞろ」(副詞)……何となく。わけもなく。
- ・「おぼゆ」(動詞)……思われる。感じられる。

話の流れにしたがって、男に起こつた出来事を確認していく。

男は、自分の姿が元どおり見えるよう観音に祈り、夢のお告げを得た。その後、六角堂から出て来たところで牛飼童から声を掛けられたため、男はもう自分の姿は他人から見えるようになつたのだと誤解するのである（傍線部1）。ところが、夢のお告げにしたがつて牛飼童について行つたところ、ある邸の閉じられた門扉の隙間から邸の中に入っている。このことから、どうやら男は生身の体をまだ持つていないこと、また、牛飼童も現実の世界に生身の体を持たない存在であることもわかる。さらに、男と牛飼童が邸の奥へと入っていく場面でも「いかに」と言ふ人あへてなし（「どうして中へ入るのか」と声を掛けて咎める人はまつたくない」）（本文12行目）とあるように、男の姿は他人から見えていない。そして男は、牛飼童に言われるままに、病気の娘の頭や腰を小槌で打つが、その際も、娘の父母から何も言われていないので、やはり他人から見えていないことがわかる。この状況が動くのは、あきらめかけた父母が呼んできた「やむことなき験者」が現れたところからで、この験者が現れると、牛飼童は「ただ逃げに逃げて外さまに去りぬ」（本文17～18行目）と慌ててどこかに逃げて行く。さらに、験者が「不動の火界の睨」（本文19行目）を唱えると、男の着物に火が付く。この「睨」とは、（注9）にあるように、惡靈を退散させる呪文であるから、この際に焼けた男の着物は、実は、惡靈（＝鬼）による睨いであり、それが焼けることで男にかかつた睨いが解けているのだということになる。着物が焼けたために男は声を上げるが、そこに「しかれば、男まあらはになりぬ」（本文19～20行目）と書かれている。「まあらはに」とは、右記のポイントに示したような意味を持つので、「すると、男は他人からはつきり見えるようになった」という意味になり、ここが男の姿が本当に他人から見えるようになつたことを示す箇所だとわかる。したがつて、十字以内という指示に従つて、「男まあらはになりぬ」の箇所を抜き出せばよい。

問三 古語の意味を問う問題。

◇解法のポイント

- 重要古語（古文で広く頻繁に用いられる単語）の意味を正しく理解し、覚えておく。
- ・「たのむ」（動詞）……〔マ行四段活用〕信頼する。あてにする。
 - ・「あへて」（副詞）……①強いて。無理に。
「やむことなし」（形容詞）……①捨てては置けない。②位が高い。
 - ・「あさまし」（形容詞）……①驚きあきれたことだ。
②嘆かわしい。見苦しい。
③（運用形で）ひどく。非常に。

傍線部2 「たのみて」は、マ行四段活用動詞「たのむ」の運用形「たのみ」に接続助詞「て」の付いたもの。「たのむ」は信じて任せる意が原義で、右記のポイントのように訳す。選択肢の中で、右記のポイントに合致するのは、ア「信頼して」である。なお、「たのみ」が運用形であるため、マ行四段活用とわかることにも気を付けておきたい。

傍線部3 「あへて」は、副詞。もともとハ行下二段活用動詞「敢ふ」の運用形「あへ」に接続助詞「て」の付いたもので、直訳すると「なんとか負けまいところえて」という意味になる。そこから右記のポイントのように訳す。選択肢の中で、右記のポイントに合致するのは、イ「まつたく」である。右記のポイントの②は、下に打消の語を伴つが、ここでは直後の「なし」があたり、男と牛飼童が邸内を進むことを咎める人がまつたくないことを表している。

傍線部5 「やむことなき」は、ク活用形容詞「やむことなし」の連体形。

来た。病人のすぐそばに座つて般若心経を唱えて祈るので、この男が、（その）
験者のふるまいを）尊いと思つことはこの上ない。（感動のあまり）身の毛立
つて、何となく寒いように感じられる。そうしている間に、この牛飼童は、
この僧侶（＝験者）を見るとすぐに、どんどん逃げて外の方へ去つた。

僧侶は不動の火界の呪を唱えて病人を祈禱するうちに、男の着る物に火が
付いた。どんどん焼けるので、男は、声を上げて叫ぶ。すると、男は（他人
から）はつきり見えるようになった。その時に、邸の人、姫君の父母をはじめ
として女房たちまでが見ると、とてもみすばらしい様子の男が、病人のそ
ばに座つている（のが見えた）。驚いて、まず、男をつかまえて（病人の元か
ら）引きずり出した。「これはどういうことだ」と尋ねると、男は、これまで
のいきさつをありのままに始めから語る。人々は皆これを聞いて「不思議な
ことだ」と思う。そうしているうちに、男（の姿）が現れたところ、病人は
(病気を)すっかり拭い取つたよう治つた。そういうわけで、一家が喜び合
つていることはこの上ない。その時に、僧侶が言うことには「この男は（娘
が病気となつた）罪があるに違ひない者でもないようだ。六角堂の觀音の靈
験を受けている者である。だから、すぐにお許しになるのがよい」と言つた
ので、（男を）解放した。そこで、男は、自宅に行つて、これまでのいきさつ
を語つたところ、妻は「驚いたことだ」と思いながら喜んだ。あの牛飼童は
悪神の従者であったのだ。誰かの依頼によつて、この姫君にとり憑いて病氣
で苦しめたのであつた。

【設問解説】

問一 人物判定の問題。

◇解法のポイント

- 古語の意味を理解し、覚えておく。
 - ・「我」（代名詞）……①私。②自分自身。その人自身。
 - ・「汝」（代名詞）……あなた。おまえ。

○発言者が誰であるかを正しく押さえる。

二重傍線部a・cの「我」は人称代名詞で、右記のポイントのように、
一人称にも使い（①）さらに「人称」「人称」「人称」にかわりなく、「その人
自身」を指す反照代名詞としても用いる（②）。また二重傍線部b・dの「汝」
は同等か目下の者を指す二人称の代名詞である。ここでは、その代名詞が
それぞれ誰を指すのかについて考える前に、その発言者が誰で、誰に対す
る発言であるかをつかむ必要がある。

aは、六角堂に籠つて觀音に祈つてゐる男の発言の中にある。「もとのご
とく我が身をあらはし給へ」と、自分自身が元どおりに他人から姿が見え
るようになることを願つてゐるので、「男」を指していふとわかる。

bは、男の夢に現れた「貴げる僧」の発言の中にある。この発言は男
へのお告げであるから、この「汝」も「男」を指していふ。

cは、門の辺りにいた牛飼童の発言の中にある。「いざ、かの主、我がと
もに」と、男に對して自分と一緒に来るよう促していふので、この「我」

は発言者の「牛飼童」を指していふ。

dも、cと同じく牛飼童の発言の中にある。ここでは、男を引っ張つて
「おまえも一緒に入れ」と言つてゐるので、この「汝」は「男」を指してい
る。

したがつて、正解はc。

問一 内容把握の問題。

◇解法のポイント

- 傍線部以降の本文から、男の姿が他人から見えるようになつたことの
わかる最初の箇所を押さえる。
 - 古語の意味を理解し、覚えておく。
 - ・ま（接頭語）……完全に。すっかり。
 - ・あらはなり（形容動詞）……はつきり見える。丸見えである。

一方、娘の苦しむ姿を見たその両親は、半ばあきらめて悲しみにくれつても、尊い験者を呼びにやる。「験者」とは、加持祈禱をして災厄を除いたり病氣を治したりする僧のことと、この験者を見るやいなや、牛飼童は一目散に逃げ出している。この様子は、験者の唱える般若心経にぞくつとするような感動を覚えた男と対照的である。その後、験者が「不動の火界の呪」という呪文を唱えると、この男の着物はその炎によつて焼かれ、そのとたん、男の姿は他人から見えるようになる。つまり、鬼の呪いはこの験者の呪法によって解かれ、男は現実の世界に戻つて来ることができたのである。男は、自分の姿を見て驚き外へ引きずり出した邸の人々に、これまでのいきさつを説明する。験者も、男が観音のご利益を受けるほどの果報者であると説き、許すよう促した。これを聞いた人々は、男の姿が見えたと同時に、娘の病氣もすっかり治つたこともあり、男を解放する。男は家に戻り、妻と喜びを分かち合うのであつた。

牛飼童が悪神の従者であったこと、誰かの依頼によつてこの娘にとり憑いて病氣にさせていたことが引用本文の最後に書かれているが、この話は、以後、娘も男も無事に過ごしたこと、「火界の呪」と観音の靈験があらたかであることを語つて閉じられている。

本話は、若い侍が、位相の異なる世界に連れて行かれるという不可思議な体験をしつつも、觀音への信仰を持ち続けたことで、糺余曲折を経て、験者の「不動の火界の呪」に触ることができ、最終的に救われたという、觀音靈験譚の一つである。

本話のように、觀音の靈験譚には、現世での靈験を語るもののがきわめて多く、阿弥陀信仰が、死後の極楽往生を願つ話となるのと対照的である。

【全文解釈】

(男は)そのまま、數日を過ごすが、どうしようもない。そこで、男は六角堂に参籠して、「觀音さま、私を助けてください。長年、期待をおかけして参詣していました」利益としては、元どおりに我が身を見るようにしてく

ださい」と祈つて、(六角堂に)籠つてゐる人の食べ物や金鼓による托鉢で寄進された米などを取つて食べてゐるけれど、そばにいる人は(男がいる)と知ることはない。

こうして十四日間ほどにもなつたところ、夜寝てゐる時に、夜明け前ごろの夢で、御帳の辺りに、尊い様子の僧が現れて、男のそばに立つて告げておつしやることには、「おまえが、すぐに朝こゝから退出するだらう時に、初めて会つた者の言うだらうことに従え」と。このように(夢を)見る時に、夢が覚めた。

夜が明けたので、(男が六角堂から)退出すると、門の辺りに牛飼童でとても恐ろしい様子の者が、大きな牛を引いてゐるのに出遭つた。(その牛飼童が)男を見て言うことには、「さあ、そこの方かた、私と一緒に(来なさい)」と。男はこの言葉を聞くと「我が身は見えるようになつたのだな」と思うと、それで喜びながら夢を信頼して牛飼童と一緒に行くと、西の方に十町ほど行って大きな棟門(の邸)がある。門は閉じて開いていないのだが、牛飼童は、牛を門につないで、扉の隙間で人が通ることもできない所から入るということで、男を引っ張つて、「おまえも一緒に入れ」と言うので、男は「どうしてこの隙間から入れよつか、いや入れまい」と言うが、牛飼童は「とにかく入れ」と言って男の手を取つて引っ張り入れると、男も一緒に入つてしまつた。見ると、邸内は大きくて、人がとても多い。

牛飼童は、男を連れて縁側に上つて邸の奥へとどんどん入つて行くが、「どうして(中へ入るのか)」と声を掛け(て咎め)る人はまつたくない。ずっと奥の方に入つて見ると、姫君が、病氣で苦しんで横たわっている。足元と枕元に女房たちが並んで座つて、この姫君を看病している。牛飼童は、そこに男を連れて行つて、小槌を与えて、この苦しむ姫君のそばに座らせて、頭を打たせたり腰を打たせたりする。(男が打つた)その時に、姫君が、頭を持ち上げてひどく苦しむことはこの上ない。そこで、(この姫君の)父母は「姫君の病氣も、もう最期であるようだ」と言つて泣き合つてゐる。見ると、誦經を行い、また、尊い験者を呼びにやるよつた。しばらくして験者がやつて

問一	6点	問二	6点
問五	6点	問六	6点
		問七	問三
		2点	4点
	×	5	× 4
			問四
			10点

古文

『今昔物語集』卷第十六の第三十二「ねじねじ隱形の男、六角堂の觀音の助けに依りて身を顯せる語」。

『今昔物語集』は、平安時代後期に成立した日本最大の語語集。編者に未詳。一千を超える説話が、天竺（インド）、震旦（中国）、本朝（日本）の三部に分類されて載っている。表題の「今昔」は、すべての話が「今は昔」で始まり、「となむ語り伝へたるとや」で終わることによる。書かれている題材は広汎で、登場するものも、貴族・武士・庶民・盜賊など、さまざまな階層の人間に加えて、神仏・妖怪・変化・動物まで多彩をきわめている。

川龍之介が本説話集をもととして、「羅生門」、「芋焼」などの作品を書いてい る。

本話の載る巻第十六は、副題に「本朝付仮法」とあり、日本における観音靈験譚を並べている。

本文は「新日本古典文学大系」（岩波書店刊）
るため、適宜表記を改め、一部省略を施した

〔本文解説〕

京に住む若い侍が大晦日(みどりか)の夜更けに橋のたもとで火をともした一行と出遭うところから本文を含む説話は始まる。男は高貴な人の一行が来たのだと思ひ、橋の下に隠れるが、近付いてきたその一行は、実は異形の鬼たちであつた。鬼の一行は男に気付くが、「それほど重い罪はないので許してやる」と言ひ、睡を吐きかけて通り過ぎて行く。九死に一生を得た男は帰宅するが、誰も男に気付かない。そこで初めて、男は自分が睨いをかけられ、他人から姿

が見えなくなつたことを知る。男が鬼の一同行と出遭つた場所である橋は、古來、異界と通じると見なされることの多い場所であった。また、大晦日の夜には、宮中の年中行事の一つである「追難」（鬼遣らいとも呼ばれる悪鬼を追い払うための儀式で、さまざまな災厄を追放しようとするもの。後に現在の「節分」の豆撒きと結び付く。）が行われていたことが『枕草子』や『源氏物語』をはじめ多くの作品に記されており、この夜は、惡靈・惡鬼が動き回ると考えられていた。さらに、鬼が睡を吐きかけたというのも重要で、現在でも重い荷物を動かす際に睡を手に付ける仕草をすることに残つてゐるように睡を付けるとは、その人物の力を対象に及ぼす呪的行為でもあつた。こうして、男は鬼たちの住む、現実とは位相の異なる世界に引きずり込まれたのである。

これに続く箇所が、今回出題の本文である。途方に暮れた男は、長年信仰してお参りしていた六角堂の觀音に助けを求める。すると、尊い僧が夢に現れ、「ここを出て初めて会つた者の言うとおりにしろ」とお告げをする。翌朝、男が六角堂の外に出ると、牛飼童から自分と一緒に来るようと声を掛けられる。声を掛けられたことで、自分の姿が元どおり見えるようになつたと喜んだ男であつたが、実はまだ他人から姿が見えるようになつたわけではない。そのことは、男が連れて行かれた邸に入る場面でわかる。牛飼童が中へ入ろうという邸は、門扉が閉まつていて、人が通れそな隙間がない。しかし、牛飼童が男の手を引いて入ると、通れてしまい、さらに、邸の奥へとこの二人が進んでいっても、邸の人々は誰も気付かないものであつた。

牛飼童は、奥の部屋に入ると、そこにいる病氣の娘の頭や腰を小槌で打つよう、男に命じる。男が命じられたままに娘を打つと、娘はそのたびに苦悶の声を上げる。男に小槌で打たれことが娘の病氣を悪化させてゐるのである。牛飼童が男に病氣悪化の手伝いをさせたのは、男が先の悪鬼たちと同様の存在と見えていたためであつた。また、男がここまで牛飼童の言葉に従順なのは、夢のお告げを信じてゐるからだと考えられる。つまり、男は觀音の言葉に絶対的な信頼を置いていることがわかる。

オ 全体に間違っている。筆者が、「超越的な根源衝動」に着目しているのは事実だが、その「内実を明らかにしていくこと」を目指しているわけではないし、そつすることで「人間を超えるものの存在に対する認識を深めよう」としているわけでもない。

問六 それぞれの選択肢が本文中のどの部分と対応しているか、確認していく。

ア 本文全体の展開・構成を正確に説明している。「旅で見た風景に対する感概」が第1～3段落、「自分にとって切実とは思えない抽象的な議論に陥ることを避けつつ」が第6段落の冒頭、「人間のありようや現代が抱える問題」に話題が及ぶというのが第7～9段落の内容に対応している。したがって、これが一つ目の正解である。

イ 「美しい自然を喪失した現代人の悲哀が浮き彫りになつていて」が、誤り。筆者は、現代人が「物や自然へのかかわり」を「衰弱」させたと言つてはいるが、「美しい自然」そのものを「喪失」したと言つてはいない。本文の冒頭段落と最終段落で美しい日本の風景が紹介されていることから明らかのように、むしろ本文は「美しい自然」を背景としているといえるのである。

ウ 「美しい日本の自然を背景には、すでにイについての説明で確認したように、本文の特徴の一つである。また本文は、多少の飛躍を伴いつつ、比較的自由に話が進められている。こうしたことから「筆者は自在に思うことを綴っていく」というのも、本文の説明として適切であるといえる。そして「独特的な筆致」も、「意識の底に眠っている血を、新鮮に回復させ、現代に通わせる」といった個性的な表現などに明らかのように、本文の特徴の一つに挙げができるだろう。さらに「小説家としての自負」は、第9段落の最後の二文などから十分うかがうことができる。以上のことから、このウが二つ目の正解だと判断できる。

エ 「筆者は外界に目を向けることをせず」が明らかにおかしい。筆者の目

は美しい風景に向けられている。また、本文に「雲仙から長崎へ行つてきた」ときに筆者が考えたことが綴られているのは事実だが、それを、旅行中の具体的な見聞や感想を記した「旅行記」と呼ぶのは無理があるだろう。

オ 全体に誤りである。本文は、詩的とも哲学的とも言いうるエッセイではあるが、「風景の繊細な描写と哲学的な思考が交互に配置される」という「構成」になっているわけではない。また、「本文の構成」が「筆者の状況」を「示している」というのも、まったく根拠のない説明である。そもそも筆者が「文学と哲学のいずれかを選択せねばならない」状況に置かれていることをうかがわせる表現が、本文には一切ない。ウで確認したように、筆者は小説家として強い自負をもつていているのである。

カ 「誰しもが自覚している現代に特有の問題」が、誤り。筆者が現代に対して問題意識をもつていることは第8・9段落の内容から明らかだが、そうした問題を「誰しもが自覚している」という事実は、本文からは確定できない。

〔解答〕

〔古文〕

問一 c

問二 男あらはになりぬ（9字）

問三 2 ア 3 イ 5 ウ 7 エ

問四 誰かに頼まれ、悪神の従者である牛飼童が姫君にとり憑いたこと。
(30字)

問五 エ

問六 エ

問七 ア ○ イ ○ ウ × エ × オ ○

「過去」と「現在」との断層を感じたとき、「現実の感覺を確かめるため」に(→c)、「過去をよびさまして現在とつなげよう」とした(→d)。これが、筆者が小説を書かねばと思った理由なのであろう。以上の内容を整理すると、次のようになる。

- a かつて学生のころに通ったのと同じ場所を通った。
b そのとき、眼前の風景の方が不確かで過去の風景の方が確かな手ごたえがあると感じた。

←

- c 現実の感覺を確かめようとした。
d そのために、過去をよびさまして現在とつなげようとした。

以上の内容をまとめれば正解となる。c・dの内容に思いが及ばなかつたかもしれないが、これがないと「小説を書き出さねばならないと思ははじめた」という傍線部につながらないので、このポイントは重要である。また、a・bについては書き方次第でいくらでも具体的かつ詳細に書くことができるが、字数指定がある以上、他の内容とのバランスを考慮しつつ過不足なく簡潔にまとめなければならない。バランスよく書くということも記述問題において求められていることの一つなので、こうした問題に取り組む際にはぜひ意識してもらいたい。

(2) この問題では、筆者にとつての「小説を書くことの意味が問われている。そうしたことが説明されているのは、本文後半の第7・9段落であり、なかでも第9段落の末尾二文である。これらをまとめると、次のようになる。

- ・かつての人々は、自然と一体化し、超越的 existence やそしたるものへの根源的な衝動とともに生きていた(第7・8段落)。
・ところが現代人は、そした超越的で根源的な衝動について、無

自覚になっている(第9段落中程)。
・だからこそ、かつてあつた「深い根の層」を「現在によび戻していくこと、すなわち「意識の底に眠っている血を、新鮮に回復させ、現代に通わせること」こそが、「小説書きの仕事」である(第9段落末尾二文)。

こうした内容を正確に言い換えたイが正解。なお、他の選択肢については次の通りである。

- ア 「日本文化の固有性を高らかに宣言する」が誤り。本文においては、古代人と現代人とが比較され古代人に比べて現代人の「物や自然へのかかわり」が「やせ細り」「衰弱」していると指摘されているが、「日本文化」とそれ以外の文化との違いが問題にされているわけではないし、日本文化が固有であることが示されているわけでもない。
- ウ 「存在」と「認識」という思想上の大きな命題にひるむことなく……命題解決の糸口を明らかにしていく」が誤り。第6段落の冒頭の一文から明らかなように、筆者は「こんな難問を考える気はしない」と述べ、「存在」と「認識」という思想上の大きな命題」をつきつめて考えることを回避しているのであり、そした問題に「ひるむことなく」取り組んでいるわけではない。また、人間が言葉をもつことについては第5段落で言及されているが、小説家を言葉をもつ人間の「代表」とみなしているわけではない。
- エ 「作品創造の契機」を「自然との出会い」だとしていることが、不正確。(1)で確認したように、筆者が小説を書くことと思ったのは、單に自然や風景を目にしたからではなく、眼前的風景よりも過去の風景の方に確かな手ごたえを感じ、そこから思いをめぐらしたからである。また「自己の存在そのものを更新する」も誤り。本文においては、現代を活性化すべきだとは言っているが、自己を更新することについてはまったく言及されていない。

る」という一文の意味を考えてみよう。この一文をあえて簡潔に言い換えれば、(現在は必ず過去に染まっている)といったものになる。これをもう少し別の言い方でいえば、(いま自分の前に存在しているものは、つねに過去に影響されている)といったかたちになるであろう。

右と同じような内容の箇所を傍線部以降の本文から探していくば、第5段落の冒頭の一文の前半部分、「しかし、私たちの中で、自分や外側の存在が絶えず過去に浸透されて現れる時」に着目できるだろう。(ここでも、(今)の自分やその外部に存在するものが、過去に浸透される(=過去の影響を受ける)形で現れる)ことが述べられている。正解は、「自分や外側の存在が絶えず過去に浸透されて現れる」(23字)の初めと終わりの三字自分が「現れる」とある。最後の三字を答える際に「時」を含めるかどうか迷った人もいたかもしれないが、「こうした形」のうちの「こうした」に当たる内容だけを答えよというのだから、「時」を含めるのは不適切である。

問五　ここでは、「今ここからもう一つ小説を書き出さねばならないと思はじめた」筆者について、二つのことが問われている。傍線部は第4段落中にあるが、「小説書きの仕事」については第9段落において再び言及されている。そつしたことを見野に入れつつ、それぞれの間にについて確認していく。

(1)　この問題では、筆者が傍線部のように思いはじめた理由となつたできごとを答えることが要求されている。

傍線部直前から、筆者がこのように思いはじめたのは「過去と現在の多層の時間を感じ」たからだということはわかる。したがって、とりあえずの解答は、(過去と現在の多層の時間を感じさせるようなできごとがあつたから)といったものになる。

しかし、もちろんこのままで解答にはならない。記述問題の解答を書くときには、誰が読んでもその意味がわかるような、わかりやすい表

現で答えることが大切なのだ。そこで、(過去と現在の多層の時間を感じさせるよなできごと)とはどのようなできごとだったのかを、説明しなければならない。そうしたできごとのことは第2・3段落において説明されていたが、それは次のよななものだった。

筆者は、雲仙から長崎への途上で、ある感慨に襲われる。その土地は、学生のころにも通つたことがある(→a)のだが、筆者には「雲仙連峰の山はだ、有明海の海の色まで初めてのよに妙に違つてみえた」のだ。筆者は、眼前の風景と記憶にある風景との落差にとまどい、自分の記憶が不確かなのか、それとも風景 자체が変わってしまったのか、疑問に思う。そのとき筆者は、「過去の自然や風光の方が鮮明な手ごたえがあり、目のまえの現実の方が不確かで稀薄なよに思えていた」(→b)。つまり、そのときの筆者には、過去と現在とがまるで別々のものであるかのように感じられていたのだ。これが、「過去と現在の多層の時間を感じ」るということであろう。

右のa・bが解答の重要な要素になるのだが、これだけではまだ不充分である。記述問題の解答は、できるだけ完結した、スジの通つたものでなければならない。傍線部には「小説を書き出さねばならないと思はじめた」とあるのだが、では、なぜa・bのよに感じると小説を書かなければならぬと思うようになるのか。その理由を、スジが通るよううに説明しなければならないのである。

そこで注目したいのが、傍線部よりもずっと後の第9段落にある「その分厚い時間に穿孔をあけ、深い根の層を現在によび戻してくるのは、小説書きの仕事ではなかろうか」という部分である。【本文解説】でも確認したとおり、筆者は、かつてあつたものを現代によみがえらせるこそが小説家の仕事であると考えているのだ。

以上のことにもとづいて本文全体をあらためて見渡してみると、第3段落後半の一文が、右にあげた第9段落中の内容をよりわかりやすく表現したものとして浮かび上がつてくるはずだ。筆者は、右のbのよう

びらが舞うようにならつく雪〉という意味である。

dの「紫紺」は「しこん」と読み、〈紺がかたな紫色〉のこと。「紫外線」などの熟語が連想できれば、読めたのではないか。

問一 表現技法を問う問題である。「……のようだ」という言い方は、比喩のなかの「直喩」や「明喩」といわれる技法であり、正解は、同じく「直喩」を用いたウ「光陰矢のごとし」である。主な比喩には「直喩」と「隱喩」とがあるが、これらについてまとめておこう。

直喩……「あたかも」「さながら」「ようだ」「ごとし」などを用いて、何を何にたとえているのかが明確にわかるような言い方をする。「明喩」とも言う。

隱喩……「あたかも」「さながら」「ようだ」「ごとし」などを用いず、たとえるものとたとえられるものとを、比喩であることを明示せずにそのままつなぐ。「暗喩」とも言う。

正解のウ「光陰矢のごとし」とは、光陰(日月日)の過ぎる早さを飛びゆく矢にたとえた言葉で、月日が早く過ぎていくことを表した慣用表現である。イ「人間は考える葦である」と、エ「必要は発明の母である」は「隱喩」である(なお、同じ内容を言い表していても、「人間は考える葦のようだ」とか「必要は発明の母のごとし」などといえば、それは「直喩」だということになる)。ちなみに、イはフランスの哲学者バスカルの言葉として、エは慣用句として有名である。アは〈横道にそれで手間どる〉という意味の慣用句。オは△二つのもののうちどちらが優れているか決めがたい〉といふ意味の慣用句であり、「伯仲」と同義である。あわせて覚えておこう。

問三 語彙力を問う問題である。もちろん、空欄の前後の文脈を正確にたど

ることが必要だが、そもそも解答になる言葉 자체を知らないければ答えようがない。日頃から、わからない語句があつたら辞書をひくなどして、語彙力の育成に努めるようにしたい。

A 〈愛野〉のことを「優しい[A]光の土地」と評していることや、「過去の自然や[A]光の方が鮮明」という表現から、「[A]光」とは「風景」や「景色」に近い意味の語句であることが類推できる。正解はそれらの同義語である「風光」。〈山水の景色がすぐれて美しく、人の心をひくこと〉を「風光明媚」という。あわせて覚えておこう。

なお、本文冒頭にある「桜と菜の花の真っ盛り」といった表現からの連想で「陽光」「日光」などを答えた人もいるかもしれないが、これらの語は、二つ目の空欄の箇所に該当しない。二つ目の空欄には、直後に来る「目のまえの現実」と対比される表現が入るのだから、単に「陽の光」といった意味の言葉が入るわけではないと判断すべきだろう。

B 「現在は必ず[B]淡さまさまに過去の時間に染まっている」という一文中にある。〈現在は過去の時間に染まっているが、その染まり具合にはB淡がある〉といふことなのだから、Bには「淡」の対義語を入れればよいといふことがわかる。「淡」は「淡い」とよみ、対義語は「濃い」すなわち「濃」であり、これが正解となる。「濃淡」とは、文字どおり〈濃いかうすいか〉ということ。「淡泊な味」／「濃厚な味」などの表現を思い起すことができれば、正解を得やすかつただろう。

問四 指示語の内容を答える問題である。傍線部の「こうした」が直接指しているのは、もちろん直前の一文「現在は必ず濃淡さまさまに過去の時間に染まっている」である。しかし説問には、これと同内容の箇所を「傍線部以降の本文中から抜き出せとあるのだから、傍線部以降から、「現在は必ず濃淡さまさまに過去の時間に染まっている」という一文と同じ内容が述べられている箇所を探さなければならない。

そこであらためて、「現在は必ず濃淡さまさまに過去の時間に染まっている

【本文読解のポイント】

本文は、旅先での思いを綴ったエッセイであるが、同時に、小説家である筆者が「なぜ小説を書くのか」という意志表明をした文章であるということもできる。

まず本文の前半では、傍線部2のようないしに至った筆者の思いが述べられている。これをまとめるとき、次のようになる。

（本文前半の論旨）

- 筆者は、学生のころに通つたことのある場所を再び通り、眼前の風景の方が不確かで、むしろ過去の風景の方に確かな手ごたえがあると感じた（第1～3段落）。
- そこで筆者は、現実の感覚を確かめるために、過去をよびさまして現在とつなげようと思った（第3段落）。
- そうした気持ちは、「今ここ」からもう一つ小説を書き出さねばならぬ」という思いにつながつていった（第4段落）。

次に本文後半では、古代人のあり方と現代人のあり方との対比され、そのうえで、小説家の仕事とは古代的なものを現代によみがえらせることがあると述べられている。整理してみよう。

（本文後半の論旨）

古代人

- 物象や自然と一体化した超越的存在を必要とし、そうしたものへの根源的な衝動とともに生きていた（第7・8段落）。
- そこにはナマナマしい生命力がある（第9段落）。

現代人

- 観念ばかりを肥大させてしまい、物や自然へのかかわりを衰弱させている（第8段落）。

・古代人がもつていたような超越的なものへの根源衝動を、血の中に溶けこませてはいるだろうが、かえってそのことに慣れきり、無自覚になつてゐる（第9段落）。

・古代人のもつていたようなあり方を現代によみがえらせる「こと」
そが、小説家としての自分の仕事である（第9段落）。

一見すると想念を思いつくままに綴つた文章のように見えるが、小説家としての自己の存在意義を自分自身で問い合わせ直すという主題は、本文全体を通して貫いている。そうした筆者の気持ちに迫ることができたかどうか、自分なりに確認してみてほしい。

【設問解説】

問一 漢字の読み書きの力は、文章を読み解くうえで土台となるものである。日頃から意味を含めてきちんと学習しておきたい。

aの「汎」は「はん」とよみ、（あまねく、広く）という意味がある。したがつて正解は「はんしん」。【本文解説】でも説明したように、「汎神論」とは「万物は神であるとみなす宗教觀」のことであり、日本などに顯著なアニミズム（＝自然界のあらゆる事物は、靈魂や精霊などの靈的存在を有すとみなす信仰）などにも通じるものである。

bは「せんこう」とよむ。「孔」は「あな」という意味。「穿」は「雨垂れ石を穿つ」の「穿つ」であり、「穴を開ける」という意味がある。したがつて「穿孔」とは、「あなを開けること」、もしくは「そうしてあいたあな」のことである。

cの「風花」は、「かざはな」・もしくは「かざばな」とよむ。晴天に花

5段落)。

以上が本文前半の内容であるが、ここでは眼前の風景を不確かなものに感じた筆者が、それをきっかけにさまざまに思いをめぐらし、小説を書き出さねばと思うに至つたということを押さえておこう。

◆後半——小説家としての使命とは古代の生命力のようなものを現代によみがえらせることがある(「けれども私は、……」以降)

本文前半においては「存在」と「認識」をめぐる問題にまで話が及んだが、後半では一転して、筆者は、優しい風光のもとでは「こんな難問を考える気はしない」と言い、「ただこの高原も海もおだやかな優しい風土をながめ、そこに眠る過去を、はるか昔までナマナマしくよびきますだけである」という自らの思いを述べていく(第6段落)。

ただし、ここで注意しなければならないのは、風景を眺めながら過去をよびさますとする筆者の態度が、「過去と現在の多層の時間」という本文前半で明らかにされた認識とつながっているということである。筆者は、眼前に広がる「南国の海」の風景について、それが「記紀の神々の世界を思い起すにふさわしい」ものだと評する。「記紀」とは「古事記」「日本書紀」の併称であるが、日本の神話では、イザナギとイザナミという男女の二神が日本の島々や神々を産んだとされている。筆者は、眼前的風景からそうした神話的 세계を想起すると同時に、そのような伝承の世界を創りあげた古代人にとって、神々とはその存在そのものについての「認識」が問われるようなものではなく、自然の中に生きているものであり、自分たちの内からあふれ出てくる衝動のなかで神々を生かしめることで、彼らの生活や共同社会は成り立っていたのだろうと考えてしていくのである(第7段落)。

筆者は、古代人のこうしたありかたは「汎神論」の風土であっても「一神教」の風土であっても変わりなかつただろうと推察する。「汎神論」とは、万物は神であるとみなす宗教観であり、「一神教」とは、キリスト教やイスラム教のように、唯一の神を信仰する宗教のことであるが、筆者は、そのいずれであつ

ても、古代人にとって神とは人間の衝動の根源において求められたものであり、しかもそれは単なる抽象的な観念ではなく、物象や自然と切り離すことのできないものであつたはずだと考えていく。そしてさらに、こうした神とのかかわりを失つていたずらに観念を肥大させてしまった現代人は、古代人の「たくましい生命力」を喪失し、物や自然とのかかわりを衰弱させてしまつたのではないかと考へる。(ここで筆者は、現代人や現代社会に対する危惧を明らかにしているのである(第8段落))。

さらに筆者の思いは、現代に生きる日本人へと向かっていく。我々の遠い祖先がもつていた「ナマナマしい生命力」や「超越的な根源衝動」は、「時間とともに、この風土に溶け、私たちの血の中に溶けこんでいる」。しかし、それゆえに「今かえって自分たちがそれに慣れきり、無自覚になつてゐるに違いない」と筆者は考へる。そして、こうした状況のなかで「その分厚い時間に穿孔(リあな)をあけ、深い根の層を現在によび戻し」「意識の底に眠つてゐる血を、新鮮に回復させ、現代に通わせる」ことこそが「小説書きの仕事」ではないかと、筆者は思わずにはいられないのである。第8段落で示されたように、現代人は「メタファイジカルな観念を肥大させ」「物や自然へのかかわり」をやせ細らせてしまつた。「分厚い時間に穿孔をあけ」ことで、古代的な生命力を現代に取り戻すことが「小説書きの仕事」だと、「小説書き」の一人である筆者は考へてゐるのである(第9段落)。

筆者がそうした思いをめぐらせてゐる間に、車はいつの間にか島原のまちをぬけていた。峠の高みに立つ筆者の眼下には美しい風景が広がつてゐる。筆者は、自身のなかで「学生時代の過去の時間」がよみがえつてくるのを感じていた(最終段落)。

本文後半では、古代において人々が持ち得ていた生命力を現代によみがえらせることこそが「小説書きの仕事」だと考へ、そうした「小説書き」という自らの仕事に誇りを抱いている筆者のあり方を読み取つてほしい。

【配点】(60点)

問一	2点×4	問二	4点	問三	3点×2	問四	7点
問五	(1) 16点 (2) 7点	問六	6点×2				

【出典】

田久保英夫「時間の旅」。ただし、途中一部省略した箇所がある。「時間の旅」は、讀賣新聞（一九七一年五月九日）に掲載された後、筆者の死後に出版された『滯鄉音信』（一九七〇年、慶應義塾大学出版会）に収められた。

田久保英夫（たくば・ひでお）は、一九一八年、東京生まれの作家。慶應義塾大学に入学後、山川方夫らを知り、「三田文学」などに詩を発表。その後、小説へ転じ、一九六九年、「深い河」により第六十五回芥川賞を受賞。主な作品に『髪の環』『触媒』『海図』などがある。二〇〇一年四月死去。

【本文解説】

本文は、小説家である筆者が、九州の雲仙から長崎へ行く旅の途上で思ったことを綴ったエッセイであり、一行空きで区切られた四つの部分から成り立っている。ここでは、最初のまとまりを前半、それ以降の三つのまとまりを後半とし、内容を確認していくことにする。各段落に番号を振つたうえで、本文の展開を一緒にたどつてほしい。

◆前半——過去と現在の多層の時間を意識することが、小説を書こうとする動機となる（「……思想上の大きな命題になるのだろう。」まで）

先日、雲仙から長崎へ行った筆者は、「愛野」という名前にふさわしい優しい風景を堪能したのだが、そのときある感概に襲われる。

筆者は学生のころにも「愛野」を通つたことがあるのだが、「長い時間が土地のすがたを変えるのは当然とはいうものの」、今回は眼前に広がる「雲仙連峰の山はだ、有明海の海の色まで初めてのように妙に違つてみえた」のだ。そして、そうした思いは「たよりないのは私の記憶なのか。それとも外側の

存在の方が変つたのか」という疑問へとつながっていく。つまり、ここでるのは「現実の感覚を確かめるために」「過去をよみがまして現在とつなげよう」と、まるで時間の旅をしているような気持になつたのである（第3段落）。

さらに筆者は、次のようないにとらわれていく。

「濃淡さまざまに過去の時間に染まっている」「現在においてしか「自分も外部も存在のすがたを現さない」。だからこそ、私たちは内部に刻々と生起する記憶や想念」のなかから「一つの確かな対象への認識をつかみとろうと」「鋭いアンテナをさぐっている」のであり、「日常生活のなかでも、私たちの想念は一瞬一瞬過去と現在のあいだを揺れ動いている」のだと。ここで筆者は、人間にとつて現在はそれ自体独立したものとして存在しているわけではなく、過去とのつながりのなかで存在しているのだから、現前するものを認識するためには、私たちの記憶や想念として存在する過去とのつながりを無視できないと言つているのである。

こうした「過去と現在の多層の時間」を感じた筆者は、「今ここからもう一つ小説を書き出さねばならないと思ははじめた」のだが、このことについては【設問解説】の問五で詳しく説明する（以上第4段落）。

筆者の考察は、さらに入間存在をめぐる根本的な問題にまで及んでいく。「私たちの中で、自分や外側の存在が絶えず過去に浸透されて現れる」のだとしたら、「それらへの確かな認識」が得られることはなく、「事物の相対的な像、非決定の沼のなかに陥る」ほかないかもしれない。しかし、にもかかわらず「言葉をもつ人間はそんな世界を超えて、絶対的な認識の場をもとめるよう仕組まれている」。こうした問題は「結局は、「存在」と「認識」という思想上の大きな命題になるのだろう」と、筆者は考えるに至るのである（第

に表現されているのではなく、別の何かにたとえて表現されている箇所を探せばよいことがわかるだろう。

そして、これらのすべての条件に該当する語句は、傍縁部aの直前にある「不斷にうごめきまわるアミーバの不定形のうごめき」(23字)しかない。アミーバ(アメーバ)とは单細胞原生生物の一群を総称する言葉だが、一般には変幻自在な不定形生物として認められており、つねに変化しつづける物事のたとえとしてしばしば用いられる(もともとアミーバという言葉自体が、ギリシヤ語で「変化」を意味する言葉を語源としている)。ここでは「動乱」のようすが「アミーバ」の動きにたとえられているのだから、aとcの条件を満たしていることはすぐわかるはずだ。また、この箇所の前後を見ると、「ベトナム戦争」の状況を示すと同時に「世界の基本的な在り方」を示した表現であるので、bの条件を満たしているということもわかるだろう。

問十 一つ一つの選択肢について、本文との対応などを確認し、「筆者の考え方

に合致するもの」として最も適当なものを選ぼう。

ア 戦時下のベトナムに「世界の在り方のきわめて特殊な様相が現れている」というのが間違い。傍縁部aの前後にあるように、「ベトナムの動乱は「世界の基本的な在り方」を示しているのである。

イ 「個人的な感情も記事のなかで積極的に表現していくべきである」が誤り。ストリンガーとコレスポンデントの違いについて述べられた部分に、コレスポンデントとはその記事が「個人的でしかない感情の露出ではないことを信頼されたもの」と述べられている。

ウ 選択肢後半の内容が間違い。たしかに筆者は、林記者のスクープの尻馬に乗るような行為は趣味に合わないと述べている。しかし、それはあくまで筆者の個人的な好みではないというだけで、そうしたことが「報道に携わるすべての者にとつて許されざる行為である」とまでは書かれていないのである。

エ 「ストリンガーは、基本的には不要な存在である」というのが、本文に述べられていない。筆者は個人的にコレスボンデントでありたいと考えているが、情報提供者としてのストリンガーも、けっしてその存在を否定されているというわけではない。

オ 「自らの書くものが主観的にならざるをえないことを充分に自覚した者の報道」は、傍縁部bの直前などにあるように、「主観と客観の相互作用」をもつ「より生き生きとした」ものになる。これに対して「そうではない者の報道」は、自分では「客観的だと信じこんでいる」ものの、実際にには「無意識の主観性」を含むものになってしまったり(傍縁部1)、「客観的だと思いこんでいる」だけで「実は主観的な」ものになたりしてしまう(傍縁部b直前)。両者には「大きな隔たり」が生じているといえるから、このオは正解である。

〔二〕 現代文

〔解答〕

問一 a はんしん b せんこう c かざはな(かざばな)

d しこん

問二 ウ

問三 A 風 B 濃

問四 自分や
ー現れる

問五

(1)かつて学生のころに通ったのと同じ場所を通り、眼前の風景の

方が不確かで過去の風景の方が確かな手ごたえがあると感じたせいで、現実の感覚を確かめるために、過去をよみぎまして現在とつなげようとしたこと。(97字)

問六 ア・ウ(順不同)

クで電報局から戻りながら、この一週間のことを思い浮かべ、「ひとりでニヤリと」し、「心からよかっただと思った」。この喜びは、単に自分が手柄をたてたといったことではなく、問七で確認したような報道に対する信念が正しかったと説明されたことからきていたと考えてよいだろ。本文前半の終わり近くの部分に述べられてきたとおり、筆者は、自身がコレスポンデントであることを説明しようとしていた。それは、「正しく主観的であること」をおそれず報道を行うことでもあり、傍線部に至る場面で筆者は、自身がそつとした報道を行えたことに対し「誇り」を感じていると考えられる。

しかしその一方で、筆者のなかには「むなしさ」もあつた。筆者は「不安に駆られながら」記事を書いているのだが、自身のソウル時代の体験などから、「一週間もたてば、私のそんな記事など書いた本人以外だれもおはえてはいまい」と考える。「むなしものだな」と思わず声に出していくのである。

【本文解説】でも繰り返し説明したとおり、筆者は自らの報道のあり方に對して「誇り」を強く感じているが、一方でその裏側には「不安」や「むなしさ」のようなものが張りついていた。こうした相反する気持ちを傍線部でも感じているのだということが読み取れば、正解はウだと判断できるはずである。「誇り」と「むなしさ」（＝虚無感）という両者のことが説明されているのはウだけであり、他の選択肢はすべて「むなしさ」についての説明はあっても、「誇り」についての言及がない。

ちなみにウの内容だが、まず「不斷に変化していく混沌とした状況」というのは、傍線部2を含む段落などに述べられていて、ベトナム戦争下の状況のこと。そして筆者が「自分の信念にしたがつて報道を続けて」いたというのは、問七で確認したとおり、「不安」と「疲労」のことは、傍線部の少し前に書かれている。そして「いまさら後に引くこともできない」は、傍線部直前の「真直に行け」という言葉と対応しているし、「そうした思いを自分自身に言い聞かせるようにしている」というのも、傍線部直後の

文についての説明だと判断できるはずである。

他の選択肢はすべて、先に述べたとおり「誇り」について言及されていないという点で正解にはならないのだが、他にも誤っている箇所があるので、それについて確認しておこう。

ア 「憤り」が本文から読み取れない内容。また「周囲を見返すためにはいまの仕事を続けていくしかない」というのも、本文に述べられていない内容である。

イ 自分の言つた言葉が「運転手に誤解されてしまったこと」と、自分の記事が「正しく評価されていないこと」とを、筆者が心の中で「重ね合わせ」ているという内容だが、そうしたことは本文には述べられていない。

エ 「自暴自棄な気分」が本文から読み取れない内容。また、傍線部直前の筆者の言葉は、「心にもない」とではない。

オ 「自身の報道に対する考え方もゆらぎはじめている」が、本文から読み取れない。また「虚勢を張つて」（＝うわべだけ威勢よく見せかけて）というのも誤りである。

問九 設問をよく読んで、何が問われているのかをしっかりと確認することが重要である。ここでは、次の三つの条件を満たす二十五字以内の語句を探すことが求められている。

- a 「混乱」のようす」が言い表されている語句である。
- b そのようすは、「戦時下のベトナムに代表される」ものである。
- c 「比喩的」な表現である。

とくに注意してほしいのはb。「戦時下のベトナムに代表される」「混乱のようす」というのだから、ベトナムの混乱の状況を表現していると同時に、それ以外の場の同様の状況をも表現しているような語句が正解になると考えられる。またcの条件があるのだから、その混乱のようすが直接的

イ 選択肢前半が、①の内容に該当していない。新聞報道は、本来「客観的」なものではないのである。

ウ 選択肢前半の内容が①と逆であり、後半も②と逆である。本来の認識とは「主観的」な行為であり、それを「客観的」だと取り違えてしまうのが、ここで問われている「逆立ちした考え方」なのである。

エ これも選択肢前半の内容が①に該当していない。報道とは、本来「ありのままに伝える」ものなどではないというのが筆者の意見である。また、「世界の変化を確率的に示唆する」というのも、本文に述べられていない内容である。

オ これは選択肢後半が誤り。認識Ⅱ報道を「主観と客観との相互作用」だとするのは、「勘違い」などではなく、筆者の考える本来の望ましいあたり方である。

問七 まず、傍線部に至る二つの段落などを読んで、筆者のとった行動を確認してほしい。クーデターについてのスクープをものにしたとき、林記者は、どこの新聞社よりも早く、それを短い記事にして送った。これは、いわば「情報」としての記事を送ったということであろう。しかし筆者は、單に「情報としてではなく」、「論理的判断」や「現状認識と推理」にもとづいて、「長い記事」を書いている。

この問題で問われているのは、筆者のこうした行為の前提にある、「報道について」の「考え方」である。そして問五・問六などでも見えてきたように、筆者は「報道とは主観的なものである」とか、「報道とは主観と客観の相互作用である」とかいった考え方(→a)をもっていた。こうした考え方をもっているからこそ、情報としての短い記事で満足することなく、自分なりの推理や判断にもとづいた「長い記事」を書いたということなのだろう。

また、自分なりの判断や推理にもとづいて長い記事を書くという筆者の態度は、ストリングナーであることに甘んじるのではなく、コレスポンデン

トであろうとする筆者の考え方を示しているともいえる。そして、コレスポンデントがどういう存在かということは、本文前半の終わり近くの部分に述べられていた。コレスポンデントは、「情勢の全体の動きのイメージの中でニュースを捉える」なければならない(→b)。そして、「一定の期間内の事態の動きをできる限り綿密に追って」いく(→c)。そのうえで、「自分の見通しを少しずつ形成していく(→e)」ことが必要なのである。さらに筆者は、その際には「單なる既成の図式や観念のおしつけ、個人的でしかない感情の露出」をできるだけ避け、あくまで「論理的判断」にもとづくべきだ(→d)とも述べている。

以上が、筆者の行為の前提になつていて、「報道についての考え方」である。これを整理すると次のようになるので、これらの内容を制限字数内にまとめればよい。

a 報道とは主観と客観の相互作用である(報道とは単に客観的なものではありえない)ことを自覚したうえで、次のようない報道を行うべきである。

←

b 情勢の全体の動きのイメージの中でニュースを捉える。

c 事態の動きをできる限り綿密に追う。

d そこから論理的判断を導き出す(單なる既成の図式、観念のおしつけや、個人的な感情の露出は避ける)。

e 自分なりの意味づけや見通しを形成していく。

問八 傍線部やそこに至るまでの筆者の心境は、「誇り」と「むなしさ」という言葉に集約できるだろう。

筆者は、クーデターについての自分の予想が正しかったことを知ったとき、林記者とともに「やったぞ」と大喜びする。そして、深夜の街を輪替

ことになり、正解としては不充分である。

イ これもアと同様、aについての説明が繰り返されているだけである。

また、「自然現象が人間に對して被害を及ぼしたとき」も誤り。そうした場合には、たとえば気象台への批判などの「主觀性」が混入されるのである。

ウ 「万人が同じような自明の判断や評価を下すことはできない」が、右のbと矛盾している。

オ 「bではあるが結果的にそれがaであるかのように感じられる事件」という趣旨の選択肢だが、そうしたこととは本文には述べられていない。aとbとは並立しているだけであり、その両者の間に因果関係などがあるわけではない。

問六 これはやや難問だが、本文の主題にかかる重要な問題でもある。

問われているのは傍線部の「逆立ち」の意味だが、「逆立ち」というのは一般に、〈本来あるべき状態がひっくり返っているさま〉のことを指す。しかもこの傍線部で述べられているのは、「世界とその認識」についての「逆立ちした考え方」である。したがって、①「世界とその認識」について、筆者は本来どうあるべきだと考えているのか、②それがひっくり返つていふとはどういうことか、という二点について考えれば、自ずと正解が得られることになる。この二点について、それぞれ確認してみよう。

① 「世界」と「認識」の本来あるべき關係とは

筆者は、「報道」も「認識」のひとつの方であり、それはどうしても主觀的にならざるをえないものであると述べていた。ということはもちろん、「認識」も主觀的な行為だということである。たとえばベトナム戦争といふのは變化しつづける「世界」のある様相を示したものだが、それをどのようなものと捉えるか、つまりどのように認識するかは、当然、個人によつて異なつてくる。言い換えれば、ベトナム戦争という事象は、誰が

見ても同じに見えるような客觀的なものではなく、個々人の見方によつて異なるものに見えてくるということだ。これはつまり、世界とは客觀的・絶対的に存在しているものではなく、個々人の認識を通じて主觀的に捉えられ、個々人によって違つたものに見えてくるものだということであろう。傍線部直後で筆者は、「報道者自身の主觀がにじみ出でてくる」ような「不安で不確定な報道の姿」こそが「本来的」だと述べているが、これも、右のような考え方にもとづくものである。

② ①を「逆立ち」させた考え方とは

これについては、①を逆にした考え方というものを想定してみればよい。それはつまり、認識を通じて世界が見えてくるという考え方ではなく、世界とはあらかじめ客觀的・絶対的なものとして存在しているとする考え方である。たとえばベトナム戦争の真実というのは、個々の報道者によって捉え方の違つてくるような主觀的・相對的なものではなく、絶対的なものであり、報道はただそれを客觀的に伝えればよいのだという考え方——これが、①を「逆立ち」させた考え方ということなのである。傍線部直前にある、ベトナム報道が「偏向」しているという「批判」も、右のような「逆立ち」した考え方にもとづいているのである。

以上のことにもとづいて正解を選べばよい。どの選択肢も(○)であるにもかかわらず××になつていて、「逆立ち」したかたちになつてるので、○○が①、××が②の内容になつていてるものが正解だ。こうした観点から選択肢を比較検討すれば、アが正解だとわかるだろう。「世界は認識によつて見えてくるものである」というのが、①のような本来のあり方。にもかかわらず「あらかじめ対象として存在している世界を人間が客觀的に捉えるべきだ」と考えてしまう人々がいるが、これは②のような「逆立ち」した考え方をしている人々だ。そうした人々が、〈新聞報道は客觀的であるべきだ〉といった安易な批判を、筆者に向けてくるというのである。他の選択肢についても見てみよう。

策」のどちらかが入るということがわかる。「布石する」という言い方はしないが「画策する」という言い方はするので、この時点ではじめて、

E 「○○を表す」という慣用表現を作る語という観点から、オ「敬意」を選べばよい。「敬意を表す」とは、「相手を敬う気持ちを表す」という意味。ここで筆者は、スクープのもとになる事実を直接聞き出してきた林記者に「敬意を表して」、そのスクープを自分の手柄にするようなことはしなかつたのである。

F 「○○に乗つかる」という慣用的な表現の一部になる語を選ぶ。正解は

キ「尻馬」。「尻馬に乗る」とは、「人の後にくつついでその人と同じことを行つ」という意味。ここでは、「他人の努力の後にくつついで、その功績を自分のものにする」といった意味で使われている。

問三 四字熟語の一部を答える知識問題。X「試行錯誤」は「失敗や過ちを繰り返しながら、あれこれと試みてみること」、Y「意味深長」は「物事の奥に深い意味があるさま」という意味である。

問四 まずは傍線部を含む部分の意味を確認しよう。【本文解説】の前半①。

【2】などでも確認したとおり、筆者は、報道とは基本的に主観的なものだと主張していた。これはつまり、どんなに客観的であろうとしても、そこには必ず主觀が入りこむということである。だからこそ筆者は、自らの報道が主観的だということを「自覺」するべきだと述べていた（傍線部b直前など）。ところがそうした自覺がなく、自らの報道は客観的だと楽天的に信じてしまっているものは、無意識のうちにその報道に主觀が入りこんでいるにしかわらず、そのことに気づかない。こうした報道は読者をだますようなものだ。——以上のような内容が、傍線部を含む部分で述べられてることである。

ここでは傍線部とほぼ同じ意味で使われている単語を答えればよいのだ

から、右と同様のことが述べられている部分を探してみればよい。注目すべきは、傍線部bの少し前の部分。ここに、「（自身の報道が）客観的だと思ひこんでいる」者はじつは「鈍感」なのだと述べられているが、これは、傍線部を含む部分で、「（自身の報道が）客観的だと信じこんでいる」者はじつは「無意識」のうちに主観的になつていて、と述べられているのとほとんど同内容である。そしてこれらの二箇所を比べてみると、「鈍感な」という語が、傍線部にある「無意識の」という語とほぼ対応しているということがわかるだろう。したがつて、この「鈍感（な）」という単語を抜き出せば正解となる。

問五 傍線部の「特殊な例」とは、もちろん「誰が書いてもほぼ同じ記事ができる事件」の場合である。【本文解説】の前半①で確認したように、筆者は、こうした例として二つの場合をあげていた。それは以下のような場合である。

a 「純粹な自然現象」の場合——たとえば、熱帶性低気圧の発生といった事象を報道する場合

b （aとは違つて人間のかかわる事件ではあるが）その事件に対して「万人共通の自明の判断と評価」が下せる場合——たとえば、ダンプカーが横断歩道を通行中の小学生をひき逃げしたというような事件の場合

以上のa・bの内容を満たしている選択肢という観点から、工を選べばよい。「人間とはまつたく無関係に生じた事件」がa、「人間がかかわったとしてもそれに対する人々の見解がわかりきつていてると考えられるような事件」がbに、それぞれ対応している。

他の選択肢については以下のとおり。

ア 「熱帶性低気圧の発生などのように自然界で発生した事件」も、「人間がまつたくかかわることなく発生したと判断できるような事件」も、ともにaについての説明。したがつてbについての説明が一切ないという

- ・そのうえで、情勢全体の動きのイメージの中でニュースを捉え、事態を綿密に追いながら、そこから自分なりの意味づけや見通しを論理的に導き出すべきである。
- ・そうした正しく主観的な報道を行えることは誇りであるが、そこに同時に不安もつきまとつ。

そして本文後半部分では、右のようなあり方を筆者がいかにして実践したかということが、具体的に述べられているのである。

「報道」とは、ある人間が事件や世界をどう「認識」するかということでもある。そして認識という行為が個々人によつて主体的に行われるものである以上、報道も主観的なものにならざるをえない。こうしたこと自覚することなしに、ただ報道は客観的であるべきだなどと主張しても意味はない。自らの行為が主観的であることを自覚しながら、できるだけ客観性をも備えた説得力のある記事を書こうとすること。こうした態度からこそ真実が見えてくる。——筆者はおそらく、こんなふうに考えているのだろう。そしてこの主観と客観との相克という問題は、報道だけでなく、人間の生き方や行為のさまざまな局面にも通じているはずである。

【設問解説】

問一 漢字力・語彙力は、読解を支える重要なものである。漢字の読み書きやその意味については積極的に覚えていくよにしてほしい。

aは「動乱」という語に続く言葉だから、「渦中」しかない。「渦中」とは文字どおり(渦の中)という意味であり、そこから(混乱の中)といった意味で使われる。bは「虚心」で、「先入観をもたない素直な気持ち」といった意味で使われる。「虚心坦懐」という四字熟語も覚えておきたい。「虚心に務める」という言い方はあまり見かけないかもしれないが、ここでは、わだかまりのない気持ちで正直に努力するというような意味であろう。c「露出」は、「露わになる」と。dは「急迫」と書き、「こ」が激に迫っている

という意味。e「幹部」は、「組織の中心にいる者」という意味である。「一生懸命」という意味の「必死」と間違いややすいが、ここではクーデターがこれから起きたにちがいないということを予想して記事を書いているのだから、「必ずそに至る、必ずそなる」という意味の「必至」を答えなければならない。

問二

こうした空欄補充の問題では、まず空欄前後の文脈の内容を正確に把握すること。そのうえで、感覚的にではなく、つねに理由づけをしながら答えを決めることが大切である。また、選択肢の語の意味・用法を知らないと答えようがないので、日頃から語彙力の充実に努めることも心がけてほしい。

A

「予防」という語の後につけ使える語は、選択肢の中ではエ「措置」しかない。「措置」とは(取りはからうこと)、処置すること」といった意味。「予防措置」とは、予防のためにあらかじめ何かしておくことという意味になる。

B

これも「戦術」という語が後ろにつく語を選べばよい。正解はイ「陽動」。「陽動戦術」あるいは「陽動作戦」とは、「敵を欺くため、わざとある行動に出て、敵の注意をそちらに逸らす作戦」のことである。

C

空欄前後にある「牽制作戦」「アリバイづくり」と並立する意味になる語を選ぶ。すると、「将来のためにあらかじめ何かを配置したり手を打つたりしておくこと」という意味のア「布石」か、「陰であれこれと計画すること」という意味のウ「画策」か、そのどちらかが正解になりそうだということがわかる。設問には「同じものを繰り返し用いてはならない」とあるので、この時点で解答を速断せず、他の選択肢の解答を決めてから、アかウのどちらにするかを決めればよい。

D 空欄を含む部分には、二者かひそかに連絡を取り合つて何かをしようとしている」ということが述べられている。したがつてこの空欄には、先ほどの空欄Cに入りうる語と同じ語、つまりア「布石」かウ「画策」

は主観的であるがゆえの「不安」といったこともつきまとう。この「生き生きと主観的であることの誇り」と、その裏に張りついている「不安」。こうした筆者的心情は、本文の主題のひとつだといつてもいいだろう。

◆後半——ベトナムでの体験

ベトナム戦争とは、一九六〇年頃から一九七五年にかけて、ベトナムの南北統一をめぐって続いた戦争である。そこでは、ソビエト連邦や中国に支援されていた北ベトナム（ベトナム民主共和国）と、アメリカに支援されていた南ベトナム（ベトナム共和国）とが抗争を繰り返していた。

本文後半の舞台となっているサイゴンは南ベトナムの首都だった都市で、本文に出てくる「政府」とか「フオン政府」というのは、そこに一時期成立していた、フオン首相をリーダーとする政府のことである。一方で当時の南ベトナムでは、軍人で政治家でもあるグエン・カーン司令官が勢力を誇っていた。このカーン将軍がひそかに仏教徒指導者たちと結託し、フオン政府を打倒すべくクーデター（非合法手段による政権奪取）を起こそうとする。このことを、筆者は林記者と協力してスクープすることに成功した。本文後半には、このスクープに至るまでの筆者の行動や心境、さらにその後の思いなどが綴られている。

ベトナム戦争の歴史的経緯などについて、興味がある人は自分で納得のいくまで調べてほしい。ここで読み取ってほしいのは、本文前半部分の内容と、この後半部分の内容との関係である。

本文前半の最後に近い部分で筆者は、自分が望ましいと考える報道のあり方について、次のように述べていた。「情勢の全体の動きのイメージの中でニュースを捉え、またニュースの意味と見通しを書く」「一定の期間内の事態の動きをできる限り縦密に追って、その体験から自分の見通しを少しづつ形成してゆき、眼前の状況の動きとすでに生まれかけている自分の見通しの間で、（主観と客観の）活発な相互作用を働かせる」。そして本文後半では、筆者がこうした態度を実践していたことが、具体的に述べられている。

筆者は、仏教徒指導者たちをめぐるうわさや、反政府デモの動向など、さまざまな情報を入手しているが、これは「事態の動き」を「縦密に追って」いるということだろう。そのうえで筆者は、仏教徒と軍の間には何かがあり、そのことについて知っている重要人物はタム・ジャク師ではないかと考える。

これは、筆者が事態に即してその「意味づけと見通し」を行ったということだろう。そして、筆者がこうしたことを考えることができたのは、「情勢の全體の動きのイメージの中でニュースを捉えていたからであろう。そして今回のクーデター事件については、筆者の「現状認識と推理」は正しかった。筆者はそのことに満足する。しかし、深夜、輪タクに乗りながら、そうした満足感の裏側に「不安」や「むなし」気持ちが張りついているのを自覚する。本文前半の最後の部分にも述べられていたとおり、筆者は、自らの報道が正しく主観的であることに「誇り」を感じつつ、そこに同時に「不安」や「むなし」も覚えているのだ。

〔本文読解のポイント〕

筆者の言いたいことは、本文前半部分では書きつくされている。その内容を簡潔にまとめるところとなる。

- ① **客観的な報道なるものが成り立つのは、特殊な場合でしかない**
客観的な報道なるものが成り立つのは特殊な場合でしかなく、ほとんどの事件の場合は客観的な報道など不可能である。
- ② **報道は、不斷に変化する世界を自ら認識することにもとづく**
報道とは、認識という主観的な行為の一種である。
 - ・しかも、認識の対象である世界というものは、不斷に変化する不確定なものである。
 - ・したがって、報道は主観的なものにならざるをえない。
- ③ **自らの報道が主観的であることの誇り**
報道者は、右の①・②の自覚をもつべきである。

① 客観的な報道なるものが成り立つのは、特殊な場合でしかない

傍線部2までの本文中で筆者は、客観的な報道というものが成立するような事件も一応はあるということを述べている。それは、たとえば「熱帯性低気圧の発生」といったことや、「ダンプカー」が横断歩道を通行中の小学生をひき逃げした」というような事件を報道する場合である。

熱帯性低気圧の発生というのは「純粹な自然現象」であり、人間がかかわっていない事件である。したがって、こうした事件の報道の場合は、「誰が書いてもほぼ同じ記事ができる」(傍線部2直前)わけである。次にひき逃げ事件だが、これは「横断歩道」を歩いていた子供を「ひき逃げ」したというのだから、だれが考えても、運転手の側に過失があるということは判断できる。つまりこれは「万人共通の自明の判断と評価」を下すことが可能な事件なのであり、こうした事件の報道の場合も、やはり「誰が書いてもほぼ同じ記事ができる」のである。

しかし筆者は、右のような場合は「特殊な例」(傍線部2)にすぎないと述べる。逆にいえば、ほとんどの事件の場合は客観的な報道など不可能だといふのである。

② 報道は、不斷に変化する世界を自ら認識することにもとづく

傍線部3に続く部分で筆者は、報道とは「報道者自身の主観がじみ出てくる」ような「不安で不確定な」ものであり、けつして「客観的ではありえない」ことだと断言している。こうした筆者の見解は、どのような考え方から生じているのだろうか。

まず、筆者が「報道」という行為を「認識のひとつのある方」であると考へている点に注意しよう。「認識」とは、対象がどういうものかを見定め、その意味を理解することだ。たとえばベトナムで起きた事件について「報道」しようと思つたら、それがどういう事件でどういう意味をもつてゐるかといふことを「認識」しなければならない。そして認識とは、人間が個々人で行うものである以上、主観的なものにならざるをえないものである。

さらに筆者は、傍線部1に続く部分で、戦時下のベトナムで起きていることは「交通事故や火事のように、一回きりで完了する事件ではない」と述べる。その様子は、たとえていえば「不斷に（＝絶え間なく）うごめきまわるアミーバ（＝アメーバ）の不定形のうごめき」のようなものなのだ。そして筆者は、そのように不斷に変化していく様相こそが「世界の基本的な在り方」だと主張しているのである。

世界そのものが不斷に変化しており、そうした世界を一人一人の人間が自ら「認識」して「報道」する。となれば、「報道」という行為が主観的なものにならざるをえないのは当然だろう。そして筆者は、世界を「認識」すること、ひいては「報道」という行為は、「観測主体との相互作用」あるいは「主観と客観の相互作用」であると結論づけるのである（この「相互作用」については【設問解説】の問六であらためて説明する）。

③ 自らの報道が主観的であることの誇り

筆者やその仲間たちは、ベトナム報道を通じて、自らが単なる「ストリング」ではなく「コレスボンデント」であるということを証明しようとした。コレスボンデントとは、単なる断片的な情報の提供者ではなく、「情勢の全体の動きのイメージの中でニュースを捉え、またニュースの意味と見通しを書くことのできる報道者」のことだ。

当然、そうしたコレスボンデントの報道には、「自分」なりの「意味づけと見通し」が含まれることになる。したがって、コレスボンデントと呼ばれるにふさわしい報道者は、「正しく主観的であることをおそれべではない」と筆者は主張する。「正しく主観的である」とは、単に既成の図式や観念のおしつけを行つたり、「個人的でしかない感情の露出」を行つたりするのではなく、「主観と客観の相互作用のより生き生きとしたあり方」に努めようとしているのであろう。

こうした筆者の主張からは、自分の力で事件を観察し、その意味を自分なりに考え、報道するということへの「誇り」が感じられる。ただし、そこには

【国語】

□ 現代文

【解答】

問一	a 湖中	b 虚心	c 露出	d 急迫	e 幹部
問二	A エ	B イ	C ア	D ウ	E オ
問三	X 錯誤	Y 意味			
問四	鈍感な（鈍感）				
問五	エ				
問六	ア				
問七	報道は主觀と客觀の相互作用だということを認め、情勢全体の動きをイメージしながら事態の動きを緻密に追い、そこから論理的に形成される自分なりの意味や見通しを伝えるべきだという考え方。（89字）				
問八	ウ				
問九	不斷に	—	—	めき	
問十	オ				

【配点】 (80点)

問一	2点×6	問二	2点×6	問三	2点×2	問四	6点
問五	6点	問六	6点	問七	14点	問八	7点
問十	7点			問九	6点		

【出典】

日野啓三『ベトナム報道』より、第三章「動乱の報道」の一節。途中、省略した箇所と、表記を改めた箇所がある。本書は、一九六六年、現代ジャーナリズム出版会から刊行された。今回の本文は、講談社文芸文庫（二〇一二年一月）に挿している。本書は評論とルポルタージュとを融合させたような作品で、作家としての筆者の原点を示すものだといえるだろう。

日野啓三（ひの・けいぞう）は、一九二九年生まれの小説家。東京大学在学中から文芸評論を書き始め、卒業後は讀賣新聞社に入社し、軍政下のソウルやベトナム戦争中のサイゴン（現ホーチミン）で特派員として勤務。その後、小説家として独立した。主な作品に、『あの夕陽』（芥川賞）、『抱擁』（泉鏡花文学賞）、『夢の島』（芸術選奨文部大臣賞）、「砂丘が動くようにな」（谷崎潤一郎賞）、『台風の眼』（野間文芸賞）などがある。二〇〇一年没。

【本文解説】

本文は、途中の一行空きの箇所を挟んで、報道とはどうあるべきかということの論じられた前半部分と、筆者のベトナムでの実体験について述べられた後半部分とに分かれている。それぞれの部分の内容や、その関連性などについて、とくに注意すべき点を確認してみよう。

◆前半――報道とはどうあるべきか

冒頭で筆者は、「人間の書く文章に、無私の客観的文章」というものは存在しない」とはつきり述べている。これは裏を返せば、文章は人間が書くものである以上、基本的には主観的なものだということだ。とすれば、そうしたことは「報道」の文章にも当てはまるはずである。では、なぜ報道は主観的にならざるをえないのか。まず筆者はそうした問題について論じ、さらに主観的であることの自覚の必要性といったことを述べている。筆者の見解を整理してみよう。

自己採点シート

自己採点シートの使い方

卷之三

学習の手引きの「解答」に従って自ら論述問題(記述点が大きい問題)については「設問解説」を読んでみよう。

自習の手引きの「解答」に従つて自己採点してみましょう。
なお論述問題(配点が大きい問題)については「設問解説」の
解説を子題としてお読みください。

満点に付してどれだけ得点しているかを計算し、質問ごとに得点率を計算して、満点を最も近くするよう努力して、特に色塗りは「特に充服」を強すべきである。

2. 説明二にチエック

③何ができていなかつたのか
確認しよう

②でチェックした設問を中心こ何がで
きていなかつたのが確認し具体的に
何をどの程度のベースで学習していく
のか、「今後の課題と学習プラン」を記
入してみまよ。

④成績返却時に統計集を確認しよう
個人成績表と同時に返却された「ANTENNA（赤道計測資料）」には、自分の結果を全国（赤道計測資料）と比較して復習する用意がある。

第1回 全統高1模試

教科・科目	各教科ごとの得点					合計	今後の課題と学習プラン
	1 発音・会話	2 (得点率)	3 文法	4 英作文	5 英文総合翻訳		
英語	/20 (得点率) %☆	/20 (得点率) %☆	/20 (得点率) %☆	/40 (得点率) %☆	/40 (得点率) %☆	/60 (得点率) %☆	(例) 基本的な文法・語法の知識を整理する。
オーラル・コミュニケーション	/20 (得点率) %☆						
数学	中学校用小問題集 (得点率) /30 %☆	数学Ⅰ 数式(因数分解) 中学校用 関数 (得点率) /70 %☆	数学Ⅰ 数式(1次不等式) 图形の性質 (得点率) /50 %☆	数学A 集合の要素の個数 (得点率) /50 %☆	/50 (得点率) %☆	/50 (得点率) %☆	(例) 不得意分野、不安な分野を集中して学習する。
国語	現代文一読解 (得点率) /80 %☆	古文一読解					(例) 思ったより漢字が難しかったので、ドリルで練習する。

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にしておきましょう。

© Kawaijuku 2012 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止